

II. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング 入門～」の取組

1. 平成 27 年度「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施

1) SIH 道場の概要

SIH 道場は、徳島大学の 1 年次学生全員が前期に受講する初年次教育科目であり、各学部・学科で設計したアクティブ・ラーニングの手法を導入した授業において、学生は (1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキルの習得、(3) 学習の振り返りを行う。教員は本授業の担当を通して、アクティブ・ラーニングの手法を学び、授業実践の省察を行う。平成 27 年度 SIH 道場においては、学部 1 年生 1324 名が受講し、188 名の教員が授業を担当した。

SIH 道場の授業設計は各学部・学科単位で行い、「授業設計コーディネーター」が責任を担う。授業設計コーディネーターは、(1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の習得、(3) 学習の振り返りの SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業を設計する。

授業の概要

SIH道場

～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

SIH道場とは、徳島大学の1年次全員が前期に受講する初年次教育科目で、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの習得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

キーワード：専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

◆授業の設計手順

授業は、各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループのメンバーが、設計のための支援を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえることと、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施をしていくための能動的学習の基礎を身につけるような要素を盛り込みます。そのために、下記の内容を必須項目として実施します。

- ①専門分野の早期体験
→先端研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ②ラーニングスキルの習得（反転授業・グループワーク等の実施）
→文章力・プレゼンテーション力・協働力
- ③学習の振り返り（eポートフォリオによる省察）
→学習内容の省察・記録、学生、教員間での共有等

※①～③をそれぞれが関連し、スキルの習得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

◆授業のひな形（1つの例）

※より詳細なひな形は別紙

(1) 導入：大学での学び・動機づけ

①先輩の声「テーマ：○○学科における大学での学びと○○技師」（講演or映像）
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(2) ラーニングスキル入門：学習を行う上で共通する基本技能の習得

①文章の書き方
→反転授業事前学習：レポートの書き方入門
→対面授業：(1)で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

②プレゼンテーションの仕方
→反転授業事前学習：効果的なプレゼンテーションの仕方
→対面授業：(1)で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

③グループワーク（他者との協働）
→反転授業事前学習：アイデアの発想・収束（KJ法）
→対面授業：KJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

(3) 早期体験：○○分野の先端研究・現場体験

①○○現場体験
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。
ルーブリックを用いたピア評価を行う。
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

2) SIH 道場の各アクターの役割

SIH 道場の実施にあたっては、大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会、各学部・学科の授業設計コーディネーター、各学部・学科の授業担当者、総合教育センター教育改革推進部門、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが、授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程において、以下のようなそれぞれの役割を果たしている。

SIH道場 ～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

	授業計画 10月～2月	準備 2月～3月	実施 4月～9月	振り返り 10月～12月
大学教育再生 加速プログラム 実施専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◆AP事業全体像の把握 ◆コーディネーターの選出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の準備状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の実施状況の把握（特に自学部） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り（全体運営） ◆シンポジウムの開催 ◆報告書の作成
授業設計 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の授業概要の把握 ◆授業設計（目的・目標・スケジュール・教材・評価等のシナプスの作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の選出 ◆SIH道場担当者FDに参加 ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、実施するために必要なことすべて 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業担当者の支援 ◆授業実施状況の把握 ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り ◆自己評価シートの作成（自部局） ◆シンポジウムでの報告
授業担当者		<ul style="list-style-type: none"> ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、授業を担当するために必要なことすべて ◆SIH道場担当者FDに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の実施 ◆学生のポートフォリオに対するコメント等のフィードバック ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り（自クラス） ◆授業設計コーディネーターへの報告
総合教育センター 教育改革推進部門	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆FD・説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り（全体） ◆シンポジウムでの報告 ◆報告書の作成（運営・支援）
コンテンツ作成WG	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業設計の支援 ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 ◆担当者へ使い方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆随時相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SIH道場の振り返り（コンテンツ） ◆報告書の作成（コンテンツ）

3) 授業設計コーディネーターの役割

各学部・学科の授業設計コーディネーターは、プログラム単位で授業設計を行い、目的・目標の設定、スケジュール、教材、評価方法の設定等を行うという中心的な役割を担う。その際には、「授業設計概要」、「授業設計詳細」をフォーマットに従い作成し提出する。加えて、授業担当者を選出し取りまとめを行いながら、連携して授業運営を行う。授業の実施後には学生アンケートを行い、教育改革推進部門による集計結果等を参考にしながら、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、実施したプログラムを振り返り自己評価を行い、課題を明確化し次年度の改善点を具体的に記述する。全プログラムの実施内容やその成果と課題については、SIH 道場の全てのプログラムが終了した 11 月頃に開催する「SIH 道場振り返りシンポジウム」において共有を行う。

4) 平成 27 年度の SIH 道場プログラム

平成 27 年度の SIH 道場については、①総合科学部（人間文化学科・社会創生学科・総合理数学科の 3 学科合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科（看護学専攻）、⑤医学部保健学科（放射線技術科学専攻）、⑥医学部保健学科（検査技術科学専攻）、⑦歯学部（歯学科・口腔保健学科の 2 学科合同）、⑧薬学部、⑨建設工学科、⑩機械工学科、⑪化学応用工学科、⑫生物工学科、⑬電気電子工学科、⑭知能情報工学科、⑮光応用工学科の計 15 プログラムが展開された。プログラムごとの SIH 道場授業設計の三つの必須要素の内容については、表のとおりである。

平成 27 年度 SIH 道場プログラム

学部	学科	①体験学習	②ラーニングスキル			③振り返り
			文章力	プレゼン力	協働力	
総合科学部	人間文化学科 社会創生学科 総合理数学科	大塚美術館見学	・読書レポートの作成 ・体験学習レポートの作成	基礎ゼミナールにおいて共同でプレゼン作成・実施		プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う
	医学部	・診療現場体験 ・振り返りWS	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでKJ法を用いて班単位でプレゼン・討議		学生が振り返りを行い教員がコメント
医学部	医科栄養学科	先輩の講演の聴講 （「チーム医療入門」）	WS時にKJ法で出た意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が学んだことを書き、教員がコメント
	保健学科（看護）	「先輩からのメッセージ」聴講	講義および書かせたもののピア評価	「先輩からのメッセージ」でのプレゼンを評価	仕事に対する将来像についてKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（放射）	先端研究の体験	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科（検査）	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせピア評価	「チーム医療入門」でのプレゼンのピア評価	「チーム医療入門」でのKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
歯学部	歯学科	・「気づきの体験学習」 ・「相互歯磨き学習」	・「アカデミック・ライティング入門」聴講 ・読書レポート作成	「PBL・TBL入門」でのプレゼン ・「高齢者交流学習」でのプレゼン	「新入生研修」でのコンセンサスゲーム、ワールドカフェ	学生が振り返りを行い教員がコメント
	口腔保健学科					
薬学部	薬学共通	先輩の講演（「チーム医療入門」）	・WS時にKJ法で出た意見をまとめる ・最終レポート作成	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
工学部	建設工学科	現場や研究室訪問	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習でのプレゼンのピア評価	専門分野のトピックでKJ法	学生が振り返りを行い教員がコメント
	機械工学科	「機械基礎実習」での技術体験	「合宿研修」での書き方指導	「合宿研修」で、グループ作業でディベートを準備・実施		学生が振り返りを行い教員がコメント
	化学応用工学科	・地引網・清掃活動 ・調査・実験	教員が設定したテーマで、グループで発表要旨を作成・発表			グループワークでの自己評価に教員がコメント
	生物工学科	①先輩の声 ②監染体験	体験学習①のレポート作成・ピア評価	体験学習②についてのプレゼン・ピア評価	体験学習②についてKJ法・ピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	電気電子工学科	企業等の見学	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習後に5名程度の半ごとに協働してプレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント
	知能情報工学科	「研究室見学ガイダンス」	体験学習のレポート作成・ピア評価	IT関連の研究内容に関するプレゼン・ピア評価	専門分野のトピックでKJ法・ピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	光応用工学科	作品製作	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習でのグループ製作を行い、プレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

総合科学部（3学科共通）

齊準①：平成27年度SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

		内容			授業実施枠
		事前学習	授業	③学習の振り返り	
到達目標	評価方法・基準				
① 体験学習 大塚美術館の作品を鑑賞し、事前に学んだ方法によりそれを記述することができる。	左記レポートを指示に従って客観的な記述ができていくかなどについてコメントする。	美術史担当教員による絵画の基本的な見方などについては聴講する。デザインライターは、録画の手配などにより次年度以降の事前学習の素材を蓄える。	左記授業をおこなう。学生は大塚美術館を訪問してレポートを作成する。	mahara飛ぶノート「リフレクションシート」を用いて振り返りレポートを作成する。講義担当教員とコーディネーターはレポートを作成し、必要に応じてコメントをフィードバックする。	大学入門講座
文章力	担当教員は、原則として自分が推薦した本を選んで学生に読書レポートにコメントする。さらにはルーブリックに基づいて評価してみる。	学生は、学術的文章の書き方についての講義を聴講する。コーディネーターは録画の手配などにより、次年度以降の事前学習の素材を蓄える。	1. 学術的文章の書き方についての講義を行う。 2. 学生は推薦図書の中から一冊以上を選んで読み、それを踏まえて「読書レポート」を作成する。 3. 提出された「読書レポート」に対して担当教員がコメントとルーブリックによる評価を記入して返却する。	提出した読書レポートについて、6/25に実施する対面指導において担当教員からフィードバックを行う。それをもとに読書レポート全体を振り返る。	大学入門講座
② プレゼンカ	ルーブリックに基づいて評価してみる。	反転授業コンテンツを視聴する。あるいは、プレゼンテーションの方法に関する配布資料を読む、など。	担当教員は学生の事前学修の程度を確認し、必要に応じてプレゼンテーションの方法の要点を説明する。学生は、一定範囲のテーマについてプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。ルーブリックを用いて評価する。	基礎ゼミナールの最終授業において、mahara飛ぶノート「リフレクションシート」を用いて振り返りを行う。教員はコメントをフィードバックする。	基礎ゼミナール （1年前期）
協働カ	同上	グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。	学生は、グループごととひとつのテーマを選び、共同でプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。または、個々にそれを行い、グループ内でルーブリックによる相互評価をおこなう。	基礎ゼミナールの最終授業において、mahara飛ぶノート「リフレクションシート」を用いて振り返りを行う。教員はコメントをフィードバックする。	基礎ゼミナール （1年前期）

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部医学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	医師の役割・業務内容や必要とされる能力を理解し、それらと関連づけて大学における学習について説明することが出来る。	病院ルールについて試験を行う。リフレクシオンシートと振り返りレポートで評価する。	身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報保護、感染制御等に関する資料を学習する。	1) 病院ルール説明、事前学習（オリエンテーション）： 身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報保護、感染制御等に関する授業を受講（4月11日、5月15日）。 2) 診療現場体験（5月22日） 3) 振り返りワークシヨップ（5月29日）	・ワークシヨップ形式で全体振り返りを行う。 ・リフレクシオンシートと振り返りレポートに学んだことを記入し、それらに対する教員コメントおよび評価をeポートフォリオで確認する。 ・教員はコメントをフィードバックする。	病院ルール説明 ・大学入門講座 平成27年4月11日 9:35-10:20 事前学習（オリエンテーション） ・生命健康病気1 5月15日12:50-14:20 診療現場体験 ・生命健康病気1 5月23日13:00-17:00
文章力	これからの大学での学習について自分自身の考えを論理的文章で表現することが出来る。	振り返りレポートをルーブリック評価表で評価する	文章力のビデオ教材（4つの観点） 「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴	・振り返りワークシヨップ終了後に自分の意見をレポートとしてまとめ、提出する。	・レポートの評価結果をeポートフォリオで確認する。 ・教員はコメントをフィードバックする。	生命健康病気1 平成27年5月29日 13:00-17:00 振り返り学習
② プレゼンカ	これからの大学での学習について自分自身の考えを他者が理解できるように効果的にプレゼンテーションすることが出来る。	振り返りワークシヨップルーブリックで評価する（班全体の評価とする）。	プレゼンテーションシヨップのビデオ教材（3つの観点） 「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴	・振り返りワークシヨップで、診療現場体験での経験をもとにKJ法を用いて班単位で作成したプロダクトについて各班の発表と討議を行う。	・リフレクシオンシートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワークシヨップの中でコメントをフィードバックする。	生命健康病気1 平成27年5月29日 13:00-17:00 振り返りワークシヨップ
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り組むことが出来る。	振り返りワークシヨップルーブリックで評価する（班全体の評価とする）。	協働力のビデオ教材（3つの観点） 「協働のためのルール」・「話し手と聞き手のスキル」・「アイディアの発想と収束」の視聴	・振り返りワークシヨップで、診療現場体験での経験をもとにKJ法を用いて班単位での発表と討議の際には追加発現等により発表者をサポートする。	・リフレクシオンシートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワークシヨップの中でコメントをフィードバックする。	生命健康病気1 平成27年5月29日 13:00-17:00 振り返りワークシヨップ

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部医科栄養学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	<p>早期体験学習として先輩の話を聞く（ワークセッションのテーマに沿った先輩の講演を聴講する）。</p>	<p>講演で供覧したビデオについて検討し、リフレクションシートと振り返りレポートで評価する。</p>	<p>WSテーマに関する資料を閲覧する。</p>	<p>WSのテーマに沿った先輩の講演を聴講する</p>	<p>・eポートフォリオに学んだことを記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>大学入門講座 「チーム医療入門」平成27年9月30日13:00-14:20</p>
文章力	<p>プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。</p>	<p>レポートおよびポリーレポート（振り返りレポート）で評価する</p>	<p>文章力のビデオ教材（4つの観点） 「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴</p>	<p>・WS終了後に今回のテーマについて自分の意見をレポートとしてまとめ、eポートフォリオに登録する。</p>	<p>・eポートフォリオに学んだことを記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>大学入門講座 「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>
② プレゼンカ	<p>効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためにツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>プレゼンテーション（3つの観点） 「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴</p>	<p>・3～4班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。</p>	<p>・eポートフォリオに学んだことを記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>大学入門講座 「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>
協働力	<p>・WSを能動的に進めることができる。 ・WSに積極的に参加することができる。 ・他学部学生とコミュニケーションが取ることができる。 ・他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>・KJ法のビデオを視聴する</p>	<p>・講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>・eポートフォリオに学んだことを記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>大学入門講座 「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科 看護学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
①	<p>体験学習</p> <p>看護学分野で活躍する看護職の活動の現場を知るとともに大学において学習方法について学び、専門職への意欲を持つことができる。</p>	<p>レポートの提出</p>	<p>反転授業コンテンツ「SIH道場とは」の視聴</p>	<p>「大学での学び(論文の書き方・プレゼンテーション)」の講義を行う。 「先輩からのメッセージ」というテーマで、看護領域の現場で活躍している看護師・保健師・助産師・養護教諭および大学院生が、新入生へ仕事について授業を行う。</p>	<p>レポートをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施</p>
	<p>大学におけるレポートの作成の方法を知るとともに論理的な文章を構成することができる。</p>	<p>提出物をルーブリックを用いる</p>	<p>反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴</p>	<p>レポートの書き方についての講義をする。ルーブリックを用いピア評価を行う。</p>	<p>レポートをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施</p>
②	<p>効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。</p>	<p>e-ポートフォリオに記入の中で、プレゼンテーションの基本的な手法・ツール等を1つ以上説明している</p>	<p>反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴</p>	<p>「先輩からのメッセージ」のプレゼンテーションを用いた講義を聞き、印象に残ったプレゼンテーションについて、評価、ポイント確認、ブラッシュアップ</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施</p>
	<p>他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。</p>	<p>e-ポートフォリオに記入の中で、他者と協同した成果を1つ以上説明している</p>	<p>反転授業コンテンツ「チーム作業の基本」の視聴</p>	<p>「先輩からのメッセージ」の講義を聞き、仕事に対する将来像についてKJ法ワーク(少人数2~3人・短時間)を実施し、評価を行う。</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施</p>

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科 放射線技術科学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大学における学習と関連させて説明することができる	体験学習の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する	研究室で実施している先端研究の内容を調査しておく	研究室（または教員グループ）に複数の学生を短期間研究室内に所属させて体験学習を行なったのち、発表会を実施する	学んだことをe-ポートフォリオに記入、教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業枠内で実施
文章力	論理的な文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる	体験学習の内容をまとめられたレポートを提出させ、教員が評価する	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	短期研究室体験における指導を通して文章力向上を図る	学んだことをe-ポートフォリオに記入、教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技法を一つ以上説明することができる	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	短期研究室体験における指導を通してプレゼンテーション能力向上を図る	学んだことをe-ポートフォリオに記入、教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業枠内で実施
協働力	他者と協働して一つの課題に取り組むことができる	・体験学習期間中の学習状況を配属先の教員が評価する ・チーム医療入門ワークショップの取り組みに対する評価も加える（評価方法は別途）	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束（KI法）」の視聴	短期研究室配属で協働作業を体験させ、課題解決のための協働力の重要性を認識させる	学んだことをe-ポートフォリオに記入、教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業枠内およびチーム医療入門（LPE）ワークショップで実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科 検査技術科学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
①	体験学習 臨床検査分野における先端研究（現場）と大学における学習に ついて、関連させて説明すること ができる。	レポート提出		「先輩からのメッセージ」を 聞いて、様々な臨床検査の分 野を知り、自分の進路につい て考える。	保健学科大学入 門講座「SIH 道場」内で実施
			③学習の振り返り	考えたことをレポート提 出。教員はコメントを フィードバックする。	
②	文章力 論理的な文章の作成・レポートの 作成において、注意すべき点に ついて1つ以上説明することがで きる。	レポート用紙 を用いる	反転授業コンテンツ 「レポートの書き方 入門」の視聴	「先輩からのメッセー ジ」で 作成したレポートについ て、 ルーブリックを用いたピア評 価、ポイント確認、ブ ラッシュアップ	保健学科大学入 門講座「SIH 道場」内で実施
			反転授業コンテンツ 「効果的なプレゼン テーションの仕方」 の視聴	「チーム医療入門」で実施し たプレゼンテーションについ てについて、ルーブリックを 用いたピア評価、ポイント確 認、ブラッシュアップ	
②	プレゼンカ 効果的なプレゼンテーションを 行うための基本的な手法・ツ ール等を1つ以上説明することが できる。	レポート用紙 を用いる	反転授業コンテンツ 「効果的なプレゼン テーションの仕方」 の視聴	「チーム医療入門」で実施し たプレゼンテーションについ てについて、ルーブリックを 用いたピア評価、ポイント確 認、ブラッシュアップ	保健学科大学入 門講座「SIH 道場」内で実施
			反転授業コンテンツ 「アイディアの発想・ 収束（KJ法）」の視 聴	「チーム医療入門」にてKJ法 ワークを実施し、ルーブリッ クを用いたピア評価を行う。	
②	協働カ 他者と協同して1つの課題に取り 組むことができる。	レポート用紙 を用いる	反転授業コンテンツ 「アイディアの発想・ 収束（KJ法）」の視 聴	「チーム医療入門」にてKJ法 ワークを実施し、ルーブリッ クを用いたピア評価を行う。	保健学科大学入 門講座「SIH 道場」内で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

歯学部歯学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的マナーを守る事ができる。 ② コミュニケーション力を養う事ができる。 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み姿勢を評価する。 ・作成されたレポートを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・術者歯磨きを行うに当たり必要事項をキーワードとして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づきの体験実習」では各ワークで学んだことを参加者間で話し合う。 ・「相互歯磨き学習」ではパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「気づきの体験実習」・「相互歯磨き学習」にて学んだことを文章にまとめ、e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。 	1年次前期：SIH道場「気づきの体験学習」・「相互歯磨き学習」の中で実施
文章力	<ul style="list-style-type: none"> 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。 	提出された「読書レポート」を評価する。	与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「アカデミック・ライティング入門」の授業を行う。担当教員は学生から提出された事前レポートに関するフィードバックを行う。学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。 ・学生は課題図書の中から一冊を選び「読書レポート」を提出する。 ・提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。 ・学生はコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。 	「読書レポート」の書式に従って記載して提出。教員はコメントをフィードバックする。	1年次前期：SIH道場「読書レポート」関連授業において実施
② プレゼンカ	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学生と協議し、教員や他の学生に対して自分の調査内容や考えをプレゼンテーションできる。 ・グループで患者の問題や解決法を討議し、代表者がその討議内容をプレゼンテーションできる。 	e-ポートフォリオの内容から評価する。	課題に関する予習を行う。	「PBL・TBL入門」の課題に関する予習を行い、講義時間にグループでコンテントを作り、プレゼンテーションを行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	1年次前期：SIH道場「PBL・TBL入門」の中で実施
協働力	<ul style="list-style-type: none"> ・WSを能動的に進めることができる。 ・WSに積極的に参加することができる。 ・他学部学生とコミュニケーションが取ることができる。 ・他学部学生と協力してプロジェクトを作成することができる。 	グループブック評価表を用いる（班全体の評価とする）。	グループワークに用いている手法に関する事前資料の内容を理解する。	「新入生研修」では、歯科医療従事者としての心構えなどの課題について「コンセンサスゲーム」や「ワールドカフェ」などによるワークを実施する。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	1年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施
					<ul style="list-style-type: none"> ・e-ポートフォリオに学んだことを記入する。 	大入学入門講座 「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

歯学部口腔保健学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的マナーを守ることができる。 ② コミュニケーション力を養うことができる。 ③ ホスピタリティ・マインドをもつて対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取り組み姿勢を評価する。 作成されたレポートを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 術者歯磨きを行うに当たり必要な事項をキーワードとして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「気づきの体験実習」では各ワークで学んだことを参加者間で話し合う。 「相互歯磨き学習」ではパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 年次前期：SIH道場「気づきの体験学習」・「相互歯磨き学習」の中で実施
文章力	<p>論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。</p>	<p>提出された「読書レポート」を評価する。</p>	<p>与えられた資料(課題)に対する事前レポートを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アカデミック・ライティング入門」の授業を行う。担当教員は学生から提出された事前レポート内容に関するフィードバックを行う。学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。 学生は課題図書の中から一冊を選び「読書レポート」を提出する。 提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。 学生はコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> SIH道場「読書レポート」関連授業において実施
② プレゼンカ	<p>高齢者交流学習の目的を明確にするためにグループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。</p>	<p>グループワーク評価表を用いる(班全体の評価とする)。</p> <p>e-ポートフォリオの内容から評価する。</p>	<p>反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」を視聴する。</p> <p>グループワークに関する事例資料の内容を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことはレポートに記入。教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 年次後期：早期臨床実習「高齢者交流学習」の中で実施 1 年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施
協働カ	<ul style="list-style-type: none"> WSを能動的に進めることができる。 WSに積極的に参加することができる。 他学部学生とコミュニケーションが取ることができる。 他学部学生と協力してプロジェクトを作成することができる。 	<p>グループワーク評価表を用いる(班全体の評価とする)。</p>	<p>KJ法のビデオを視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演内容を参考にしてWSのテーママを作成して班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00
③ 学習の振り返り					

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

薬学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
①	体験学習 早期体験学習として先輩の講演等を聴講し、自分の将来の進路や方向性について、大学における学習と関連づけることができる。	全講演の出席と受講態度を評価する。	SIH道場についてのビデオ教材を視聴する。	「薬学の祖を学ぶ〜こころざし〜」、講演「薬害について」、チーム医療入門で実施する先輩の講演を聴講する。	大学入門講座の中で実施
	文章力 自分自身の考えを論理的に表現することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	文章力のビデオ教材を視聴する。	「チーム医療入門」学んだこと、今後の学習に関する目標についてレポートを作成する。	大学入門講座（チーム医療入門）の中で実施
②	プレゼンカ 効果的なプレゼンテーションを行うためツールを用いて説明することができる。他の班のプレゼンテーションを聞いて討議することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	プレゼンテーション力のビデオ教材を視聴する。	「チーム医療入門」3班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。	大学入門講座（チーム医療入門）の中で実施
	協働力 WSを能動的に進めることができ、WSに積極的に参加することができる。他学部学生とコミュニケーションを取ることができる。他学部学生と協働してプロダクトを作成することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	協働力のビデオ教材を視聴する。	「チーム医療入門」講演内容を参考にWSテーママについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。	大学入門講座（チーム医療入門）の中で実施
				③ 学習の振り返り 学んだことをチーム医療入門でのプロダクト作成に反映させる。e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	
				学んだことをレポートで提出する。e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	
				リフレクションシートに学んだことを記載する。e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	
				リフレクションシートに学んだことを記載する。e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。	

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

工学部建設工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠		
			事前学習	授業			
①	体験学習	自身の専門分野における先端研究(現場)と大学における学習について、関連させて説明することができる。	・レポートの作成の提出 ・プレゼンテーションコンコンテンツの提出	社会基盤分野において各自が興味を持っている事象を調べる。	「大学入門講座」, 「建設基礎ゼミナー」 現場や研究室の訪問・ヒアリングを通じて、現状の問題点やその解決策について、グループ討議, レポート作成, プレゼンテーションを行う。	③ 学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	工学部建設工学科専門科目「建設基礎ゼミナー」の中で実施
				反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	「建設基礎ゼミナー」体験学習で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ		
②	文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物を用いる ルーブリックを用いる	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	「建設基礎ゼミナー」体験学習で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	工学部建設工学科専門科目「建設基礎ゼミナー」の中で実施
				効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束(KJ法)」の視聴		
	プレゼン力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束(KJ法)」の視聴	「建設基礎ゼミナー」体験学習で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	工学部建設工学科専門科目「建設基礎ゼミナー」の中で実施
				効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束(KJ法)」の視聴		
	協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束(KJ法)」の視聴	「建設基礎ゼミナー」体験学習で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	工学部建設工学科専門科目「建設基礎ゼミナー」の中で実施
				効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	反転授業コンテンツ「アイディアの発想・収束(KJ法)」の視聴		

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

工学部機械工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	1. 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。 2. もの作りの基本を理解する。 3. プレゼンテーションの方法を修得する。	実習への取り組み態度を30点、レポート内容の提出状況と内容を70点として評価する。	実習手順書を事前に確認し、内容を理解してから実習に臨むように指導する。	安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したもの作り、ディザインとサーボモータの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。	機械工学科専門科目「機械基礎実習」の中で実施
	② 文章力	自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。	レポートの文章を評価する。	合宿研修時に論理的な文章の書き方に関する指導を行う。	合宿研修「合宿研修」の枠内で実施
③ プレゼンカ	自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができ	レポートでの発表技術を評価する。		大学での事前説明時にディベートの方法や効果的なプレゼン法について指導を行う。	SIH道場「合宿研修」の枠内で実施
	④ 協働力	同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。	レポートの記述内容及び実際のディベート準備作業を評価する。	合宿研修時にグループ作業を行わせ、立論・反論の組み立てを共同で行わせる。	SIH道場「合宿研修」の枠内で実施
				③ 学習の振り返り 当日の実習内容を確認し、注意が必要だった点や手順の意味などの振り返りをレポートに記載させる。	

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

工学部化学応用工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修旅行で北の脇海水浴場へ行き、地引網、清掃活動を行うことができる。 2. 教員が設定したテーマについて調査や実験を行い、グループワークとして発表を行うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席による評価。 2. 3～4人の学生を担当する教員により、学生の学習態度、主体性を評価する。 	<p>高校までの経験</p> <p>学生が主体的に参加する。</p>	<p>ルーブリック評価表で自己評価する。</p> <p>自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	<p>大学入門講座の一環、4/25(土)化学応用工学基礎</p>	
文章力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。 2. グループワークに関する発表要旨を作成し、序論、本論、結論の構成で書ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習内容に関する積極性があればよい。 2. 科学的な思考力でかけていければ良い。 	<p>高校までに鍛えた文章力</p> <p>学生自身を書く。</p>	<p>ルーブリック評価表で自己評価する。</p> <p>自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	<p>大学入門講座化学応用工学基礎</p>	
② プレゼンカ	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラスタメモートの前で自己紹介できる。 2. グループワークをパワーポイントのスライドショーより発表できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介の評価 2. 学生自身ができる範囲で誠実に発表できれば良い。 	<p>高校までに鍛えたプレゼン力</p> <p>学生自身が発表する。</p>	<p>ルーブリック評価表で自己評価する。</p> <p>自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	<p>大学入門講座化学応用工学基礎</p>	
協働カ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協働でゴミ拾いができる。 2. グループワークとしてプレゼン資料を作成でき、グループワークとして発表できる。 	<p>グループメンバーを思いやる気持ちがあればよい。</p>	<p>学生自身が、教員を頼らずに学生同士で協力する。</p>	<p>ルーブリック評価表で自己評価する。</p> <p>自己評価に対して教員がコメントを記入する。</p>	<p>大学入門講座化学応用工学基礎</p>	

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

工学部生物工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。	・レポートの作成の提出	藍染めについてインターネットを利用して自主的に調べる	1. 先輩の声「テーマ：大学での学びと社会」→その内容についてレポートとして文章にまとめる。2. 藍染め体験「テーマ：藍染めと生物工学」→その内容についてプレゼンテーションとKJ法ワークを行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物を用いる	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	体験学習1の内容に対して作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポインタップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	体験学習2の内容に対して作成したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポインタップ	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束（KJ法）」の視聴	体験学習2の内容に対してKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

工学部電気電子工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。	・レポートの提出 ・プレゼンテーション ・コンテントの提出		電気電子工学基礎演習において演習を行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物をループリッ ク評価表を用いて評 価	反転授業コンテンツ <文章力>の視聴・ クイズの解答		学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	教員が行う。	反転授業コンテンツ <プレゼン力>の視 聴・クイズの解答	「電気電子工学基礎演習」で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場枠とし て実施
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り 組むことができる。	教員が行う。	反転授業コンテンツ <協働力>の視聴・ クイズの解答	「電気電子工学基礎演習」で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う。	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場枠とし て実施

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

工学部知能情報工学科

	内容				授業実施枠	
	到達目標	評価方法・基準	事前学習	授業		
① 体験学習	<p>知能情報工学科において取り組んでいる最先端の研究内容について説明できる。将来、自分が取り組んでみたいIT関連の研究内容について説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の提出 最終レポートの提出 	<p>SIH道場内で実施する「研究室見学ガイドダンス」の聴講</p>	<p>学科内の全研究室（10グループ）を見学し、大学院生による研究紹介を聴講する。</p>	<p>見学会で聴講したこと、興味をもった内容、取り組んでみたい研究テーマ等を報告書に記入し、教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>工学部知能情報工学科専門科目「知能情報工学セミナー」の中で実施</p>
文章力	<p>論理的な文章の作成・技術レポートの作成における注意点について説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> レポートの提出 ルーブリック評価表を用いる 	<p>SIH道場内で実施する「テクニカルライティング」の聴講 動画教材の視聴</p>	<p>体験学習で見学した内容をレポートとして報告書にまとめる。</p>	<p>提出された報告書に教員はコメントを付与してフィードバックする。</p>	<p>工学部知能情報工学科専門科目「知能情報工学セミナー」の中で実施</p>
② プレゼンカ	<p>効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツールについて説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションコンテントの提出 発表会の実施 ルーブリック評価表を用いる 	<p>SIH道場内で実施する「プレゼンスキル」の聴講 動画教材の視聴</p>	<p>将来、自分が取り組んでみたいIT関連の研究内容についてプレゼンテーションを行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ</p>	<p>発表会にてプレゼン資料を評価し、教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>工学部知能情報工学科専門科目「知能情報工学セミナー」の中で実施</p>
協働カ	<p>他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価表を用いる 	<p>反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束 (KJ法)」の視聴</p>	<p>専門分野のトピックスについてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。</p>	<p>学んだことをプレゼン資料として作成し、教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>工学部知能情報工学科専門科目「知能情報工学セミナー」の中で実施</p>
③ 学習の振り返り						

SIH道場必須項目設計表 (概要のみ)

工学部光応用工学科

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
①	<p>体験学習</p> <p>光学の基礎である反射，屈折，偏光，回折，結像などの専門知識が，実際の製品（現場）にどのように生かされているかを説明することができる。</p>	<p>到達目標に照らし，レポートの内容により評価する</p>	<p>光技術を応用した製品（デバイスや部品等）の構造，動作原理，メーカー，価格などを調べる</p>	<p>「光応用工学セミナー」で学んだ光学知識・技術を応用した作品をグループ単位で作す。グループで製作した作品について発表し，それについて審査・討論を行う。</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場の授業枠(新入生合宿研修)内および「光応用工学セミナー1」</p>
	<p>文章力</p> <p>論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。</p>	<p>レポートの評価表を用いる</p>	<p>反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴</p>	<p>体験学習で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場の授業枠(新入生合宿研修)内で実施</p>
②	<p>プレゼンカ</p> <p>効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。</p>	<p>レポートの評価表を用いる</p>	<p>反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴</p>	<p>体験学習で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場の授業枠(新入生合宿研修)内で実施</p>
	<p>協働カ</p> <p>他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。</p>	<p>レポートの評価表を用いる</p>	<p>反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束 (KJ法)」の視聴</p>	<p>体験学習におけるグループ製作において、各自のアイデアを出し合い、一つの作品を完成させるまでの過程</p>	<p>学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場の授業枠(新入生合宿研修)内で実施</p>

SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

HBS研究部 医療教育開発センター

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	<p>早期体験学習として先輩の話を聞く（ワークショップのテーマに沿った先輩の講演を聴講する）。</p>	<p>講演で供覧したビデオについて検討し、リフレクションシートと振り返りレポートで評価する。</p>	<p>WSテーマに関する資料を閲覧する。</p>	<p>WSのテーマに沿った先輩の講演を聴講する</p>	<p>大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日13:00-14:20</p>
文章力	<p>プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。</p>	<p>レポートおよび振り返りレポートで評価する</p>	<p>文章力のビデオ教材（4つの観点） 「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴</p>	<p>WS終了後に今回のテーマについて自分の意見をレポートとしてまとめ、eポータルにアップロードする。</p>	<p>大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>
② プレゼンカ	<p>効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためにツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討論に参加することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>プレゼンテーション（3つの観点） 「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴</p>	<p>3～4班合同でプロダクトの発表と討論を行う。</p>	<p>大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>
協働カ	<p>WSを能動的に進めることができる。 WSに積極的に参加することができる。 他学部学生とコミュニケーションが取ることができる。 他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。</p>	<p>KJ法のビデオを視聴する</p>	<p>講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>大学入門講座「チーム医療入門」平成27年9月30日14:30-17:00</p>
				<p>③ 学習の振り返り</p>	
				<p>・eポータルで振り返りシートに記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	
				<p>・eポータルで振り返りシートに記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	
				<p>・eポータルで振り返りシートに記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	
				<p>・eポータルで振り返りシートに記入する。 ・教員はコメントをフィードバックする。</p>	

資料②：平成27年度SIH道場授業詳細

SIH 道場 授業詳細〈総合科学部〉

●大学入門講座（体験学習）

■概要と目的

西洋絵画の見方についての講義を聴いた上で大塚国際美術館を訪問し、作品を鑑賞し、事前に学んだ「デスクリプション」の方法によりひとつの作品を文章により記述する。周知の通りこの美術館は、精確な写真撮影をもとにした実物大の西洋の名画の陶板による模写を多数展示しており、部分的には絵画を含む教会堂の内部空間まで再現している非常に優れた文化施設である。学生は、この美術館の訪問と事前の専門家による指導により、作品群に接して美的感性を触発される機会だけでなく、芸術とその背景をなしている歴史や文学、宗教など文化的諸要素との総合的関連性を知るきっかけを得ることになる。また、デスクリプションの方法により、学生は単なる主観や解釈・作品背景などの予備知識を排した客観的態度で対象に向かい、視覚的イメージを文章化するというひとつの汎用技能を学ぶことになる。

■到達目標

大塚美術館の作品を鑑賞し、事前に学んだ方法によりそれを客観的に記述することができる。

■授業内容

4月10日（金）

9：30～10：15 西洋絵画の見方についての講義（担当：田中佳）

絵画の鑑賞と理解のひとつの方法として、絵についての文章による客観的記述（デスクリプション）の仕方を紹介

資料や記入用紙を配布

10：15～13：00 他の講義・移動・昼食

13：00～18：00 大塚国際美術館見学

大塚国際美術館を訪れ、絵画を鑑賞し、文章による記述を行う。

4月13日までに、作成した文章を学務係に提出する。

■成績評価

学生が作成した文章を田中教員と授業設計コーディネーターが確認し、指示したデスクリプションの方法に従っているかなどをチェックし、フィードバックを行う。

1. 総合科学部

●大学入門講座（文章力）

■概要と目的

「文章力養成」に関して、平成 26 年度においては、二つの講義をおこなったのちに学生に「読書レポート」を課した。27 年度においてはさらにこれを拡充し、「読書レポート」については教員によるコメントやループリックによる評価などを取り入れる。その目的は、第一に若者の読書離れが取りざたされる今日、学生に本を手にしたり図書館を利用したりするきっかけを与えるということ、第二に今後必要となる大学のレポートや論理的な文章の書き方の概略を彼らに理解させるということ、第三にレポート課題の実践と評価により、学生にこの点に関する自己の現状を認識させるとともに、教員も彼らの文章力の実態を把握し、今後継続的におこなうべきアカデミック・ライティングの指導の参考にすることである。

■到達目標

1. 学術的文章の基本的なルールや方法を習得することができる。
2. 大学のレポート、あるいは論理的な文章の書き方という点での自己の現状を認識することができる。

■授業内容

4月6日（月）

大学入門講座 2「学術的発想と書き方」(1) において、山口裕之教員がレポートの書き方に関する講義をおこなう。

4月9日（木）

大学入門講座 2「学術的発想と書き方」(2) において、山口教員がメディア・リテラシーに関する講義をおこなう。（このとき学生に、推薦図書リストに推薦教員＝コメント教員氏名とメールアドレスを付記した表とループリックを渡す。） ついで学生は、約 150 冊の推薦図書の中から一冊以上を選び、みずからテーマを決めて「読書レポート」をワードファイル（A4 で 2, 3 枚）で作成し、締め切りまでに選択した図書を推薦した教員にメールにて提出する。

約 2 か月後（「読書レポート提出期限」）

提出されたレポートは、原則としてその教員によって、ループリックとコメント（レポートのワードファイルの校正機能を使用）により評価され、学生に返却される。（そのさい、一部のコメント教員に負担が集中する場合には、全学共通教育センターなどの教員が補助をおこなう。）

6月の第四木曜日

大学入門講座 8 回目の授業をおこなう。学生はコメント付きのレポートを自分でプリントアウトして持参する。1 年生全員とコメント教員全員が参加し、各コメント教員を中心に対面授業をおこなって、レポートやコメントに関するフィードバック、質疑応答などをおこなう。

■成績評価

ループリック評価表を用いる。

1. 総合科学部

●基礎ゼミナール（プレゼンテーション力・協働力）

■概要と目的

初年次向け前期開講の「基礎ゼミナール」（受講者定員 15 名以下、20 クラス）において、主としてプレゼンテーション力と協働力の養成に関して、以下の到達目標をめざす。この授業は必修であり、学生が各クラスのシラバスを読んだ上で出す希望調査にもとづいて所属クラスが決定される。各クラスの扱うテーマや具体的な内容は、担当教員の裁量により設計されるため、文章力養成、体験学習なども取り入れる場合がある。

■授業内容

プレゼンテーション力と協働力の養成については、すべてのクラスで、少なくとも授業の一部は以下のような要素を含むこととする。学生は、授業の前に反転授業のためのビデオ、または担当教員が作成あるいは採用した教材などを用いて先行的自習をおこなう。また、それぞれのクラスのテーマ・課題の範囲内でグループ・ワーク（ディスカッション・調査・発表内容の作成など）をおこない、その結果を発表する。グループ・ワークとプレゼンテーションを別々の課題設定でおこなうこともできる。以上のプロセスの中で、ルーブリック表を用いて学生が相互評価をおこない、担当教員は全体的なチェックをおこなう。

■到達目標

1. 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
2. 他者と協同して課題に取り組むことができる。
3. 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■各担当教員のクラスで扱われるテーマ・課題の範囲

福田スティーブ利久：研究の面白さを知る。英語力の伸ばし方

田久保浩：アカデミック・スキル

衣川仁：歴史

宮澤一人：オペラ

荒武達朗：時事問題・歴史問題

行實鉄平：スポーツ・ボランティア活動

桂修治（非常勤）：クリティカルリーディング・ライティング、言語

荒木秀夫：アーツ・サイエンスなど

真弓浩三：統計学、確率論

小田切康彦：アカデミック・ライティングなど汎用諸技能

上原克之：基本的人権など

佐原理：ものづくりにおけるデザインプロセス

村上敬一：文章表現など汎用諸技能

小山保夫：将来設計（大学院進学・就職など）

真壁和裕：科学的態度・情報リテラシーなど

1. 総合科学部

川上竜巳：プレゼンテーションなど汎用諸技能・科学雑誌

蓮沼徹：グラフによるモデル化

今井昭二・山本裕史：自然環境体験学習・環境調査など

村田明広：ジオパーク

久田旭彦：科学コミュニケーション

■成績評価

ルーブリック評価表等を用いる。

2. 医学科

平成 27 年度早期臨床体験実習実施要項（担当分野用）

作成：医学部教育支援センター

1. 概要

事前学習、診療現場体験およびワークショップ形式の振り返り学習によって、医師の役割・業務内容、必要とされる能力、およびそれらと関連づけた大学における学習について学生が理解することを旨とする。診療現場見学は体験学習として学修の動機付けをはかり、ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかる。さらにこれら一連の学習によって、学修振り返りの方法を学ぶ。

2. 到達目標（アウトカム）

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明することができる。
- 2) 医学科における学修目標について説明することができる。
- 3) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 4) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 5) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。

3. 対象者 医学部医学科 1 年次 115 名（1 分野あたり 5～6 名）

4. 授業実施方法（「早期臨床体験実習実施手順」、「実施体制表」参照）

大学教育再生加速プログラム「SIH 道場（アクティブ・ラーニング入門）」として実施する。

* 「SIH 道場概要ポンチ絵、ハンドアウト」、「アクティブ・ラーニング理論、ヒント集」参照。

日時	内容	科目	担当
4 月 11 日（土） 9:35～10:20	病院ルール説明	大学入門講座	医療教育学・医療教育開発センター
5 月 15 日（金） 12:50～14:20	事前学習（オリエンテーション）	生命健康病気 1	医学部教育支援センター
5 月 22 日（金） 13:00～17:00	診療現場体験	生命健康病気 1	臨床系分野（原則として臨床実習担当分野）
5 月 29 日（金） 13:00～16:00	振り返りワークショップ	生命健康病気 1	医学部教育支援センター （協力：医療教育開発センター、医療系基盤教育分野）

（注）臨床系各分野は診療現場体験を担当します。病院ルール説明、事前学習（オリエンテーション）、振り返りワークショップについては、当日は医療教育学、医学部教育支援センター、医歯薬学研究部医療教育開発センターの教員が実施しますので、各分野から担当者を出す必要はありません。各分野教員の自主的な参加を歓迎いたします。

5. 評価・フィードバック方法：下記 4 つすべて合格することを必要とする。

- 1) 事前学習では基本的ルールについてマークシート方式の試験を実施する。
合格基準：正答率 80%以上
- 2) 診療現場体験では、終了後に学生が「リフレクションシート」を提出し、各分野の診療現場体験担当教員がそれにフィードバックコメントを記載して学生に返却する。
合格基準：フィードバックコメントで合格と判定（修正再提出を指示されていない）。

2. 医学科

- 3) 振り返りワークショップでは、ワークショップ担当教員が、協働力、プレゼンテーションについて、所定のルーブリック評価表によりグループ単位で評価する。
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) であること。
- 4) 振り返りワークショップ終了後に、学生が「全体振り返りレポート」を提出し、それに対して診療現場体験を担当した分野の全体担当教員が、文章力について、所定のルーブリック評価表により評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) であること。

6. 実施にあたり各分野の担当教員が行うこと（各担当は分担、一人で担当いずれも可）

1) 早期臨床体験実習実務担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験担当者、全体担当者、中央診療部門で実習を行う場合の場所・時間、学生への連絡事項について、「**早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル（〇〇分野）**」に記入し、学務課第一教務係（@tokushima-u.ac.jp）へ、電子メールで提出する（**締切：5月11日**）。*入力用ファイルは電子メール添付で実務担当者に送信します。
- (2) 診療現場体験担当教員、全体担当教員に実習およびSIH道場の概要・実施方法を説明する。その実施報告を「**SIH道場FD・説明会に参加できない教員の対応報告書（〇〇分野）**」に記入し、学務課第一教務係（@tokushima-u.ac.jp）へ電子メールで提出する（**締切：5月21日**）。*説明用資料、対応報告書は電子メール添付で実務担当者に送信します。

2) 診療現場体験担当教員が行うこと

- (1) 診療現場体験当日の学生指導（当日の身だしなみ、健康状態チェックを含む）
*原則として見学型実習スタイルとする。一方的なレクチャースタイルのみとしない。
*事前説明の内容は「**病院ルールハンドアウト**」参照。
- (2) 学生が提出する「**診療現場体験リフレクションシート**」（紙媒体）へフィードバックコメントを記載し、学務課第一教務係に提出（**締切：6月12日**）。
*学生とのシートのやり取りは学務課第一教務係が担当。
*担当教員にはリフレクションシートが6月2日頃に届く予定。
- (3) Mahara システム（Web）に授業実践の振り返りを入力する（**締切：6月30日**）。
*この入力ティーチング・ポートフォリオの作成に該当し、この作成をもってアクティブ・ラーニングの実践型FDへの参加・受講完了となります。
*「**SIH道場担当教員用 Mahara マニュアル**」、「**Mahara 操作マニュアル補足資料**」を参照

3) 早期臨床体験実習全体担当教員が行うこと

- (1) 学生が提出する「**全体振り返りレポート**」（紙媒体）に対して、「**ルーブリック評価シート（文章力）**」（紙媒体）にフィードバックコメントと評価を記載し、学務課第一教務係に提出（**締切：6月30日**）。
*学生とのレポートおよび評価表のやり取りは学務課第一教務係が担当。
*担当教員にはレポートが6月9日頃に届く予定。
- (2) Mahara システム（Web）に授業実践の振り返りを入力する（**締切：6月30日**）。
*この入力ティーチング・ポートフォリオの作成に該当し、この作成をもってアクティブ・ラーニングの実践型FDへの参加・受講完了となります。
*「**SIH道場担当教員用 Mahara マニュアル**」、「**Mahara 操作マニュアル補足資料**」を参照

3. 医科栄養学科

医科栄養学科 SIH 道場<チーム医療入門ワークショップ>

- 目的：** 1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを目的とする。
- 2) 医療人を目指す学生として何をなすべきか、今後の学生生活で何を学び、習得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成をはかる。

到達目標

- ① チーム医療の基盤を形成することができる。
- ② 早期体験学習として先輩の話聞くことができる。
- ③ ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- ④ プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ 法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。
- ⑤ 効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためにツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。
- ⑥ WS に積極的に参加し、他学部学生とコミュニケーションが取りながら、能動的に進め、協力してプロダクトを作成することができるなどの協働力を養うことができる。
- ⑦ 振り返りの体験や気づきを「SIH 道場 振り返りレポート」として e ポートフォリオシステムへ入力することができる。

Key words

チーム医療、IPE：Inter professional education 専門職間教育/研修、医療の質、医療安全 Patient safety、お互いを知る、コミュニケーション、Professionalism、Outcome based curriculum

成績評価

○「SIH 道場 振り返りレポート」

以下の1)～4)を含む「SIH 道場 振り返りレポート」を作成すること。レポートおよびプロダクト（ポスター）の写真は電子媒体で e ポートフォリオシステムに提出する。

1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・体験学習の成果を、期日までにチームで1枚のポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ループリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・1) で作成したプロダクト（ポスター）をつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ループリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- ・発表者はポスターの内容を e ポートフォリオシステムに入力する。

3. 医科栄養学科

- ・ポスターの写真も e ポートフォリオシステムに添付する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力、早期体験の目標に対応）
- ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
 - ・早期体験として「先輩の話を聞く」の一環として、講演会を聴講し、感じたことをレポートとして e ポートフォリオシステムに入力する。
- 4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・レポートの「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること（任意）
- ・レポートに「WS 個人レポート」が添付されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のループリックが添付されていること。（必須）
- ・上記ループリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が 60 点以上であること。（必須）
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なと思った内容（任意）

テーマ：「在宅医療の困り事解決 - 私達はどこまで解決できるか-」

開催日時：毎年 9 月 30 日 12:30~17:00

会場：大塚講堂 1F 大ホール、2F 会議室、歯学部会議室、保健学科 C 棟、
スキルスラボ 5,6,7,8

対象：蔵本地区 1 年生 約 450 名

概要：医療安全、コミュニケーション、災害医療などのテーマで講演を聴講し、テーマに沿ったグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクトを作成・発表・討議する。

タイムスケジュール：

12:30 受付

13:00 全体オリエンテーション

- 挨拶 HBS 研究部長
- ワークショップ・スケジュール説明

3. 医科栄養学科

13:30

- 講演聴講「在宅医療入門—家に帰るという選択肢」

14:30 各ワーキング会場に移動

15:00 グループワーク開始

- アイスブレイキング（自己紹介：一人約1分、tutor から学生全員へ）
- 役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:30 小グループ発表

各班でまとめたことを発表

1会場4班でグループ発表（各発表8分、質疑5分×4班）

全体討論10分（ファシリテーターが司会）

ファシリテーターのコメント、振り返り・フィードバックを行う

16:50 まとめ、アンケート記入（学生、tutor ともにアンケート記入）

17:00 学生作業 終了 解散

17:10 Tutor 反省会（スキルスラボ5,6（医学部第3第4会議室））

班の雰囲気、プロダクト作成に当たって何か不備、不自由、困難はなかったか、そのほかの気づきを検討。

帰宅後、eポートフォリオ入力

事前学習

WSではKJ法で意見の集積を行うため、KJ法についてのビデオを開催日までに各人あらかじめ視聴してもらう。

eポートフォリオ

帰宅後に今回のIPEに参加して「気付いたこと」、「医療人を目指すものとして、今回のIPEは今後に対してどのような影響があったか」など気づき、行動変容にどのようなつながったかをポートフォリオに入力させ、各班のチューターが一言コメントを返すシステムとする。

事後学習

1. eポートフォリオシステム（またはLMS）に、振り返りシート（教員コメント付き）がフィードバックされるので、各人はそれを見てコメントを投稿。
2. SIH道場最終レポートの作成と提出。
3. 他者のSIH道場最終レポートの閲覧と相互コメント（1件以上）

4. 保健学科 看護学専攻

「SIH道場 先輩からのメッセージ」 保健学科看護学専攻

2015年4月新入生用 計画書

コーディネーター：田村綾子

担当教員：宮崎久美子、南川貴子、安原由子、多田美由貴

■目的：徳島大学保健学科看護学専攻の新入生が大学における学習について理解するとともに、自身の専門分野における先輩からの研究や仕事についての講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機付けを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1)自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1)論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- (2-2)他者と協同して一つの課題に取り組むことができる。
- (3)自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■学生への事前指導と教員の事前準備

- ・反転授業コンテンツ「SIH道場とは」レポートの書き方「効果的なプレゼンテーションの仕方」「チーム作業の基本」の視聴を指導しておく。
- ・学生への案内は、4/3(金)のオリエンテーションの午前中に行う。
- ・担当教員も同様に視聴しておく。

■成績評価：「SIH道場 先輩からのメッセージ①②」を以下の合格基準をもとに評価する。

○「SIH道場 先輩からのメッセージ①②」レポート

以下の1)~2)を含む「SIH道場 先輩からのメッセージ①②」最終レポートを作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体を推奨する。

1) 体験学習個人レポート(文章力の目標に対応)

- ・体験学習で学びたいと考えていたこと(事前)、実際に学んだこと(事後)、今後の目標の3点についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
- ・ループリック「文章力」に該当する全ての項目について、自己評価する。

2) 「SIH道場 先輩からのメッセージ①②」での収穫

4. 保健学科 看護学専攻

○【「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」での合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目を全て満たすこと。

- ・レポートに「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」の体験学習個人レポート」が添付されていること。(必須)
- ・「自己評価」と「文章力」のルーブリックが添付されていること。(必須)
- ・上記ルーブリックの「文章力」の総合点が6割以上であること。(必須)
- ・「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全く無い場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。(必須)
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容。(任意)

■授業内容：60分×1回＋体験学習「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」の講義
体験学習を通して、将来の仕事について考える。

1回目 体験学習の事前学習(文章力の育成)

～専門分野の早期体験(先輩からのメッセージ①②の講義を聴く)

■授業後に担当教員がおこなうこと：

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。

■「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」終了後に担当教員が行うこと

1)担当クラスの学生が提出した「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」の添削

- ・不合格者には「再提出」を出す。
- ・合格者には点数をつける。(100点満点)

3)「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」実施報告書の提出

- ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word版、eポートフォリオ版がある)
- ・提出先は、eポートフォリオシステム上とする。

3)他の担当教員の「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」実施報告書の閲覧と相互コメント

■終了後にコーディネーターが行うこと。

- ・担当教員の「S I H道場 先輩からのメッセージ①②」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

4. 保健学科 看護学専攻

授業【1回】

○事前学習

1. ビデオコンテンツを見る(「SIH 道場とは」「レポートの書き方」「効果的なプレゼンテーションの仕方」「チーム作業の基本」)。「SIH 道場とは」「レポートの書き方」「チーム作業の基本」は必須。その他は、9月までにみる。
2. 事前課題として、文書レポート作成する。テーマは、「S I H道場 先輩からのメッセージ②」で学びたいこと。

○授業内容(90分; ◆講義、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 教員5名の自己紹介、出席確認、最終課題の確認、今日の課題の確認、文書レポートの提出 導入の最後に、事前課題をやっていない人がわかっていることを通告	授業内容ではなく、最終課題(SIH 体験学習個人レポートと合格基準)を説明する。
15分	●事前学習の確認 ミニテストと質疑応答	
20分	▲サンプルレポート(例示悪い例)のチェック ・個人でサンプルレポートのチェックをする ・個人の添削結果をすり合わせ、グループとしての評価結果+改善案をまとめる ・教員が模範解答を提示する(グループの結果とあっているか確認)	評価視点:ループリック評価 いきなりペアチェックをしても「評価スキル」が低い学生がいるので、悪い例を題材に、クラス全員で評価基準をすり合わせる。
30分	▲ペアによるチェック(10分×3人 or 2人) ・学生同士のペアをつくり、事前に作成した文章をお互いにチェックし、フィードバックを行う ・ペアを変えて2回以上行う	評価視点:ループリック評価 教員は机間巡視し、評価に迷うペアにアドバイス。
10分	▲グループディスカッション ・できの良いレポートの確認	グループ内から選出か、あらかじめ模範レポートを用意したものを提示する
5分	●振り返り ・授業全体を振り返り、一言コメントと自己	評価視点:ループリック評価 振り返りシートに記載する。

4. 保健学科 看護学専攻

	評価を振り返りシートに書く	シートは回収する。
5分	◆クロージング ・「S I H道場 先輩からのメッセージ②」を聞いた後、レポート作成とループリックによる自己評価を添付して教員に提出 ・振り返りシートの提出	

○事後学習

1.e ポートフォリオシステムに振り返りシート(教員のコメントつき)がフィードバックされるので、各人はそれを見てコメントを投稿。

5. 保健学科 放射線科学技術専攻

平成 27 年度 SIH 道場 授業詳細

～放射線技術科学専攻「短期研究室体験」～

■目的： 本学放射線技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学修の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標： (1) 短期研究室体験によって専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大学における学修と関連させて説明することができる。
 (2) 論理的文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。
 (3) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を一つ以上説明することができる。
 (4) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。

■成績評価： 文章力の評価として、研究室体験の感想を文章にまとめて提出させ、教員が評価する。プレゼン力の評価として新入生全員が参加する体験学習の報告会を開催し、プレゼンテーションを教員が評価する。

■授業実施方法：

日時	授業名	内容	担当
4月8日(水) 9:30～10:00	SIH 道場の概要説明	SIH 道場の目的、到達目標、本専攻における短期研究室体験等の概要の説明	吉永哲哉 森田明典
4月10日(金) 9:00～17:00	SIH 道場の実践 短期研究室体験オリ エンテーション	各研究室の紹介、事前学習～配属先の決定、配属先の専門分野に関する課題のレポート作成・提出	専攻全教員
4月～9月ま で1～数日程 度の短期研 究室配属	各研究室体験テーマ		
	環境試料の前処理, 分離精製, 元素分析・放射能測定ほか		阪間 稔
	細胞の DNA 損傷部位の可視化		森田明典
	人工知能技術の医用画像分野への応用		近藤 正
	画像再構成・強度変調放射線治療計画を体験しよう		吉永哲哉

5. 保健学科 放射線科学技術専攻

	組織の X 線吸収差を利用した画像化技術		上野淳二・高尾正一郎
	代謝・機能の画像診断		大塚秀樹
	放射線治療計画・高精度放射線治療の品質保証・品質管理		生島仁史・富永正英
	胸部 X 線写真の世界的な情勢と画像の形成から評価まで		西原貞光
	心理学測定法によるモニタ輝度低下の評価		井村裕吉
	X 線画像を用いた物質同定		林 裕晃
	核磁気共鳴画像(MRI)を中心とした非侵襲的イメージング手法と解析法の研究		金澤裕樹
9月29日(火) 15:00~18:00	短期研究室体験報告会	各配属グループでプレゼンテーション	専攻全教員
9月30日(水) 13:00~17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター

■ 授業実施計画:

1) SIH 道場の概要説明 (4/8 (水) 9:30~10:00 実施予定)

【概要】保健学科大学入門講座として行われている専攻別オリエンテーションにおいて、SIH 道場の概要説明を行う。その際、事前学習として課す反転授業コンテンツについても説明する。

2) SIH 道場の実践～短期研究室体験オリエンテーション (4/10 (金) 9:00~17:00 実施予定)

【概要】各研究室の体験内容の紹介。紹介の際に、研究室ごとにそれぞれの専門分野、体験内容に関する重要事項を学ぶための基礎的な課題を課す。新入生それぞれの配属先を決定後、配属グループごとに図書館等で調べさせ、課題の解答をレポート形式で教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。

【事前学習】反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」視聴。

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバック、教員はポートフォリオ作成。

3) 短期研究室体験 (4月~9月まで、各研究室にて1~数日程度実施予定)

【概要】授業実施方法欄の各研究室テーマに配属学生が取り組む。短期研究室体験における指導を通して、文章力およびプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、協働作業を体験させることで課題解決のための協働力の重要性を認識させる。

【事前学習】反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束 (KJ 法)」の視聴

5. 保健学科 放射線科学技術専攻

【授業後】体験内容に関する学生からの感想文提出、教員による感想文の評価、学生へのフィードバック、教員はポートフォリオ作成。

4) 短期研究室体験報告会 (9/29 (火) 15:00~18:00 実施予定)

【概要】各研究室の体験内容について、学生が配属グループごとにプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは配属学生が分担して口頭発表する全員参加形式とし、発表内容の評価は担当教員中心に行う。

【事前学習】反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴

【授業後】学生の感想を来年度以降の授業の参考とする。

5) 蔵本地区チーム医療入門ワークショップ (9月30日(水) 13:00~17:00 実施予定)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

6. 保健学科 検査技術科学専攻

平成 27 年度保健学科検査技術科学専攻 S I H 道場授業詳細

保健学科検査技術科学専攻新生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野である臨床検査学の先端研究や現場の体験を通して、臨床検査学への興味関心を喚起し、大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、協働力、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

1. 概要

事前学習、体験授業（「先輩からのメッセージ」「大学院のすすめ」）、振り返り学修（「将来像を描く」レポート作成）によって、臨床検査技師の役割を理解し臨床検査学分野に対する興味関心を高め、自身の将来像について考える。またラーニングスキルを獲得（文章力：「将来像を描く」レポート作成、プレゼンテーション力：「新入生研修」「チーム医療入門」での発表、協働力：「新入生研修」「チーム医療入門」でのグループワーク）して、大学における学修の基本となる能動的学修の基礎を身につけ、学修を振り返る習慣をつけて、自ら学修を計画し実施できる大学生となる。

2. 目標

- 1) 臨床検査学の幅広い分野を知る。
- 2) 臨床検査技師の検査における役割を理解する。
- 3) 臨床検査学分野における大学院や科学的研究について知る。
- 4) 将来像について考える。
- 5) 文章力を身につけ、科学的なレポート作成ができる。
- 6) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 7) 学修を振り返り、学修計画を立てて実施することができる。

3. 成績評価

授業の出席、提出レポートにより評価する。レポート評価に際してはルーブリック「文章力」により行う。なおレポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

6. 保健学科 検査技術科学専攻

4. 授業実施方法

日時	授業名	内容	担当
4月3日(金) 10:10~12:00	先輩からのメッセージ	早期体験	香川典子、西田敏信、(協力:衣川尚和)
4月7日(火) 9:00~10:30	将来像を描く	ラーニングスキル(文章力)	香川典子、西田敏信
4月11日(土) 13:00~16:30	保健学科新入生研修 ワークショップ	ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	総合教育センター、(協力:香川典子、片岡佳子)
6月11日(木) 18:00~19:30	大学院のすすめ	早期体験	香川典子、齋藤 憲、細井英司、片岡佳子、近藤和也、安井敏之
9月30日(水) 13:00~17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター (協力:香川典子、富永辰也)

5. 授業実施計画

1) 先輩からのメッセージ (4/3(金) 10:10~12:00 実施予定)

【概要】保健学科大学入門講座として行われている「先輩からのメッセージ」では保健学科各専攻の卒業生 3名が、各専攻の概要、卒業後の進路等について説明し、後輩の新生に向けて年齢的にも学生に近い立場からの先輩としてのエールを送る。この授業のうち、検査技術科学専攻卒業生からのメッセージから、早期体験(疑似体験)して自分の将来像について考える。

【準備】検査技術科学専攻卒業生の発表用パワーポイントをMoodleに掲載する。学生に対して、予めMoodleによる事前学習をしておくように指導する。

【事前学習】Moodleによる事前学習を必須とする。

【授業後の課題】将来像を描くレポート課題があるので、4/7までにレポート作成を指導する。

2) 将来像を描く (4/7(火) 9:00~10:30 実施予定)

【概要】保健学科大学入門講座として行われた「先輩からのメッセージ」を聞いて、「将来像を描く」レポートを作成する。レポート作成にあたっては、大学での能動的学修をめざしてラーニングスキルを獲得するため、文章力を身につけることを目的とする。作成したレポートをもとに、各自でルーブリック「文章力」による自己評価をして、教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。(Mahara利用)

【準備】ビデオ教材「文章力を身につけよう」視聴と「将来像を描く」レポート作成の課題を出す。

【事前学習】ビデオ教材「文章力を身につけよう」視聴。ビデオを参考にしながら、「将来像を描く」レポートを作成。

6. 保健学科 検査技術科学専攻

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバック、教員は教員ポートフォリオ作成。

3) 保健学科新入生研修 ワークショップ (4月11日(土) 13:00~16:30 実施予定)

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、総合教育センターにお願いしてワークショップを行う。ワークショップでは、医療に関する身近な話題をテーマとして、グループでワークを行い、グループごとにプレゼンテーションをする。他グループのプレゼンを見て、各自がグループリック表に従って評価する。本ワークショップではラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)の獲得を目標とする。

【準備】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴を指示。

【事前学習】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴。

【授業後】学生アンケート実施して、来年度以降の授業の参考とする。

4) 大学院のすすめ (6/11(木) 18:00~19:30 実施予定)

【概要】大学院担当教員による大学院の概要説明を聞き、大学院を知り、臨床検査学分野の先端研究に興味や関心を持つ。早期体験(疑似体験)を通して、将来像の一つの選択肢として大学院進学を加える。

【準備】保健科学教育部についてHP等を見て、本教育部にある領域を調べておくように学生に指導する。

【事前学習】HPなどの閲覧。

【授業後】学生アンケートを実施して、来年度以降の授業の参考とする。

5) チーム医療入門 (9月30日(水) 13:00~17:00 実施予定)

医療教育開発センターによる授業詳細参照

歯学部 SIH 道場 <体験学習：気づきの体験学習>

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。
 ② コミュニケーション力を養うことができる。
 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

- Key Points：①学習目標の理解
 ②振り返りからの気づき
 ③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

○事前学習

本体験学習では事前学習を行わず、授業を進める。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、資料（課題・振り返りシート）の配布
10分	●一円玉の気づき：重要な点は何を考える。	一円玉
10分	●個人による作業：参加者とのコミュニケーションを行いながら、与えられた課題を遂行する。	配布資料
20分	▲ペアによる作業：学生同士のペアにより、与えられたコミュニケーション課題を行なう。	
5分	●振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
15分	▲ペアによる再作業：与えられた課題を再度行なう。	
5分	●振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
10分	◆まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く ◆e ポートフォリオについての説明、レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	e ポートフォリオ用授業レポート用紙 SIH 道場冊子（配布済み）

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・e ポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

歯学部 SIH 道場 <協働力：ワールドカフェ>

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成

②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき

③振り返りの経験

○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
3分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ 第1回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第1の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第2回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第2の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第3回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第3の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
20分	● 振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、グループで協働作業をすることやプレゼンテーションについて重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
3分	まとめ	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

7. 歯学部

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

歯学部 SIH 道場<文章力：アカデミック・ライティング入門／読書レポート>

到達目標：

- ① 論理的な文章やレポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- ② 論理的に読書レポートを作成することができる。

Key Points：①ラーニングスキル（文章力）の育成

②振り返りの経験

○事前学習

「アカデミック・ライティング入門」：授業前に与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。

○授業内容（3回の対面授業：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 60分	◆導入「読書レポートについて」 本関連授業の到達目標と授業の概要について説明し、事前学習の課題を与える。	事前学習の課題に関する資料
事前学習	●「事前レポート」の作成 与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。	
2回目 180分	「アカデミック・ライティング入門」 ◆担当教員は学生から提出された事前レポート内容に関するフィードバックを総括して行う。 ●学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。	「アカデミック・ライティング入門」授業のハンドアウト
授業外学修	●「読書レポート」の作成 学生は課題図書の中から一冊（上・下になっているものは合わせて二冊）を選び、事前に示した「読書レポート」の要件に従って記載して提出する。	課題図書7冊
	提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。	
3回目 20分	●振り返り 学生は読書レポートに対するコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。	読書レポート授業振り返り用紙

○授業外学修

課題図書7冊の中から一冊（上・下になっているものは合わせて二冊）を選び、「読書レポート」を規定の要件に従って記載して提出する。

7. 歯学部

(教員はコメントをフィードバックする)。

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成された読書レポート内容から，到達目標に沿った学修が遂行できたか、評価する。
- ・教員コメントの確認および自己評価内容について評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

歯学部 SIH 道場 <体験学習：相互歯磨き学習>

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。
 ② コミュニケーション力を養うことができる。
 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

- Key Points：①到達目標の理解
 ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき
 ③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

○事前学習

本体験学習では事前に相互歯磨きを行うにあたり大切と思うことをキーワードとして考えてきてもらう（課題資料を事前に配付する）。事前に想像力を喚起したうえで、授業に臨んでもらう。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、ワークシート、必要物品の配付
40分	▲ペア同士で相互歯磨きをする。 (20分程度で術者役側と患者役側の交替を促す)	基本的な説明は行うが、あくまでもお互いの思いやりでポジショニングや器具の使い方などを工夫するように促す。
10分	●個人で振り返り 相互歯磨きを振り返り、ワークシートを仕上げる。	ワークシート
10分	▲ペアでフィードバック：相互歯磨きを振り返り、お互いにどんなことを思っていたのかどんなことを気にしていたのかを相互にフィードバックする。	制限時間を設けて、お互いの気持ちを遠慮なく伝えられるような雰囲気を作る。
10分	▲全体に対するフィードバック：人の口を触ることがどんなことか、何を大切に考えないといけないか、各自の考えを発表してもらう。 ◆まとめ：人の口を触ることの意味を再確認する。	発表者が偏らないよう配慮する。 発言に対して短くコメントする。
5分	▲後片付け	
10分	●授業全体を振り返り、授業レポートを作成させる。	e ポートフォリオ用授業レポート用紙

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

7. 歯学部

○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

歯学部 SIH 道場 <PBL 入門>

Key Points : ①問題解決型学習 (PBL) の経験
②振り返りの経験

○事前学習

与えられたテーマ*1について1分間プレゼンテーションの準備を行う。

○授業内容 (90分 ; ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認、グループ分け	グループ (6~7名)
10分	◆臨床症例提示 質問があれば受け付ける。	
35分	▲グループディスカッション 治療に関するディスカッションを行う。	
20分	▲いくつかのグループによるプレゼンテーション グループディスカッションの内容を発表する。	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	◆まとめ 次回の授業の予告、TBL 資料配布	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

注釈

★*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ : 40~45名程度

歯学部 SIH 道場<TBL 入門>

Key Points : ①チーム基盤型学習 (TBL) の経験
②振り返りの経験

○事前学習

予習資料を学習する。

○授業内容 (90 分 ; ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5 分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	
10 分	●個人テスト 予習内容に関して個人テストを実施する。	
15 分	▲グループテスト 個人テストと同じ内容の試験をグループでディスカッションして解答する。解答はスクラッチカードで行う。	グループ (6~7 名)
15 分	◆フィードバック グループテストの解答に関して教員がフィードバックする。	
20 分	▲グループ課題 臨床で遭遇することの多い症例に関する問題を与える。臨床現場で遭遇することの多い解答がない症例の方が良い。	
15 分	◆フィードバック グループ課題に関して教員がフィードバックする。	
5 分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5 分	◆まとめ	

○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

注釈

★*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ : 40~45 名程度

歯学部 SIH 道場 <早期臨床学習：高齢者交流学習（事前授業）>

授業概要：高齢者交流学習を行うに当たっての「授業に対する思い」についてグループで討議し、授業の目的を明確にする。話し合ったことを整理し、発表資料としてまとめ、5分程度のプレゼンテーションを行う。

到達目標：高齢者交流学習の目的を明確にするためにグループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションすることができる。

Key Points：①学習目標の理解

②グループワークからの気づき

③効果的なプレゼンテーション

○事前学習

反転授業コンテンツ「プレゼンテーション力」を視聴する。

○授業内容（80分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 本日の内容の確認	
10分	●個人による作業：与えられた高齢者交流学習に関する課題を遂行する。	個人ワーク用紙
30分	▲グループによる作業：3～4人を1班のグループとし、与えられた課題のコンテンツを作成する。	A4用紙7枚×5班、マジック
25分 (各5分)	▲グループによる発表：課題内容のプレゼンテーションを行う。	ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）。
10分	◆まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く ◆振り返り用レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	振り返り用レポート用紙

○事後学習

振り返り内容をまとめ、授業レポート用紙に記載し、担当教員に提出する。

○評価方法・基準（合格基準）

ルーブリック評価表を用いて評価する（内容の構成，姿勢，質疑応答）。

教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

注釈：クラスサイズ：口腔保健学科 15名，歯学科 2名

SIH 道場 薬学部〈全体像〉

■ 目的：

- 1) 徳島大学の新生が大学教育の意義を理解するとともに、自身の専門分野における先端研究を早期に体験することで、研究者・医療人としてのプロ意識を早期に構築する。
- 2) 学習の基本となる文章作成法、プレゼンテーション方法論、自己評価法を学び、それらの実践を通して大学教育に能動的に参加できる知識、技能、態度を身につける。
- 3) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを行う。
- 4) 医療人を目指す学生として何をすべきか、今後の学生生活で何を学び、修得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、チーム医療の重要性を認識する。

■ 到達目標：

- (1) チーム医療の基盤を形成することができる
- (2) ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- (3) 班員の意見をまとめて理論的に説明することができる。
- (4) WS に積極的に参加し、他学部学生とコミュニケーションを取りながら、協力してプロダクトを作成できる協働力を養うことができる。
- (5) 将来の進路や方向性について考察し、大学における学習と関連させて説明することができる。
- (6) レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (7) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を使うことができる。
- (8) 学習の振り返りや気づきを「SIH 道場 振りかえりレポート」として e ポートフォリオシステムへ入力することができる。

■成績評価：「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」をもとに評価する。

○「チーム医療入門振り返りレポート」

チーム医療入門で学んだこと、今後の学習の目標について、A4 用紙一枚（1000 字程度）にまとめる。

○「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」

ラーニングスキル〈協働力〉ルーブリック評価表及び、ラーニングスキル〈プレゼンテーション力〉ルーブリック評価表については、チーム医療入門WSでチューターから評価を受ける。

ラーニングスキル〈文章力〉ルーブリック評価表については、担当教員より評価を受ける。

○「プレゼンテーションプロダクト」

チーム医療入門WSで他学部学生と協働して作成する。

8. 薬学部

【合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・体験学習について、すべて出席すること。(必須)
- ・「チーム医療入門振り返りレポート」について、指定項目が全て記載されていること。(必須)
- ・作成したプレゼンテーションプロダクトが添付されていること。(必須)
- ・「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること(任意)
- ・その他、レポートに必要なと思う内容(任意)

■授業内容概略

早期体験学習として先輩の講演等を聴講する。また、チーム医療入門に参加し、他学部学生と協働してプレゼンテーションコンテンツを作成し、発表、討議する。

- 平成27年4月 9日(木) 9:30~11:45 「薬学の祖を学ぶ~こころざし~」
13:00~14:00 講演「薬局で働く」
- 平成27年4月10日(金) 13:00~15:00 講演「薬害について」
- 平成27年9月30日(火) 13:00~14:20 チーム医療入門「先輩の講演」
14:30~17:00 チーム医療入門WS

■SIH 道場終了後に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」が合格基準を満たしているか確認する。
 - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
 - ・合格者については、大学入門講座の単位を認定する。
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある)
 - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 学生の振り返りに対して、eポートフォリオ上でコメントをフィードバックする。

■SIH 道場終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

8. 薬学部

<体験学習>

○事前学習

- ・ビデオコンテンツを見る (SIH 道場とは)

○授業内容

日時	経過 時間	内容	備考
4月9日(木) 9:30 ～9:40	10分	オープニング 出席確認、薬学部 SIH 道場説明	難波 (授業設計コーディネーター)
9:40 ～9:45	5分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～導入 長井長義簡易説明	教務委員
9:45 ～12:00	135分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～ (創薬系)	教務委員
13:00 ～14:00	60分	講演「薬局で働く」 (医療系)	薬学部非常勤講師
4月10日(金) 13:00 ～15:00	120分	講演「薬害について」 (薬学全般)	薬被連講師2名
9月30日(火) 13:00 ～17:10	250分	チーム医療入門	チーム医療入門チューター

○事後学習

1. それぞれの体験学習について、感想・学んだこと等をまとめておく。
2. 自分の将来の進路や方向性について考察し、大学における学習と関連づけ、まとめておく。

8. 薬学部

<ラーニングスキル（チーム医療入門）>

○授業内容（タイムスケジュール）

12:30 受付

13:00 全体オリエンテーション

- 挨拶 HBS 研究部長
- ワークショップ・スケジュール説明

13:30

- 講演聴講「在宅医療の困り事解決—私達はどこまで解決できるか—」

14:30 各ワーキング会場に移動

15:00 グループワーク開始

- アイスブレイキング（自己紹介：一人約1分、tutor から学生全員へ）
- 役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:30 小グループ発表

各班でまとめたことを発表

1会場4班でグループ発表（各発表8分、質疑5分×4班）

全体討論10分（ファシリテーターが司会）

ファシリテーターのコメント、振り返り・フィードバックを行う

16:50 まとめ、アンケート記入（学生、tutor ともにアンケート記入）

17:00 学生作業 終了 解散

17:10 Tutor 反省会（スキルスラボ5,6（医学部第3第4会議室））

班の雰囲気、プロダクト作成に当たって何か不備、不自由、困難はなかったか、そのほかの気付きを検討。

帰宅後、eポートフォリオ入力

○事前学習

- ・ビデオコンテンツを見る。（文章力・プレゼンテーション力・協働力）

○事後学習

1. 「チーム医療入門振り返りレポート」の作成。「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」とともに学務係へ提出。
2. eポートフォリオシステムに、教員コメントがフィードバックされる。

9. 建設工学科

SIH 道場 工学部・建設工学科〈全体像〉

■目的：建設工学に関する興味関心を喚起し、学習・研究に対する動機づけを行う。自主的な学習意欲や学習能力を身につけるため、課題に対して自主的に学習する。学生数名と担当教員1名との小人数でのセミナー、現場や職場での実務者への訪問・ヒアリングを通じて、建設工学の社会的使命、技術者の姿を学ぶ。この過程で、学習の基本となる文章の書き方、グループワークの仕方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標、成績評価：「建設基礎セミナー」授業概要参照（別紙）。

■授業内容：

「大学入門講座」（4月8日，16:20-19:00）（担当教員：8名）

土木・建築の話，分野ごとに見た土木（6分野）にて，土木工学・建築学の概要および先端的な研究について講義し，学習・研究に対する動機づけを行う。

「建設基礎セミナー」（全16回）（担当教員：21名）

少人数セミナーでは建設工学の基礎やトピックスを題材に，担当教員の指導をもとに自主的な作業や討論，発表を行う。その過程でトピックスに関係する現場や職場を訪問し，実務者にヒアリングや，実際の現場を体験することで，社会的使命や技術者の姿を学ぶ。

9. 建設工学科

● 建設基礎セミナー 1 単位 授業概要 2015年度

【授業目的】自主的な学習意欲や学習能力を身につけるため、課題に対して自主的に学習する。学生数名と担当教員1名との小人数でのセミナー、現場や職場での実務者への訪問・ヒアリングを通じて、建設工学の社会的使命、技術者の姿を学ぶ。

【授業概要】少人数セミナーでは建設工学の基礎やトピックスを題材に、担当教員の指導をもとに自主的な作業や討論、発表を行う。その過程でトピックスに関係する現場や職場を訪問し、実務者にヒアリングや、実際の現場を体験することで、社会的使命や技術者の姿を学ぶ。

【受講要件】昼間コースは必修科目のため、新1年生は全員履修すること。

【履修上の注意】セミナーへの出席、レポート作成を欠かさず行うこと。欠席する場合は、事前にグループの担当教員まで連絡すること。

【到達目標】

1. 課題に対する調査、実務者ヒアリングや現場での体験、グループ討議、とその整理・レポート作成を通じて、自ら考える能力、対話力、文章力を身につける。
2. グループ発表を通して、人にわかりやすいプレゼンテーションの方法について学ぶ。

【授業計画】 火曜日1,2 水曜日7,8 (研究室によって授業日は異なります)

4/14	ガイダンス 研究室教員の紹介	8:40 K202
4/21	研究室への配属調整	8:40 K202に集合。
4/22~4/28	小グループと担当教員の決定 建設棟の各研究室へ	
5/7~5/12	グループで進める課題の計画作り 課題内容と計画書の提出	
5/13~19	課題に関する基礎調査1	
5/20~26	課題に関する基礎調査2	
5/27~6/2	課題に関する基礎調査3 レポート1提出	
6/3~6/9	実務者・現場訪問の計画	
6/10~16	実務者・現場訪問	
6/17~23	実務者・現場訪問の整理 レポート2提出	
6/24~6/30	セミナー 課題に対する分析・まとめの議論1	
7/1~7	セミナー 課題に対する分析・まとめの議論2	
7/8~14	セミナー 課題に対する分析・まとめの議論3	
7/15~21	セミナー 発表会準備	
7/22~29	セミナー 発表会準備	
7/30	発表会 14:35~17:55	
7/31	振り返り・レポート再提出締切	

【成績評価】到達目標1はセミナーグループで作成したレポートを評価する。到達目標2について発表会における審査評価点により評価する。各到達目標に対してそれぞれ60%以上を合格とする。成績は、到達目標1,2それぞれを60%,40%として100点満点に換算して算定する。JABEE合格は成績評価と同一。

【学習教育目標との関連】本学科の学習・教育目標の2(1)に30%,同2(2)及び2(3)にそれぞれ20%計40%,同5(1)に30%に対応する。

【対象学生】開講コース学生のみ履修可能 【教科書】なし

【参考資料】担当教員から、参考書、ホームページ、その他の資料等が示されることがある。

【WEB 頁】

【連絡先】 上野
成行

4月21日以降は配属された担当教員へ連絡する。

欠席・遅刻する場合は必ず担当教員へ連絡すること

9. 建設工学科

学習の進め方

本年度より基礎セミナーはSIH道場「鉄は熱いうちに打て」(SIH: Strike while the Iron is Hot)対応科目となりました。SIH道場では、「早期体験」による専門分野である建設工学の学修の動機付けを行うとともに、これからのラーニングスキルとして必要な「文章力」、「プレゼン力」、「協働力」の涵養を目的としています。最後に自己評価アンケートによる「振り返り」を行い、動機づけとラーニングスキルの定着の確認を行います。

1 テーマを決めよう 5月12日まで

今年度は下記のテーマが統一テーマです。このテーマに関連するテーマを考えて、担当教員と相談してチームの課題を決めてください。

テーマ(案) 人々の生活を安全・安心で豊かなものにする建設工学

どのような手順で調査や聞き取りを進めるかを計画書として作成してください。計画書はA4用紙1枚にテーマの名称、研究室名、指導教員名、チームメンバーのクラス、番号、氏名、調査の方法を整理して記述(PCを使用してワードで作成)してください。ファイルと用紙を担当教員に提出してください。締切りは担当教員の指示に従ってください。

2 調査をしよう: レポート1

上記のテーマに従って、私たちが日々の生活を送る社会で、これから学ぶ建設工学がどのような重要な役割を担っているのかを調べてみましょう。メンバーで協力し合って参考となる書物・論文・資料をよみ、それを整理、理解する。調査した内容、わかったこと、をわかりやすく整理してレポートを作成してください。

3 人の話を聞こう、現場を体験しよう: レポート2

専門家や関わりのある人の話を聞いたり、あるいは現場に関わる人とのふれあいを体験しましょう。得られた知識や経験をレポートにしましょう。

レポート1とレポート2は個人毎に作成してください。また、提出レポートはコンピュータを用いてワードで作成したものとしますので、レポートをコンピュータで作成するようにしてください。レポートの量は自由です。締切りは担当教員の指示に従ってください。

4 調査をもとに私たちの社会とのつながりについて考えよう

調査をもとに、人間社会の中で、社会基盤づくり(建設技術、しくみづくり、環境管理など)を通して、「人々の生活を安全・安心で豊かなものにする建設工学」について調べた結果を整理してください。チームで調べたことをもとに分析し自分たちの考えをまとめるとともに、他者にわかりやすく説明できるようにまとめてください。

5 発表の準備をしよう

セミナーで行ったことを発表する準備をしてください。発表は模造紙のポスターを使用します。持ち時間は1班8分程度です。

6 発表会 7月30日(木) 14:35-17:55

全グループが集まって発表会を行います。発表を聞いてお互いに評価をします。発表資料は提出してもらいます。振り返りの自己評価アンケートも記入してください。

7 学習時間記録表等の提出 7月31日(金) 17:00まで

学習時間記録表、自己評価アンケートを班でまとめて担当教員へ提出してください。

9. 建設工学科

建設基礎セミナー全体発表会の実施について

1年生クラス担任（上野 A402）

建設基礎セミナー全体発表会を下記のとおり実施します。なお、7月16日の台風の影響で、当初の日程から8月4日（火）に変更となっていますので、注意してください。一部順番も変更になっています。受講生は 13:00 からの展示準備にも必ず参加するようにしてください。

- 日時 8月4日（火） 14:35～17:40（準備は13:00～13:30）
- 場所 工業会館 2階（会場1：メモリアルホール、会場2：セミナー室）
- 当日のタイムテーブル

時間	事項
13:00 ～13:30	展示準備 <ul style="list-style-type: none"> ・展示場所指示プレート貼り付け（下準備） ・いすや機の移動 ・ポスターの貼り付け （受講生はポスターを持って集合）
昼休憩・授業など	
14:35 ～14:40	実施要領説明 <ul style="list-style-type: none"> ・会場1に集合し、説明後、会場2のグループは移動
14:40 ～16:10	班別口頭説明（2班同時進行） <ul style="list-style-type: none"> ・学生発表8分、指導教員解説1分 ・移動1分
16:10 ～16:50	質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・学生は交代で他の班の質疑応答に参加
16:50 ～17:00	投票 <ul style="list-style-type: none"> ・好印象だった班を3つ選んで、投票（集計表にシールを貼る）
17:00 ～17:25	授業評価アンケート、SIH道場アンケート
17:25 ～17:45	後片付け <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターは会場で提出

- 会場の振り分けと発表順（学生発表8分、担当教員解説1分） ※（ ）内は担当教員

順番	発表時間	会場1（メモリアルホール）	会場2（セミナー室）
1	14:40～14:49	コンクリート（渡邊（健））	都市デザイン（山中（英））
2	14:50～14:59	構造工学1（成行）	構造工学2（井上）
3	15:00～15:09	維持再生工学1（上田）	生態系管理工学2（河口）
4	15:10～15:19	生態系管理工学1（鎌田）	河川・水文（田村）
5	15:20～15:29	都市・地域計画3（渡辺（公））	地震工学2（三神）
6	15:30～15:39	環境衛生工学（上月，山中（亮））	都市・地域計画2（奥嶋）
7	15:40～15:49	地震工学1（馬場）	地域防災（中野）
8	15:50～15:59	風工学（長尾）	維持再生工学2（塚越）
9	16:00～16:09	都市・地域計画1（近藤）	地盤工学（上野）

- 採点方法

好印象だった班を3つ選んで、投票します。

集計表にシールを貼ることで投票します。

※学生による相互評価のほか、教員が5段階で評価します。

10. 機械工学科

SIH 道場 授業詳細表（工学部・機械工学科）

【SIH 道場の構成】

H27 年度においては、「SIH 道場」として求められている「体験学習」、「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」、「学習の振り返り」の要素を「機械基礎実習」および「大学入門講座（主に合宿研修）」により実施する。

【目的】

(1) 各種機械に慣れ親しみ、その構成要素、機構、精度、性能などを調べることにより、今後学んでいく専門分野である機械工学と実際の機械との結びつきについて考える。各種部品の製作を通して機械製作の方法および図面の読み方について体験し、もの作りの素養を身に付ける。

(2) 大学における学修の基礎となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、協働力について学び、能動的な学習態度を身に付ける。

(3) 自らが学んだ内容について振り返る習慣を身に付ける。

【到達目標】

(1) 機械製作に使用した工作機械や溶接機、分解・組み立て・性能試験を行ったエンジンやサーボモータの動作原理や性能を左右する要素について説明することができる。

(2-1) 自らが果たした役割、反省点などを客観的に記述する文章を書くことができる。

(2-1) 自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができる。

(2-3) 同じグループの学生と協働して作業を行うことができる。

(3) 自らが学んだ内容について振り返ることができる。

【成績評価】

- ・「機械基礎実習」の成績は、実習テーマ毎に提出されたレポートを実習担当教員5名が分担して評価する。なお、レポートには新たに「学習の振り返り」を項目として記述させる。
- ・H27年度は「大学入門講座」の成績を「合宿研修」について振り返ったポートフォリオの記述内容に基づいてクラス担任（Aクラス3名、Bクラス3名、夜間主1名）が分担して評価する。（H28年度以降は、クラス担任が輪番制で交代することにより、4年で学科全教員が評価を担当することになる。）

【合宿研修におけるディベート入門の進め方】

（準備）

- ・オリエンテーション時にディベートに関する説明を行い、ディベートのテーマについて説明する。合宿研修までにディベートのテーマについて「賛成側」「反対側」両方の立場に立ったデータを集めておくように指示する。（データ収集を行っていない場合はペナルティを科すことを説明しておく。）

（合宿研修当日）

- ・合宿研修の各班を半分に分け、「賛成チーム」と「反対チーム」を作る。各チーム内で主張をまと

10. 機械工学科

める作業を行う。説明用資料（手書きポスター程度）を作成させる。

- ・各意見のプレゼン
- ・反対尋問等ディベート
- ・判定，講評
- ・各班の引率教員が，感想文の書き方，評価方針について学生に説明する。

（合宿研修後）

- ・各学生が準備段階での協働作業，プレゼン，ディベートを振り返ってポートフォリオに記入する。
- ・学級担任がポートフォリオの記述内容を評価し，コメント付けを行う。

【機械基礎実習の進行】

機械基礎実習は1年前期に開講される実習科目（必修1単位）であり，教員5名，技術職員8名により担当している。対象学生120名（昼間110名，夜間主10名）を2クラスに分け，各クラスを8グループ（7～8名／グループ）に分け，8つのテーマについて実習を行っている。各テーマの実習後にレポートを提出させ，担当教員が採点している。平成26年度の日程表を添付する。

10. 機械工学科

化学応用工学基礎 実施要領 (H27 年度)

H27 年度の実施要領を作成しました。昨年度同様、学科全教員のご参加・ご協力お願いいたします。新 1 年生の人数は 87 名（夜間主 5 名を含む）ですので、教員 1 人あたり 3~4 人をご担当いただきます。

本年度は SIH 道場 に対応した授業とするため、下記項目を含む アクティブラーニング（能動的学習） を取り入れます。

- ① 専門分野の早期体験（学習内容は例年通り化学に少しでも関連するもの）
- ② ラーニングスキルの修得－文章力（要旨作成）、プレゼンテーション力（グループワークを分担して個別発表）、協働力（グループで発表資料を作成）
- ③ 学習の振り返り（ルーブリック評価表、振り返りを用い、教員による他者採点と受講生による自己採点）

日程 前期前半クォータ 木曜日 10:25-11:55

実施日	4/9	4/16	4/23	4/30	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11
実施項目	オリエンテーション	創成学習 1 回目	創成学習 2 回目	中間発表（構想段階）	創成学習 3 回目	創成学習 4 回目	創成学習 5 回目	化学工学序論と振替	プレゼンと振り返り
実施内容	小グループの編成とテーマ設定	発表資料調査	発表資料調査	中間発表（項目 3 行 + 口頭）	発表資料作成	発表資料作成	発表資料作成	（振替）	グループワークを個々が発表
備考	3-4 人の小 G 20 人程の混合 G	小 G	小 G 2 行要旨を作成	2 分程度 × 20 名を 4 会場	小 G	小 G	小 G	要旨提出 締切日	15+5 分 ×3G (10 人) 自己評価

テーマの設定

- ・専門分野（化学，応用化学，化学工学）の早期体験ができる内容：グループワークをお願いします。
- ・英文和訳など、共同作業が難しいものであれば、担当部分を分け、担当部分をつなげるなどしてグループワークになるように対応をお願いします。
- ・高校までのように、答えがある問題ばかりでなく、答えのない問題にどうアプローチして取り組むかという、いわゆるデザイン科目的な要素を取り入れる方向へ誘導していただけましたら最高です。

授業の進行

- ・オリエンテーションで、受講生にルーブリック評価表（学生用）を配布します。採点基準の事前の表示です。
- ・オリエンテーションの後、各先生の部屋に向かわせます。テーマをご相談ください。
- ・創成学習第 1 回目、2 回目で、テーマに関する導入的なことを始めてください。第 3 回から第 5 回へと一連の内容でも結構です。
- ・4 月 30 日に、20 人程度の混合グループに分けて一人あたり 2 分程度で発表させます。23 日には配付用に氏名、グループテーマ、担当部分の 2 行要旨を作成してください。発表は「私のグループは〇〇を行っており、その中で私の担当は△△です。□□が大変です」程度です。目的は、「自分の担当を話す」と「他人の話の聞く」です。誰が何をしているか、お互いに関心を持たせるためでもあります。この日は、話す＝出席点の評点だけです。学生が取り組んでいる内容をお互いに理解できるように、2 行程度にまとめ、20 人の内容を A4 紙 1 枚程度にまとめたものを配布します。発表を終わった者が発表者に質問し、次の発表者が進行役を務めます。学科 SIH 担当が各混合 G の調整役に入ります。
- ・創成学習第 3 回目から 5 回目で、発表に向けてご指導ください。

11. 化学応用工学科

・要旨の提出は発表1週間前の6月4日(木)17:00とします。担当学生分をまとめ、授業担当教員(高柳)までお渡しください。要旨は、題目、緒言、結果、結論のような構成で、従来どおりA4紙1枚500字程度です。担当学生用の評価表を用い、下記ルブリック評価尺度により、採点をお願いします。

・6月11日(木)のプレゼンは、例年通り10名程度のグループとします。パワーポイントを使ったプロジェクタ投影による口頭発表、模造紙でのポスター発表、いずれでも結構です。従来、一人10分の持ち時間で進行しましたが、今回は、3~4人のグループで、1人5分見当で連続して話してもらい、その後でグループへの質問時間を5分とります。質問時間を含めた1グループの持ち時間は概ね20分とお考えください。10~12名=3つの小グループ=60分を目安としています。個々の発表者に対して、プレゼン学生用の評価表を用い、採点をお願いします。残りの30分で、ルブリック評価表(学生用)での自己採点、振り返り記入、授業評価アンケート記入、SIHアンケート記入の時間をとります。

ルブリック評価表を用いた教員による評価

評価の尺度をルブリック評価表に書いてありますが、5点満点で「(A)結構です」が5点、「(B)まずまずです」が4点、「(C)努力しましょう」が3点とお考えください。それ未満(例:発表しなかった)でしたら、0点です。

- ・要旨(例年通り) 文章力(構成、表現、科学的リテラシー)の評価をお願いします。
- ・プレゼン(例年通り) プレゼンテーション(準備、構成、姿勢、応答)の評価をお願いします。
- ・質問(例年、2つ以上質問する) プレゼンテーション(質疑)の評価をお願いします。
- ・協働力(例年は出席点) 協働力(チームワーク、意識の共有、役割分担)の評価をお願いします。普段の素行を見ていて、評価してください。予習・復習の有無、遅刻も判断材料にしてください。
- ・振り返り(新規:SIH) 受講生が書いた「振り返り」の所定欄に、コメントを記入してください。右下にサインをお願いします。

ルブリック評価表を用いた学生による自己評価と振り返り

・同じルブリック評価表を用いて、学生に自己評価させます。さらに、「振り返り」の用紙に具体的に書いてもらいます。

授業の後で SIH 道場

この授業に関連する、要旨、プレゼン資料、教員によるルブリック評価、学生自身によるルブリック評価、学生による振り返りと教員コメント、の資料はすべてポートフォリオとして学生が自身の資料に限り見えるようにします。(各用紙にマークシート欄を作成し、マークしたものをスキャンすると、e-ポートフォリオ(Mahara)上で学生のフォルダに振り分けられるそうです。教職員、学生とも、cアカウントからログイン可能)

採点と成績

ルブリック評価表の評価項目が11項目ありますので、これに55点を配点します。このうちプレゼンに係る25点は複数の教員の平均点とします。各項目とも、(A)~(B)の評価が望ましいです。

振り返りの配点を、自己評価10点、改善点10点の小計20点とします。自己評価は、自身のことをよく分かって書いていたら高い点数をつけてください。自信過剰であったり、自信が持てていないようならば、減点してください。改善点については、向上心が読み取れれば高い点数を、なければ減点してください。どちらも10点中8点を基準とします。

残りの25点は出席点とします。創成学習を一回欠席する度に-5点の採点をしてください。遅刻は協働力の判断材料にしてください。

SIH道場への参画のため、教員側には負担が増えることもあるかと思いますが、アクティブラーニングを通して予習復習をする習慣をつける、チームとして協働して取り組むなど、近頃の大学生の資質を改善するための方策でもあります。もちろん、少数学生の動向を直接見ることができないため不登校や留年防止にも役立ちます。お気づきの点はじめ、何か改善案等ございましたら、教務委員までご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

2015年4月4日 教務委員 高柳俊夫

11. 化学応用工学科

SIH 道場 <全体像> 生物工学科

■ 目的

生物工学科における教育・研究に関する導入教育を行う。また、大学院生による各講座の研究紹介や藍染体験、人形浄瑠璃鑑賞を通じて、生物工学科の学生としての自覚を芽生えさせると共に、自発的な情報収集能力やコミュニケーション能力、協働力の重要性を認識させるため、レポート作成、グループ単位でのプレゼンテーションおよび KJ 法を用いたワークショップを実施する。

■ 概要

まず、大学入門講座にて生物工学科の教育・研究内容、学生生活の送り方と心構え、学習方法等についての導入教育を行った後、文章力やプレゼンテーション力を養うための基礎的スキルを e-ラーニングで受講する(反転授業)。その後、大学院生による先輩からのメッセージ「徳島大学工学部生物工学科での学び」を聴講し学んだことをレポートにまとめる(文章力)。次に、藍染体験および人形浄瑠璃鑑賞を行い、「藍染体験」において学んだことや感じたことについてプレゼンテーションを行う(プレゼンテーション力)。最後に、生物工学科の教育における卒業研究の重要性についてグループで議論して得られた結果についてプレゼンテーションを行う(協働力)。

■ 責任担当

宇都義浩(教務委員)

■ 担当教員

玉井 伸岳(SIH 道場①(導入教育と体験学習(間接的)))

長宗 秀明(SIH 道場②(文章力))

湯浅 恵造(SIH 道場③④(体験学習(直接的)))

佐々木千鶴(SIH 道場⑤(プレゼン力))

三戸 太郎(SIH 道場⑥(協働力))

日程 前期前半クォータ 木曜日 10:25-11:55

実施日	4/3	4/7	4/8	4/9	4/10
実施項目	大学入門講座	SIH 道場①	SIH 道場②	SIH 道場③④	SIH 道場⑤⑥
実施内容	学科説明と導入教育	大学院生による講義	レポート作成	藍染体験, 人形浄瑠璃鑑賞	プレゼンテーション, KJ ワークショップ
備考	K501, 90分	K501, 90分	K404, 90分	長尾織布, 阿波十郎兵衛屋敷, 270分	K502, 180分

12. 生物工学科

●大学入門講座（体験学習）

■概要と目的

大学院生による「徳島大学工学部生物工学科での学び」を聴講し、学習目標の設定やキャリアプラン設計に役立てることを目的とする。また、藍染体験と人形浄瑠璃鑑賞より生物工学と社会との関わりについて実感することを目的とする。

■到達目標

大学院生から学んだことに対する自分の考えを記述することができる。また、藍染と生物工学の関係について科学的に理解し記述することができる。

■授業内容

4月7日（火）

8：40～10：10 大学院生による講演（担当：玉井）

4月9日（木）

8：40～11：55 藍染体験と人形浄瑠璃鑑賞（担当：湯浅）

11：55～12：50 移動・昼食

12：50～14：20 研究室紹介

■成績評価

学生が作成した文章およびe-ポートフォリオを玉井教員、湯浅教員、授業設計コーディネーターが確認し、コメントを付して学生に返却する（レポート10点×4（40点））。

●大学入門講座（文章力）

■概要と目的

大学院生による「徳島大学工学部生物工学科での学び」を聴講し、学習目標の設定やキャリアプラン設計についてレポートにまとめることを目的とする。

■到達目標

先輩の話を聴講して自分の考えをまとめて記述することができる。

■授業内容

4月8日（水）

e-ラーニングの反転授業（ビデオコンテンツ）を参考にA4用紙1枚（約1000字）にまとめて提出し、長宗教員が内容を確認してコメントを付して学生に返却する。

■成績評価

レポートおよびループリック評価表を用いる（レポート10点×1、ループリック評価5点×3（15点））。

●基礎ゼミナール（プレゼンテーション力）

■概要と目的

「藍染体験」において学んだことや感じたことについてプレゼンテーションを行う。

12. 生物工学科

■到達目標

経験したことについて自分の考えをまとめて説明できる。

■授業内容

4月10日（金）

e-ラーニングの反転授業（ビデオコンテンツ）を参考にクラス全員の前で1名ずつ1分間のプレゼンテーションを行い、佐々木教員がルーブリック評価表により採点する。

■成績評価

ルーブリック評価表等を用いる（5点×2（10点））。

●基礎ゼミナール（協働力）

■概要と目的

生物工学科の教育における卒業研究の重要性についてグループで議論し意見をまとめて発表することを目的とする

■到達目標

グループで議論し意見をまとめて発表できる。

■授業内容

4月10日（金）

e-ラーニングの反転授業（ビデオコンテンツ）で事前学習を行い、生物工学科の教育における卒業研究の重要性についてグループで議論して見解をまとめて2分で発表し、三戸教員がルーブリック評価表により採点する。

■成績評価

ルーブリック評価表等を用いる（5点×3（15点））。

13. 電気電子工学科

SIH 道場 授業詳細 (工学部電気電子工学科)

【目的】

徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、電気電子工学関連分野が社会においてどのように活用されているか、体験を通して興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

【概要】

求められている「体験学習」、「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」、「学習の振り返り」の要素を「電気電子工学基礎演習」内で実施する演習およびその後の報告発表により実施する。

【到達目標】

- (1) 高校の物理基礎および物理の電気電子工学に関する内容を理解し説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

【成績評価】

「大学入門講座」の成績を、発表したポスターの内容、発表を振り返ったポートフォリオの内容(個人レポートを含む)に基づいて評価する。

【電気電子工学基礎演習について】

本学科では電気電子工学を学習し、考える力や討論する力、解析する力、もの作り力などのスキルを身につける上で最低限必要な基礎力を習得するため、「電気電子工学基礎演習」という科目を導入している。これらの目的は SIH 道場の目的と一部合致するので、合わせて実施することで相乗効果が期待できる。そこで、実施した演習を基に報告発表させることとした。なお、「電気電子工学基礎演習」は毎週金曜日 7,8 講時に開講される科目である。

【報告発表について】

報告発表についてはポスター形式を想定しているが、これを5名程度の班ごとに作成・発表させる。これにより「協働力」や「プレゼンテーション力」が養われることになる。

「電気電子工学基礎演習」が半分程度進行した6月4日(木) (予定)に学生を集めて班分けやプレゼンテーション方法について指導する。実際のポスター発表は6月18日(木)の予定である。

13. 電気電子工学科

またポートフォリオの一部として提出させる最終のレポートについては個人がすべての作業を振り返ることになり、その過程で「文章力」や「学習の振り返り」についても身に付けることができる。

14. 知能情報工学科

平成 27 年度・知能情報工学セミナー（1 年・前期・火 3，4 校時・必修 1 単位）

■ 目的

知能情報工学科における教育・研究に関する導入教育を行う。また、各研究室の研究内容を見学して、知能情報工学科の学生としての自覚を芽生えさせると共に、自発的な情報収集能力やコミュニケーション能力、協働力の重要性を認識させるため、グループ単位でのプレゼンテーションを実施する。更に、学生生活の送り方、講義の受講および研究のための心構え、社会人としての常識等のガイダンスを行う。

■ 概要

ガイダンスにて知能情報工学科の教育・研究内容、学生生活の送り方と心構え、社会人としての常識等についての導入教育を行った後、文章力、プレゼン力を養うための基礎的スキルを一斉講義で受講する（大学入門講座内で実施）。その後、受講生を各研究室（知能情報工学科教授全員）にほぼ等分（約 8 名ずつ）に配属し、各研究室を見学する。その後、配属先研究室でその研究室の研究内容等に関するテーマのプレゼンテーション用スライドを作成する。最後に、プレゼンテーション大会を開催する（知能情報工学セミナー内で実施）。

■ 責任担当

獅々堀 正幹（昼間コース 1 年生担任）、光原 弘幸（反転授業サポート担当）、大野 将樹（昼間コース 1 年生副担任）

■ 担当教員

教授名	グループ名	見学テーマ&見学場所（部屋番号）
任 福継	A1	感情計算と知能ロボット研究室（C204）
北 研二	A2	マルチメディア情報検索研究室（フロンティア研究センタ棟 206）
小野 典彦	A4	進化適応システム研究室（D106）
北岡 教英	A5	音声言語処理研究室（C313）
寺田 賢治	B1	画像工学研究室（共同研究棟 803）
木下 和彦	B2	ネットワーク・システム制御研究室（C413）
青江 順一	B3	ヒューマンコミュニケーション研究室（共同研究棟 604）
獅々堀 正幹	B4	マルチメディアデータ工学研究室（D201）
福見 稔	B5	ヒューマンセンシング研究室（D213）
上田 哲史	C	コンピュータシステム研究室（共同研究棟 103）

14. 知能情報工学科

<知能情報工学セミナー（1年・前期・火曜日3，4講時）>

■ 講義計画・内容（案）

	日付	場所	内容																								
0	大学入門講座 4月第1週	K502	プレゼンテーションスキル（全員） 【担当：泓田 正雄】																								
0		K502	テクニカルライティングスキル（全員） 【担当：池田 健二】																								
1	4月14日(火)	C10	研究室見学のガイダンス（全員）【担当：獅々堀 正幹】																								
2	4月21日(火)	電算室	反転授業による文章力向上（全員） 【担当：獅々堀 正幹，光原 弘幸】																								
3	4月28日(火)	電算室	反転授業によるプレゼン力向上（全員） 【担当：獅々堀 正幹，光原 弘幸】																								
4 ↓ 8	5月12日(火) ↓ 6月9日(火)	各研究室 見学終了後 C10に集合	毎週、班毎に二つの研究室を訪問・見学する（30分×2研究室） 研究室見学終了後、C10に集合させ、毎回レポートの作成と提出を義務づける（20分） 【担当：M1，M1 輪講前期担当教員】																								
			5月12日																								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A1 → A2</td> <td>F</td> <td>B2 → B3</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>A2 → A4</td> <td>G</td> <td>B3 → B4</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>A4 → A5</td> <td>H</td> <td>B4 → B5</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>A5 → B1</td> <td>I</td> <td>B5 → C</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>B1 → B2</td> <td>J</td> <td>C → A1</td> </tr> </tbody> </table>	1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室	A	A1 → A2	F	B2 → B3	B	A2 → A4	G	B3 → B4	C	A4 → A5	H	B4 → B5	D	A5 → B1	I	B5 → C	E	B1 → B2	J	C → A1
			1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室																					
			A	A1 → A2	F	B2 → B3																					
			B	A2 → A4	G	B3 → B4																					
			C	A4 → A5	H	B4 → B5																					
			D	A5 → B1	I	B5 → C																					
			E	B1 → B2	J	C → A1																					
			5月19日																								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A4 → A5</td> <td>F</td> <td>B4 → B5</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>A5 → B1</td> <td>G</td> <td>B5 → C</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>B1 → B2</td> <td>H</td> <td>C → A1</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>B2 → B3</td> <td>I</td> <td>A1 → A2</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>B3 → B4</td> <td>J</td> <td>A2 → A4</td> </tr> </tbody> </table>	1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室	A	A4 → A5	F	B4 → B5	B	A5 → B1	G	B5 → C	C	B1 → B2	H	C → A1	D	B2 → B3	I	A1 → A2	E	B3 → B4	J	A2 → A4
			1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室																					
A	A4 → A5	F	B4 → B5																								
B	A5 → B1	G	B5 → C																								
C	B1 → B2	H	C → A1																								
D	B2 → B3	I	A1 → A2																								
E	B3 → B4	J	A2 → A4																								
5月26日																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>B1 → B2</td> <td>F</td> <td>C → A1</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B2 → B3</td> <td>G</td> <td>A1 → A2</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>B3 → B4</td> <td>H</td> <td>A2 → A4</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>B4 → B5</td> <td>I</td> <td>A4 → A5</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>B5 → C</td> <td>J</td> <td>A5 → B1</td> </tr> </tbody> </table>	1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室	A	B1 → B2	F	C → A1	B	B2 → B3	G	A1 → A2	C	B3 → B4	H	A2 → A4	D	B4 → B5	I	A4 → A5	E	B5 → C	J	A5 → B1			
1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室																								
A	B1 → B2	F	C → A1																								
B	B2 → B3	G	A1 → A2																								
C	B3 → B4	H	A2 → A4																								
D	B4 → B5	I	A4 → A5																								
E	B5 → C	J	A5 → B1																								
6月2日																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>B3 → B4</td> <td>F</td> <td>A2 → A4</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B4 → B5</td> <td>G</td> <td>A4 → A5</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>B5 → C</td> <td>H</td> <td>A5 → B1</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>C → A1</td> <td>I</td> <td>B1 → B2</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>A1 → A2</td> <td>J</td> <td>B2 → B3</td> </tr> </tbody> </table>	1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室	A	B3 → B4	F	A2 → A4	B	B4 → B5	G	A4 → A5	C	B5 → C	H	A5 → B1	D	C → A1	I	B1 → B2	E	A1 → A2	J	B2 → B3			
1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室																								
A	B3 → B4	F	A2 → A4																								
B	B4 → B5	G	A4 → A5																								
C	B5 → C	H	A5 → B1																								
D	C → A1	I	B1 → B2																								
E	A1 → A2	J	B2 → B3																								
6月9日																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> <th>1年生班</th> <th>見学先研究室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>B5 → C</td> <td>F</td> <td>A5 → B1</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>C → A1</td> <td>G</td> <td>B1 → B2</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>A1 → A2</td> <td>H</td> <td>B2 → B3</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>A2 → A4</td> <td>I</td> <td>B3 → B4</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>A4 → A5</td> <td>J</td> <td>B4 → B5</td> </tr> </tbody> </table>	1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室	A	B5 → C	F	A5 → B1	B	C → A1	G	B1 → B2	C	A1 → A2	H	B2 → B3	D	A2 → A4	I	B3 → B4	E	A4 → A5	J	B4 → B5			
1年生班	見学先研究室	1年生班	見学先研究室																								
A	B5 → C	F	A5 → B1																								
B	C → A1	G	B1 → B2																								
C	A1 → A2	H	B2 → B3																								
D	A2 → A4	I	B3 → B4																								
E	A4 → A5	J	B4 → B5																								

14. 知能情報工学科

9	6月16日(火)	電算室	反転授業による協働力向上(全員) 【担当: 獅々堀 正幹, 光原 弘幸】
10 ↓ 13	6月23日(火) ↓ 7月14日(火)	配属先 研究室	配属先研究員の専門的分野に関するプレゼンテーションの準備 協働力向上のため, グループ単位でスライド作成 (1グループ, 4, 5名程度で構成) 【担当: M1 (プレゼン作成のアドバイス, 練習指導など)】 例. 「ニューラルネットワークについて」 1年生A: ニューラルネットワークの概要 1年生B: ニューラルネットワークの歴史 1年生C: ニューラルネットワークの特徴 1年生D: ニューラルネットワークの応用
14 ↓ 15	7月21日(火) ↓ 7月28日(火)	C10, 電算室 (パラレル)	プレゼンテーション大会(全員で) 15分×20グループ 【担当: 1年クラス担任, M1】

※16回目(8/4)予備日は, 再発表に割り当てる

■ 成績評価: 出席状況, プレゼン内容, 最終レポート等により評価する.

○ 「最終レポート」の内容

以下の1) ~ 3) を含む「最終レポート」を作成すること

1) プレゼンテーション大会で作成したスライド(プレゼン力, 協働力の目標に対応)

- ・パワーポイントを用いて作成したスライド(メール添付またはUSBで提出)
- ・ルーズリークの「協働力」に該当するすべての項目について自己評価した結果
- ・ルーズリークの「プレゼン力」に該当するすべての項目について自己評価した結果

2) 研究室見学レポート(文章力の目標に対応)

- ・研究室見学報告書: 先日返却した各研究室に対する見学報告書
- ・ルーズリークの「文章力」に該当するすべての項目について自己評価した結果

3) SIH道場(知能情報工学セミナー)での収穫:

- ・勉強になったこと, 得られた知識, 反省点, 今後改善すべき点等
- ・A4判1枚程度で作成

○ 「最終レポート」提出方法

プレゼンスライド以外の用紙(紙媒体)をまとめて, 左上一カ所をホッチキス等で綴じ, 獅々堀の部屋(D棟214室)のポストに提出すること(表紙を付けて氏名, 学生番号を記載すること)

○ 「最終レポート」提出締め切り

8月11日(火)までに提出すること(それ以降の提出は認めません)

15. 光応用工学科

平成 27 年度 SIH 道場 授業（工学部光応用工学科）

■目的：光応用工学科の新入生が大学における学習について理解するとともに、光工学分野における先端研究の体験を通して興味関心を喚起し、光応用工学科における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：(1) 光工学分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる
(2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる
(2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる
(2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる
(3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

○「SIH 道場最終レポート」

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を e-ポートフォリオ (Mahara) 上に作成すること。ただし、4) は任意とする。

- 1) SIH 道場の各到達目標の達成度(10 段階評価：道場前→道場後)とその理由：
- 2) グループ製作についてのレポート（添付ファイルとしてアップロード）
- 3) 教員が評価した「文章力」についてのループリックシート（添付ファイルとしてアップロード）
- 4) グループ製作作業の写真や発表用ポスターの写真など

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- 1) SIH 道場の各到達目標の達成度が評価され、その理由が述べられていること（必須）
- 2) グループ製作についてのレポートが指定された分量で記述されていること
- 3) 「文章力」についてのループリックシートの評価の平均値が (B) 以上であること

■授業内容（大学入門講座 10 時間＋新入生合宿研修 5 時間）

<概要>

新入生オリエンテーション期間中に開講される従来型の大学入門講座（10 時間）に加え、5 月の新入生合宿研修にて 5 時間の SIH 道場を実施する。従来型の大学入門講座の内容は各学科共通であるので、新入生合宿研修の実施内容および昨年度との比較を次ページのスキームに示す。下線部が SIH 道場として今年度から導入する項目である。

15. 光応用工学科

<今年度>

目的:光応用工学セミナー1およびSIH道場の一部として実施

内容:

1. グループ製作実習

テーマ: マクロレンズ&望遠レンズを備えた投影機(カメラ)

「協働力」の評価

2. 作品発表会

「プレゼンテーション力」の評価

3. 審査会および表彰

4. レポート作成

「文章力」の評価

5. 振り返り

e-ポートフォリオ上でSIH道場の達成度を自己評価

<昨年度まで>

目的:光応用工学セミナー1の一部として実施

内容:

1. グループ製作実習

テーマ例: ピンホールカメラ, 望遠鏡, 顕微鏡, 潜望鏡など

2. 作品発表会

3. 審査会および表彰

4. レポート作成

今年度の合宿研修のスケジュールを以下に示す.

期間:平成27年5月1日(金)~5月2日(土)(一泊二日)

場所:国立淡路青少年交流の家(兵庫県南あわじ市阿万塩屋町757-39、TEL 0799-55-2695)

スケジュール:

5月1日(金)		5月2日(土)	
12:50	光応用工学科玄関前集合	6:30	起床・寝具整理
13:00	出発(バス)	6:45	朝のつどい【広場】
14:30	現地到着、入所手続き オリエンテーション【特別第2研修室】	7:10	清掃(宿舎)
15:30	光応用工学セミナー1【特別第2研修室】	7:50	朝食【食堂】
16:50	夕べのつどい【広場】	8:20	SIH道場(1)【特別第2研修室】
17:10	光応用工学セミナー1【特別第2研修室】	9:05	休憩、教職員・学友との交流会
18:00	夕食【食堂】	9:25	SIH道場(2)【特別第2研修室】
18:30	入浴	10:10	休憩、教職員・学友との交流
19:30	教職員・学友との交流	10:30	SIH道場(3)【特別第2研修室】
20:00	光応用工学セミナー1【特別第2研修室】	11:15	清掃(研修室)
22:00	研修初日分終了	11:40	昼食【食堂】
22:30	消灯	12:15	記念撮影【広場】、教職員・学友との交流
		13:00	現地発(バス)
		14:30	工学部着、解散

15. 光応用工学科

・SIH 道場（1）

事前に編成されたグループ（8名）毎にカメラの製作実習を行うとともに、ループリックシートを用いて「協働力」を評価する。評価の方法は「自己評価」とする。

・SIH 道場（2）

グループ毎に発表用ポスターを作成し、交代で発表練習を行うとともに、ループリックシートを用いて「プレゼンテーション力」を評価する。評価の方法は「仲間内の評価（ピアレビュー）」とする。

・SIH 道場（3）

グループ毎に壁にポスターを貼り、その前で作品をデモンストレーションしながらプレゼンテーションを行う。教員が作品の光学的性能を評価し、優秀作品を決定する。また、作品のやプレゼンテーションの出来に対してにも教員と学生による投票を行い、それぞれ表彰する。

■合宿研修において担当教員（およびコーディネーター）が行うこと

- ・SIH 道場の実施目的についての説明（新入生オリエンテーション時に行っているが再度）
- ・「協働力」、「プレゼンテーション力」、「文章力」の各ループリックシートを用いた評価法の説明
- ・「振り返り」の重要性とその方法についての説明

■合宿研修終了後に担当教員（およびコーディネーター）が行うこと

- 1) グループ製作についてのレポートの評価（「文章力」についてのループリックシートを用いる）
- 2) 「SIH 道場最終レポート」の提出環境の整備（e-ポートフォリオの説明など）および提出状況の確認
 - ・e-ポートフォリオ上に作成された「SIH 道場最終レポート」に不備がある場合は、後期の「光応用工学セミナー2」において、引き続き e-ポートフォリオ上でのレポート作成を行う。
- 3) 大学入門講座（SIH 道場）の成績評価
- 4) 「SIH 道場実施報告書」の提出
 - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e-ポートフォリオ版の2つがある）
 - ・提出先は e-ポートフォリオシステム上とする。

■SIH 道場終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック

16. 医療教育開発センター

SIH 道場 チーム医療入門 蔵本地区 1 年生合同ワークショップ

- 目的：** 1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを目的とする。
- 2) 医療人を目指す学生として何をなすべきか、今後の学生生活で何を学び、習得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成をはかる。

到達目標

- ① チーム医療の基盤を形成することができる。
- ② 早期体験学習として先輩の話を聞くことができる。
- ③ ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- ④ プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ 法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。
- ⑤ 効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うためにツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。
- ⑥ WS に積極的に参加し、他学部学生とコミュニケーションが取りながら、能動的に進め、協力してプロダクトを作成することができるなどの協働力を養うことができる。
- ⑦ 振り返りの体験や気づきを「SIH 道場 振り返りレポート」として e ポートフォリオシステムへ入力することができる。

Key words

チーム医療、IPE : Inter professional education 専門職間教育/研修、医療の質、医療安全 Patient safety、お互いを知る、コミュニケーション、Professionalism、Outcome based curriculum

成績評価

○「SIH 道場 振り返りレポート」

以下の 1) ~ 4) を含む「SIH 道場 振り返りレポート」を作成すること。レポートおよびプロダクト（ポスター）の写真は電子媒体で e ポートフォリオシステムに提出する。

1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ループリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・ 1) で作成したプロダクト（ポスター）をつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ループリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- ・発表者はポスターの内容を e ポートフォリオシステムに入力する。

16. 医療教育開発センター

- ・ポスターの写真も e ポートフォリオシステムに添付する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力、早期体験の目標に対応）
- ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
 - ・早期体験として「先輩の話を聞く」の一環として、講演会を聴講し、感じたことをレポートとして e ポートフォリオシステムに入力する。
- 4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・レポートの「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること（任意）
- ・レポートに「WS 個人レポート」が添付されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のループリックが添付されていること。（必須）
- ・上記ループリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が 60 点以上であること。（必須）
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なと思った内容（任意）

テーマ：「在宅医療の困り事解決 - 私達はどこまで解決できるか-」

開催日時：毎年 9 月 30 日 12:30~17:00

会場：大塚講堂 1F 大ホール、2F 会議室、歯学部会議室、保健学科 C 棟、
スキルスラボ 5,6,7,8

対象：蔵本地区 1 年生 約 450 名

概要：医療安全、コミュニケーション、災害医療などのテーマで講演を聴講し、テーマに沿ったグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクトを作成・発表・討議する。

タイムスケジュール：

12:30 受付

13:00 全体オリエンテーション

- 挨拶 HBS 研究部長
- ワークショップ・スケジュール説明

16. 医療教育開発センター

13:30

- 講演聴講「在宅医療入門―家に帰るという選択肢」

14:30 各ワーキング会場に移動

15:00 グループワーク開始

- アイスブレイキング（自己紹介：一人約1分、tutor から学生全員へ）
- 役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:30 小グループ発表

各班でまとめたことを発表

1会場4班でグループ発表（各発表8分、質疑5分×4班）

全体討論10分（ファシリテーターが司会）

ファシリテーターのコメント、振り返り・フィードバックを行う

16:50 まとめ、アンケート記入（学生、tutor ともにアンケート記入）

17:00 学生作業 終了 解散

17:10 Tutor 反省会（スキルスラボ5,6（医学部第3第4会議室））

班の雰囲気、プロダクト作成に当たって何か不備、不自由、困難はなかったか、そのほかの気づきを検討。

帰宅後、eポートフォリオ入力

事前学習

WSではKJ法で意見の集積を行うため、KJ法についてのビデオを開催日までに各人あらかじめ視聴してもらう。

eポートフォリオ

帰宅後に今回のIPEに参加して「気付いたこと」、「医療人を目指すものとして、今回のIPEは今後に対してどのような影響があったか」など気づき、行動変容にどのようなつながったかをポートフォリオに入力させ、各班のチューターが一言コメントを返すシステムとする。

事後学習

1. eポートフォリオシステム（またはLMS）に、振り返りシート（教員コメント付き）がフィードバックされるので、各人はそれを見てコメントを投稿。
2. SIH道場最終レポートの作成と提出。
3. 他者のSIH道場最終レポートの閲覧と相互コメント（1件以上）

2. 平成27年度 SIH 道場振り返りシンポジウム実施報告

1) 開催趣旨

各学部・学科での「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を振り返り、取組内容および成果と課題を共有し、次年度のプログラム改善に繋げる。

2) 実施概要

日時：平成27年11月13日（金）16：30～18：30（16：00 受付開始）

場所：南常三島キャンパス 総合科学部地域連携プラザ2階地域連携大ホール（けやきホール）

参加対象：本学の教職員及び学生

【平成27年度 SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門振り返りシンポジウムポスター】

Strike while the Iron is Hot. 「鉄は熱いうちに打て」

平成27年度
SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
振り返りシンポジウム



各学部・学科での「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」を振り返り、
成果と課題を共有し次年度の改善に繋げるためのシンポジウムを開催します。

※ SIH道場は「専門分野の早期体験」「ラーニングスキルの修得」「学習の振り返り」を組み込んだ
初年次教育プログラムです。平成27年度は15のプログラムで1年生全員が受講しています。

日時：平成27年11月13日（金）16：30～18：30（16：00受付開始）

場所：南常三島キャンパス 総合科学部地域連携プラザ2階
地域連携大ホール（けやきホール）

対象：本学の教職員及び学生



プログラム：

16：30-16：35	開会の挨拶	赤池 雅史 / AP実施専門委員会副委員長
16：35-16：55	平成27年度SIH道場の総括	久保田祐歌 / 総合教育センター
16：55-17：15	SIH道場授業設計コーディネーターに よる実施報告	井戸 慶治 / 総合科学部 岩田 貴 / 医療教育開発センター
17：15-17：35	ポスター発表	各プログラムの担当者
17：35-17：45	SIH道場受講生からの報告	
17：45-18：15	ディスカッション	吉田 博 / 総合教育センター
18：15-18：25	外部評価委員からのコメント	青野 透 / 徳島文理大学教授 桑折 範彦 / 徳島大学名誉教授
18：25-18：30	閉会の挨拶	高石 喜久 / 理事（教育担当）

徳島大学大学教育再生加速プログラムの詳細については、大学ウェブページをご覧ください。
<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html>

問合せ先：学務部教育支援課教育企画室
電話：088-656-7679（内線：81-7115）
メールアドレス：kykikakuk@tokushima-u.ac.jp



主催：徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

3) 開催報告

最初に、赤池雅史大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長が開会の挨拶を行った。次に「平成 27 年度 SIH 道場の総括」として、久保田祐歌特任助教が SIH 道場の目的および平成 27 年度の各プログラムの取組み概要について紹介すると共に、学生対象アンケート結果について説明を行った。その後、「SIH 道場授業設計コーディネーターによる実施報告」として、井戸慶治教授（総合科学部）と岩田貴教授（医療教育開発センター）が報告を行った。井戸教授は、総合科学部の SIH 道場プログラムの「大学入門講座」「基礎ゼミナール」における取組の成果と課題を報告した。岩田教授は、蔵本キャンパス（医学部・歯学部・薬学部）の 1 年生合同ワークショップ「チーム医療入門」について成果と課題を報告した（※詳細については、資料の報告スライドを参照）。さらに「ポスター発表」として、各 15 プログラムの担当者と医療教育開発センターの担当者がそれぞれの SIH 道場の取組について報告を行い、参加者の質問に答えた。

「SIH 道場受講生からの報告」においては、SIH 道場評価・改善ワーキンググループの学生委員のうち 10 名が報告を行った。SIH 道場が役に立った点としては、以下が挙げられた。「英語で書かれた資料でプレゼンを準備し、発表を通して、答えのない問題にどのようにアプローチし取り組むのかを学び、大学生であると実感できた。」「グループのメンバーで協力して実験についてのポスターを作成し協働力がついた。」「早期臨床体験実習で現場に行き、将来医者になるという意識が強まった。」「他学部の人と一緒に KJ 法でグループワークを行った際には最初は沈黙から始まったが、話し合いを進めて行くことができた。」「文章力、プレゼン力は SIH 道場だけでは完璧に身につかないが、第一歩になった。」「先生との距離が近く、文章力やプレゼン力を身につけることができた。3 年で行うような専門的なことができ、専門で学ぶイメージを正確に固められた。」SIH 道場の改善点としては、以下が挙げられた。「自分の学科は SIH 道場がチーム医療入門のみだったので、他の学科のようにプログラム数を増やしてほしい。」「レポート課題のフィードバックが遅く、他の授業に結果を活かせなかった。」「大学に入学して初めてレポートを書いたので、レポートの書き方指導をもっと丁寧に行って欲しかった。一度レポートをみてもらったが、もう一度自分で修正したものをみてもらう時間があればよかった。」

ディスカッションについては、総合教育センター教育改革推進部門の吉田博講師が務め、パネリストとして、赤池雅史大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長、井戸慶治教授、久保田祐歌特任助教、沖田和也 SIH 道場評価・改善ワーキンググループ学生委員が壇上で質疑応答を行った（※ディスカッションの詳細については、「4）ディスカッションのまとめ」を参照）。

次に、「外部評価委員会からのコメント」として、青野透外部評価委員（徳島文理大学教授）と桑折範彦外部評価委員（徳島大学名誉教授）からコメントを頂いた。青野委員からは、SIH 道場の目的の一つである「考え抜いた」という実感を学生がもつのは多様な学生と議論したときであり、徳島大学のアクティブ・ラーニングの取組において「多様性」をキーワードとして、様々な学部学科の学生や教員同士での議論を行うなど、多様性を活かすことが大事であるとのこと指摘を頂いた。また、「協働力」について、大学では多様な人と議論したという経験を持った上で、専門に進んでいくことの重要性が述べられ、ポスター発表のなかで、学生が興味をもつテーマや協働でのグループワークに適したテーマを検討することが今後の課題として挙げられていた点に触れ、FD では授業方法にのみ焦点を当てがらだが授業内容と授業方法はセットであり、授業内容が大切であると述べられた。さらに、ある学科の発表において報告されたように、「文章力」「プレゼ

ン力」を高めていくことが「協働力」につながるというご指摘を頂いた。

桑折委員からは、「ルーティーン」とは基本的なことをきっちりできるということであり、大学生になったら、いかに大学生活を送るかという基本的なところを考えて、自分で一番よいものを見つけるのが重要であるというご意見を頂いた。自分のある種の身の処し方、同じことを繰り返してやるという「ルーティーン」の重要性を学生が理解し、SIH 道場のプログラムに学生が触発されて学生生活を送ればよいと述べられた。

本シンポジウムには、学内教職員、学生および外部評価委員の 127 名が参加し、今年度の SIH 道場の課題を踏まえ、次年度に向けた改善点を考えるための機会となった。

4) ディスカッションのまとめ

ディスカッションは、シンポジウムで共有されてきた SIH 道場の実施報告やアンケート結果、学生からの意見などを踏まえて、さまざまな立場の参加者間で議論を行い、次年度以降のプログラム改善に繋げることが目的である。当日は、シンポジウムの時間が押し、15 分という短い時間であったが、フロアからの 2 件の質問を交えて意見交換を行うことができた。登壇者は、大学教育再生加速プログラム実施専門委員会より赤池雅史副委員長、授業設計コーディネーターより総合科学部井戸慶治先生、各プログラムの実施支援の立場より総合教育センター教育改革推進部門の久保田祐歌、受講者の立場より医学部医学科 1 年沖田和也さんの 4 名であり、司会は総合教育センター教育改革推進部門の吉田が務めた。

はじめに、SIH 道場の成果として受講学生に与えた効果について、各登壇者が特に効果的であったと感じる点を一つずつ挙げた。まず、受講生である沖田さんからは、医学科のプログラムではあるが、臨床体験実習により専門の学習へのモチベーションになったことや、それが今でも継続しているという意見が挙げられ、SIH 道場における動機づけに効果があったという意見が述べられた。その他に、ループリックを用いて、学生が相互に評価を行うことで、自身の学習に対する振り返りを促していることや、高校までの学習との違いを理解してもらったということができたという意見が挙げられた。また、プログラムの形態は、短期間に実施するイベント型と学期全体を通して実施するセメスター型に分けることができるが、動機づけにおいてはイベント型が、ラーニングスキルの修得についてはセメスター型が、それぞれ効果を挙げているという意見が挙がり、各プログラムのスケジュールに応じて、授業設計の工夫ができることが明らかになった。

続いて、フロアより挙げられた意見として「プログラムが画一的で義務感を感じてしまう部分があった。もう少し個性を出すことはできないか？」について、コーディネーター、実施専門委員会の立場より意見が述べられた。総合科学部では、これまで実施してきたことを無理のない範囲で改善し、実施しているため義務感を感じたことがなく、大塚国際美術館の見学や少人数によるゼミ形式での実施など、工夫を行うことでオリジナルなプログラム運営を行うことができたとのことである。実施専門委員会の立場としては、何をするのかという内容を共有するのではなく、何のために実施しているのかという目的を共有し、できる限り学部担当者と支援担当者が直接話し合うことができる機会を多く設けていくことが重要であるということが挙げられた。

次に、SIH 道場は、教員がアクティブ・ラーニングに関するティーチングスキルを向上させ、各教員の専門科目で実践していくことが目的の一つとされている。そこで、各教員がアクティブ・ラーニングを実践する上で、「最も導入しやすい第一歩となる取り組み」について、アイデアを共

有した。登壇者より挙げられた意見としては、学生とのやり取り、学生の意見を聞く機会を少しでも良いので取り入れるということである。ミニツツペーパーを使うことや課題演習の後に学生同士で意見交換をさせるなど、授業の中で5分や10分でも、そのような時間を確保することから始めるのがよいのではないかという意見が挙げられた。また、eポートフォリオや反転授業などの手法やツールの導入を優先するのではなく、学生の学習に効果があることであれば、アナログな形式であっても、できることから実施していくことが重要であるという意見が挙げられた。

最後に、学生が感じているSIH道場の効果と教員が感じている効果には、アンケート結果からも大きな乖離があることも明らかにされており、教員は学生の意見に真摯に耳を傾け、次年度以降のプログラム改善に活かしていくことが重要であるということが共有された。



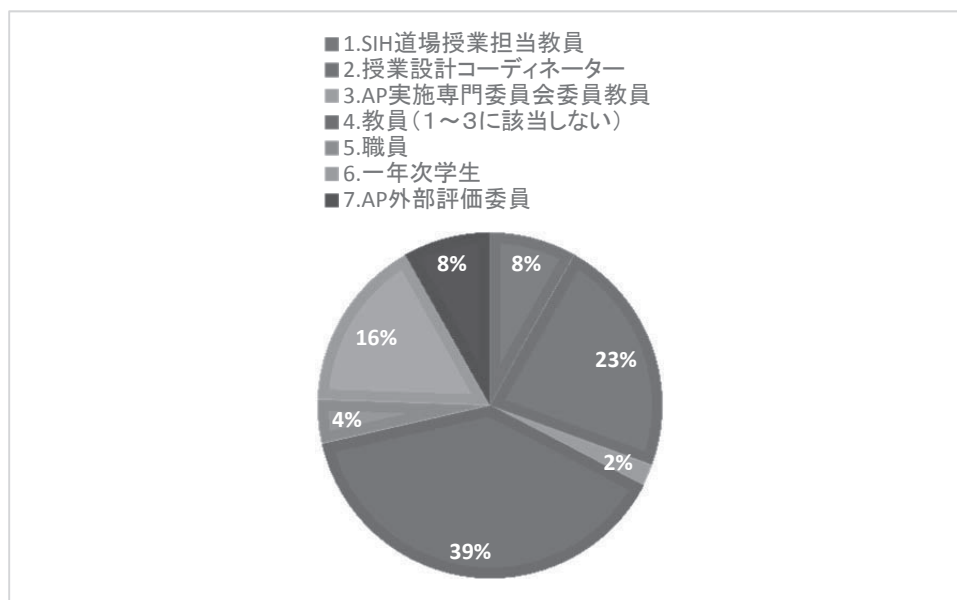
5) 平成 27 年度 SIH 道場振り返りシンポジウム 参加者アンケート集計結果

開催日時：平成 27 年 11 月 13 日（金）16：30～18：30

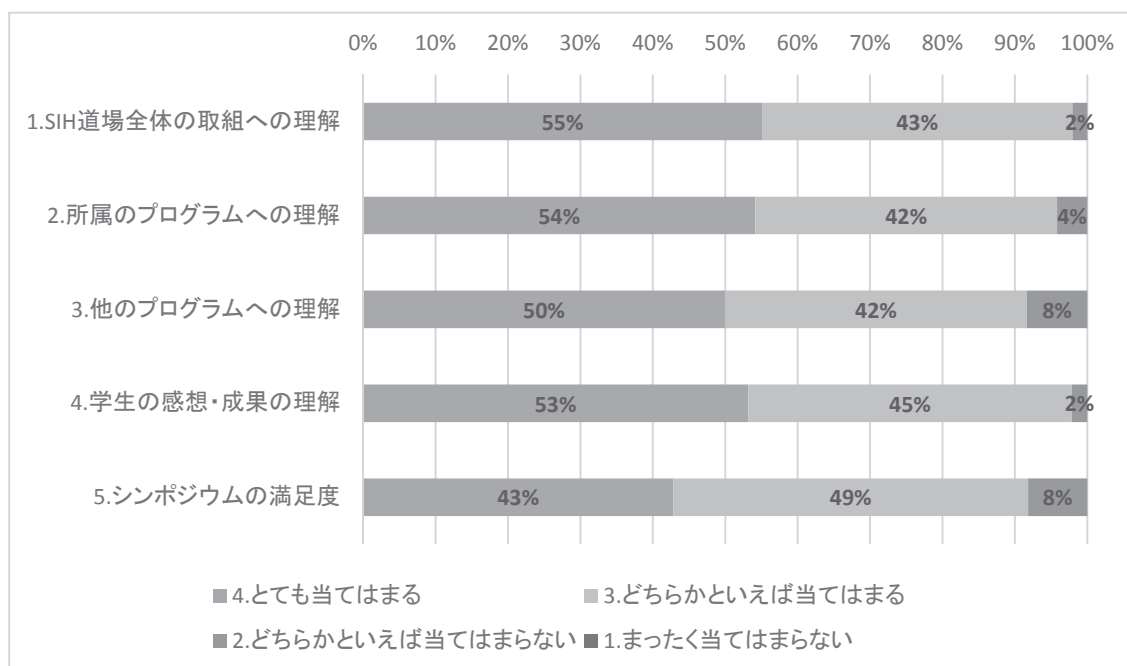
参加者数：127 名

アンケート回答者数：49 名（回収率：38.6%）

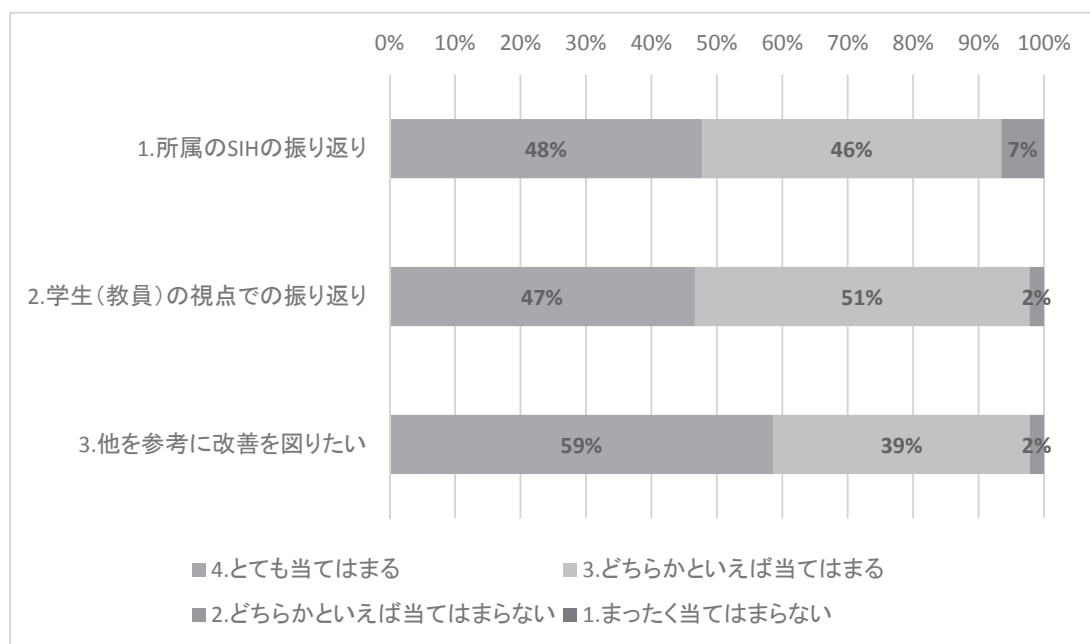
問 1. 回答者の所属について



問 2. 振り返りシンポジウムについて



問3. 振り返りシンポジウムに参加した感想



問4. 参加してよかった点、今後の改善点（自由記述）

- 幅広い観点からのシンポジウムで、SIH 道場全体の取り組みへの理解が深まった。
- 学生さん(10人)の意見・評価が聞けて大変良かった。今後とも学生の意見を教育にフィードバックしてほしい。
- 学外まで範囲を広げた取り組み等は大変面白いと感じた。
- 受講生の声を聴くことができたのが大変良かったと思う。
- シンポジウムを学部別に開催した方が密度が上がると思うが、他学部のメソッドは有用であると感じた。時間帯で会場セッションを分けるなどして両方を生かせれば良いと思う。
- 用語が分からない。会議の報告で聞くだけでは報告会に参加しても良く分からないなと思った。
- 学生からの意見が形式的なものでなく面白かった。ポスター発表については、説明の仕方が不十分な部局もあったので、もう少し準備してほしかった。
- 井戸先生と岩田先生の実施報告がたいへん参考になりました。受講生の報告、ディスカッションの中で出た「フィードバックのタイミング」についても考える機会になった。
- シンポジウムの中で学生さんの意見を聞くことができたのはよかったと思います。今まで、教員側に立った視点でアクティブ・ラーニングも実施していたので学生さんの意見は新鮮でした。
- 以前行われていたものと、SIH 道場との違いが良く分かりませんでした。少し理解できました。
- 学生が参加してくれたことがありがたい。多様な議論ができる共通のテーマが重要。文章力・プレゼン力がベース。

- 学生たちの生の声を聞いたのは良かった。個々の学科の先生方と当学科受講生のディスカッションを数例モデルケースで見たい。
- 他学部、他学科の SIH 道場の内容が分かった点が良かった。
- 他学科および他学部の実施内容がよく分かった。今回は初年度の教育として SIH 道場が機能しているが、これを学年進行に伴ってどのように利用していくかを考えたい。
- 大学の他の部局での取り組み状況、工夫が良く分かった。第 1 回なので仕方がないが、テーマを絞って短時間にした方が良い。
- 他教育プログラムの工夫を知ることができた。
- ポスター発表が分かりにくかった。
- SIH 道場の全体像を知ることができた(自分に関わっていないので)。時間が短いあるいは内容を絞った方が良かったと思う。学生の声が聴けたのは良かった。司会がシンポの流れを上手にまとめていた。
- 他学部(学科)の工夫が分かり大変参考になった。アクティブ・ラーニングとしての成果はあまり見えなかったもので、体験学習の予習をどれだけ学生がやったのか調べるべき。
- 井戸先生による実施報告が詳しくあり、イメージがつかめた。
- アクティブ・ラーニングでは「動機づけ」が大切だと思う。動機づけの仕方の工夫は必要だろう。あと、評価は個人で行い点数にしなくてもよいのでは? 予定を詰めすぎている気がします。
- SIH 道場の総まとめとして振り返ることができて良かったです。
- 特になし。
- 学生からの SIH 道場取り組みへの感想(良い点・改善点)が直接聞けたことが良かったと思う。今後も継続していただきたい。
- ポスター発表の際に混雑していたためポスターの配置を変更するべきだと思う。おそらく、今回のように半円に並べるより、横一列で並べた方がましなのではないか。
- 他がしていたことを知れて良かった。
- 他の学科の SIH のことも知れて良かった。
- 「SIH 道場」で振り返りを行うことで、今年行った・計画した授業の評価を行うことができた。ほかの学部学科での取り組みを聞け、自部署に還元できればと考えます。
- 他の学科がどうであったのかを知ることができて良かった。時々眠たくなる時がある。
- 言いたいことを言うことができた。
- SIH 道場を通じ、どのような AL を行っているか理解できた。このような学習を学生が経験していることがわかったので、自分の担当する授業にもつなげていきたい。
- 今までの教育プログラムとの関連性。画一性の排除。
- 学生から直接感想を聞くことができてよかった。もっと学生の視点での取組報告や感想を聞ける時間があればよいと思う。
- 学生の意見が聞けたこと。

問5. 所属のSIH道場を体験しての感想および意見（自由記述）

- 各学科の取り組みの個性も、もっと前面に出しても良いと思った。
- これまでやってきたことを「一歩だけ前に進める」という井戸先生の言葉に救われた気がします。「ICTよりアナログで」。
- 多様性を持つ学生との協働力を実現するのであれば、プログラムを各学科に任せるのではなく、全学的に統一したプログラムを全学学生をミックスして実施した方が効果が高いと思われる。
- 今年はあまり多くの部分を担当していないので、来年からどのようにするか考えて行きたい。
- アクティブ・ラーニングを行いやすい学科/行にくい学科があると思います（答えのある全員合わないといけない内容）。行にくいような学科でうまく工夫していると思われる取り組みがあれば、パッケージとして紹介するといった活動を進めてほしい（支援の方法の工夫）。
- 大学入門講座の期間内で実施していたため、スケジュールがタイトすぎたのが失敗だったと思います。
- 読書レポートは1回のコメントのみなのでもう少し振り返りが必要。
- 体験させていただく or 学生が行っているところを見せていただくどちらかがあるといいと思いました。
- 実際にアクティブ・ラーニングの実例（特に専門科目）を示して頂けると助かります。
- ティーチングポートフォリオを積み重ねることの理解を教員に指導する機会を実施専門委員会執行部をお願いしたい。
- 「文章力をつける」について、強力に意図して企画実施しましたが、学生の評価も高かったことはとてもうれしく思いました。教員が意図して教育すると学生は反応してよい成果が出るのではないかと思いました。協働力やプレゼン力についてはこれから考えていきたいと思えます。
- このプログラムを続けてほしいと願っています。また、来年も「早期臨床体験実習」をしたいです。
- 事前準備など、学生のみならず教員にも良いプログラムであると思う。
- 新しい取り組みをスタートさせる為にはある程度必要なことかもしれないが、取組の実績をまとめるための実施にならないよう配慮が必要と思った。問2と問3と「シンポジウムについて」「シンポジウムに参加した感想―」と区別されている違いがよくわかりませんでした。何を探ろうとしているかの意図？
- すみません。遅れて参加しました。来年は最初から参加したいと思えます。30分ぐらい参加しました。おもしろかったです。

資料①：平成27年度SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～総括

平成27年度 SIH道場～アクティブ・ラーニング入門 総括



徳島大学
総合教育センター
久保田 祐歌

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」測定取組

大学等名：徳島大学
テーマ：テーマ1（アクティブ・ラーニング）

本事業は、「鉄は熱いうちに打て」(Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」を初年度に導入し、反転授業、グループワーク、eポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクシオンを基盤としたアクティブ・ラーニングの体感を促して、学生と教員が共に学び成長し、成長することで、アクティブ・ラーニングを学生と教員が共に実践していくことである。

学生と教員が共に成長

● 初年度学習を目指す専門などの関連付けができていない
● 大学での学修に不可欠なラーニングスキルが不十分
● 高学年において能動的学修を実践できていない

● アクティブ・ラーニングが形式だけにどまり、効果がない
● 新しい教育方法が分からない
● 自らの授業を振り返り、改善を検討する機会を作れない

SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
ラーニング/ティーチングスキルを向上

● 本事業を実施することにより、学生のラーニングスキル、教員のティーチングスキルが向上し、学生は能動的な学修し、教員は能動的な教育改善に取り組むこと。これまでの教育改革で増加した専門目におけるアクティブ・ラーニング型授業をより実質化することができる。
● 本事業により、学生、教員の双方が実践を通じて能動的学修のスキルを習得し、eポートフォリオの活用や全教員がSIH道場及びそのFD等に関わることで、大学全体にアクティブ・ラーニングを浸透させることができる。

	25年度 (前年度)	26年度 (前年度)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	47%	60%
アクティブ・ラーニングを行う専任教員の割合	52%	63%

SIH道場の目的

学生と教員が共に学び成長する場

- ◆ **学生**（ラーニングスキルの修得）
 - ▶ 専門分野の早期体験により学修・研究への動機づけを行う。
 - ▶ 大学での学修に必要なラーニングスキルの基礎を修得する。
 - ▶ 能動的学修に繋がる振り返り(省察)を行うための基礎と習慣を身につける。
- ◆ **教員**（ティーチングスキルの修得;OJT型FD）
 - ▶ 実践を通じてアクティブ・ラーニング型授業を実質化する。
 - ▶ ルーブリック評価、反転授業等の新しい教育方法の修得する。
 - ▶ 自らの教育経験を振り返り、改善に繋げる。

◆徳島大学におけるアクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学修のこと。

2014年5月21日大学教育委員会承認

SIH道場 ～アクティブ・ラーニング入門～

徳島大学の1年次全員が受講する(1324名)
初年度教育プログラムで、

- ①専門分野の早期体験、
- ②ラーニングスキルの修得、
- ③学修の振り返りを行う

ことを主な目的とする。

授業内容: 学科・専攻単位で設計
担当教員: 学部・学科教員(159名)
授業支援: 教育改革推進部門・コンテンツ作成WG

キーワード: 専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

SIH道場 ～アクティブ・ラーニング型初年度科目～

SIH道場とは、徳島大学の1年次全員が前期に受講する初年度教育科目で、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの修得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

キーワード: 専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

◆ **授業の設計手順**

授業は、各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループのメンバーが、設計のための支援を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえること、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施しつづけるための能動的学習の基礎を身につけるような授業を盛り込みます。そのため、下記の内容を必須項目として実施します。

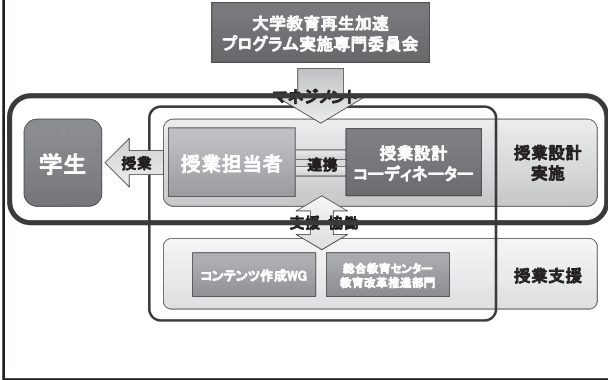
- ① 専門分野の早期体験
 - 基礎研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ② ラーニングスキルの修得 (反転授業・グループワーク等の実施)
 - 双方向型プレゼンテーション・協働力
- ③ 学習の振り返り (eポートフォリオによる省察)
 - 学習内容の省察、記録、学生、教員間の共有等

※③～⑤をそれぞれが関連し、スキルの修得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

◆ **授業のひな形(1つの例)** ※より詳細なひな形は別紙

- (1) 導入: 大学での学び・動機づけ
 - ① 先輩の講義テーマ: ○の学科には大学での学び○の経験 (講義+体験)
 - その内容について、レポートとして発表させる。
 - 授業外: 学んだことをeポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
- (2) ラーニングスキル入門: 学習を行う上で共通する基本技術の習得
 - ① 文章の書法
 - 反転授業事前学習: レポートの書き方入門
 - 対面授業: (1)で作成したレポートについて、ルーブリックを用いた評価。その中確認、フィードバック
 - 授業外: 学んだことをeポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
 - ②プレゼンテーションの仕方
 - 対面授業: (1)で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いた評価。その中確認、フィードバック
 - 授業外: 学んだことをeポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
 - ③グループワーク (他者の協働)
 - 反転授業事前学習: 学びの目的・発想 (KJ法)
 - 対面授業: KJ法を実践し、ルーブリックを用いた評価を行う。
 - 授業外: 学んだことをeポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
- (3) 早期体験: ○○分野の先端研究・現場体験
 - その内容について、レポートに文章による。グループでレポートを作り、プレゼンテーションを行う。
 - eポートフォリオに記入し発表を行う。
 - 授業外: 学んだことをeポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

SIH道場実施に関わる各アクターの関係



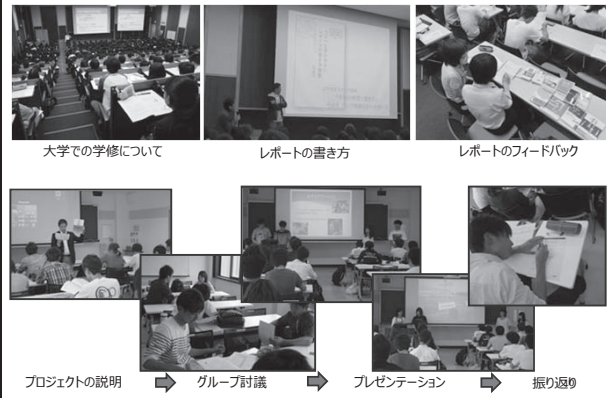
平成27年度SIH道場(15プログラム)

学部	学科	①体験学習	②ラーニングスタイル		③道場の
			文筆力	協働力	
総合科学部	人間文化学科	大塚美術絵画学	練習レポートの作成	基礎セミナーにおいて共同でプレゼン作成・実施	プロジェクトへ教員がコメントし、学生同僚の道場を行う
	社会福祉学科 総合理数学科	芸術現場体験	体験学習レポートの作成		
医学部	医学科	「芸術現場体験」	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでK3法を用いて用紙単位でプレゼン作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科(看護)	先輩の講演の聴講(チーム医療入門)	WS終了後に出た意見をもとめる	作成したプロジェクトに基づいてプレゼン	学生が学んだことを書き教員がコメント
	保健学科(放射)	先輩からのメッセージ聴講	講義および書かせたものの学習	先輩でWSを行いプロジェクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント
	保健学科(検査)	先輩からのメッセージ聴講	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業
歯学部	歯学科	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせた評価	「チーム医療入門」でのK3法トーク	学生が振り返りを行い教員がコメント
	口腔保健学科	「K3法の体験学習」「相互歯磨き学習」	「リアルタイムライティング」聴講 「読書レポート作成」	「PBL」BL入門「PBL」BL 「読書交流学習」でのプレゼン	「新入生研修」でのコンテンツゲーム、グループカギ
薬学部	薬学共通	先輩の講演(「チーム医療入門」)	WS終了後に出た意見をもとめる 最終レポート作成	作成したプロジェクトに基づいてプレゼン	学生が振り返りを行い教員がコメント
	建設工学科	現場や研究室訪問	体験学習のレポート作成・ピア評価	専門分野のトピックでK3法のピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
工学部	機械工学科	「機械基礎実習」での技術体験 「習得」清掃活動 ②発表体験	「合宿研修」での書き方指導 教員が指定したテーマで、グループ発表準備作成・発表	専門分野のトピックでK3法のピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	化学応用工学科	体験学習①のレポート作成・ピア評価	体験学習②のレポート作成・ピア評価	体験学習③についてのK3法のピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
	生物工学科	企業等の見学	体験学習①のレポート作成・ピア評価	体験学習②のレポート作成・ピア評価	体験学習③のレポート作成・ピア評価
	電気電子工学科	「研究室見学ガイダンス」	体験学習のレポート作成・ピア評価	「新入生の研究」に関するプレゼンピア評価	専門分野のトピックでK3法のピア評価
	知能情報工学科	作品制作	体験学習のレポート作成・ピア評価	体験学習でのグループ制作を行い、プレゼンピア評価	学生が振り返りを行い教員がコメント
光応用工学科					

SIH道場の様子 保健学科(2015.4.11.)



SIH道場の様子 総合科学部(2015.4-7)

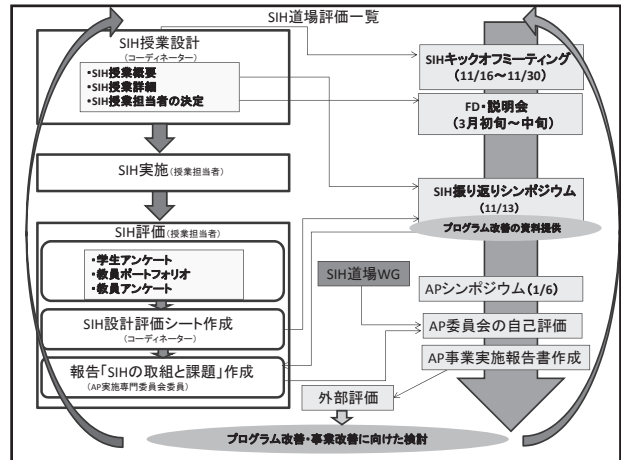


SIH道場の様子 歯学部(2015.4-7.)



SIH道場の様子 建設工学科(2015.8.4.)

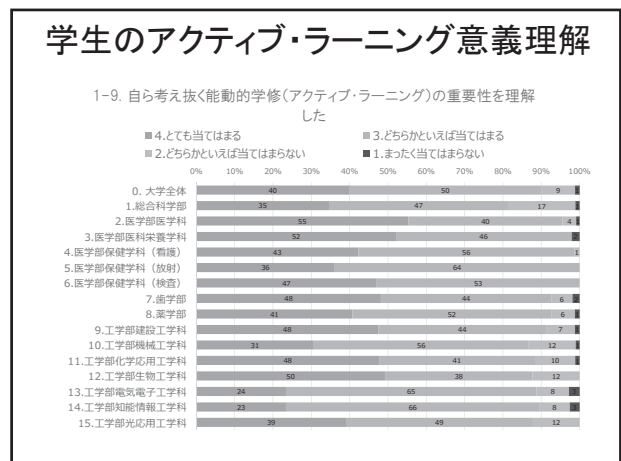
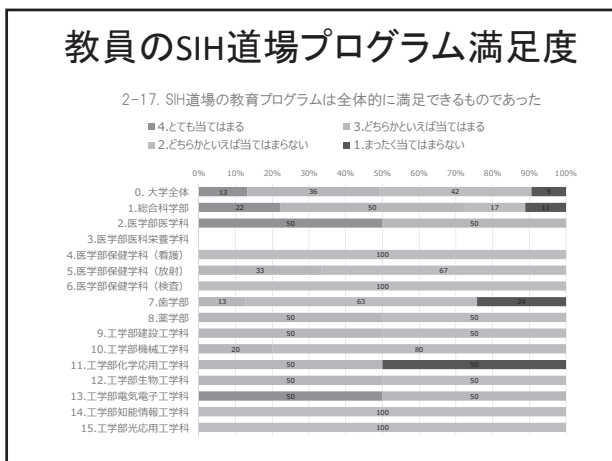
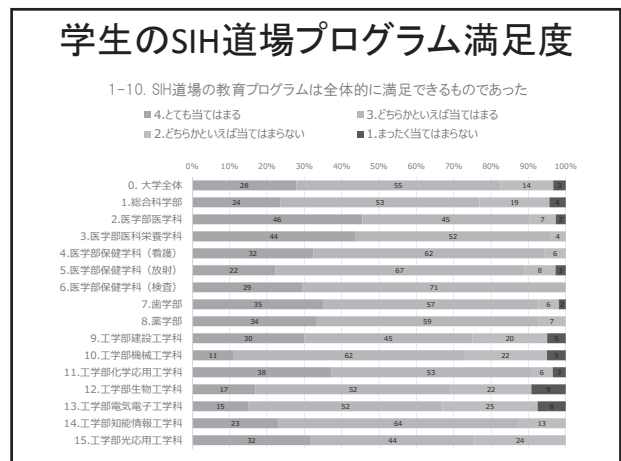




SIH道場アンケート結果概要 (学生対象・教員対象)

学生対象
 各プログラムの終了後に実施
 1158名が回答 (回答率87.5%)

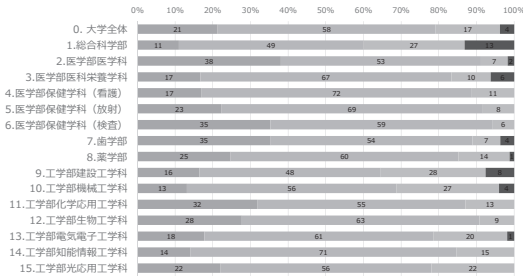
教員対象
 各プログラムの終了後に実施
 54名が回答 (回答率33.9%)
 ※担当者は159名 (チーム医療入門担当者を除く)



学生のSIH道場の目標理解

1-1. SIH道場の目標を理解して学修を行った

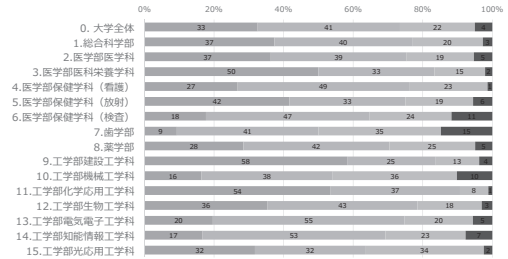
■ 4.とても当てはまる ■ 3.どちらかといえば当てはまる
 ■ 2.どちらかといえば当てはまらない ■ 1.まったく当てはまらない



学生の授業外学修

1-8. 授業外(事前または、事後)において学修を行った

■ 4.とても当てはまる ■ 3.どちらかといえば当てはまる
 ■ 2.どちらかといえば当てはまらない ■ 1.まったく当てはまらない



授業設計コーディネーターの自己評価:プログラム設計評価シート

プログラム名	総合	改善したい点	次年度に向けた対応
総合科学部	4(概ね十分)	ALの柔軟な適用の余地	-----
医学部医学科	4(概ね十分)	振り返りWSの方法	WS後に全員でまとめ
医学部医科栄養学科	4(概ね十分)	SIH道場の理解の遅れ	教員の理解促進
医学部保健学科(看護)	4(概ね十分)	スケジュールがタイト	余裕を持った授業に
医学部保健学科(放射)	5(十分)	体験学習の時間的制約	新しい時間枠を設置
医学部保健学科(検査)	4(概ね十分)	-----	-----
歯学部(歯学・口腔保健)	4(概ね十分)	-----	負担減のシステム構築
薬学部	4(概ね十分)	-----	学生のSIH理解の促進
工学部建設工学科	3(ふつう)	評価基準、振り返り	明確化、振り返りの徹底
工学部機械工学科	4(概ね十分)	ルーブリック、事前学習時間確保、体験学習	-----
工学部化学応用工学科	3(ふつう)	テキスト、ビデオ教材等	改組後による大幅変更
工学部生物工学科	3(ふつう)	時間不足・事前協議	時間的余裕をもたせる
工学部電気電子工学科	4(概ね十分)	Maharaの使用法	Maharaの使用法指導
工学部知能情報工学科	4(概ね十分)	協働力等のテーマ設定	改組後のため再計画
工学部光応用工学科	4(概ね十分)	評価基準の理解不足	基準を教員が解説
医療教育開発センター	4(概ね十分)	WS回数	学年を通しての開催

課題

- SIH道場の目標の共有
- 各プログラムの成果を確認し、改善点を次年度の設計に繋げる
- 学生アンケート(自己評価)と学修成果の評価(教員評価)のずれに注意した設計
- 支援内容・方法の検討

資料②：総合科学部SIH道場報告

総合科学部SIH道場報告

平成27年11月13日
井戸 慶治

基本方針

- 改組を控えていることもあり、急激な負担増を避けたい。
↓
- 小さくても確実な一歩を
- 既存の授業枠の中で漸進的にアクティブ・ラーニングを強化
↓
- 新入生向けの「大学入門講座」(全学共通教育の単位)と「基礎ゼミナール」(総合科学部の単位)の枠組みの中で、従来からの変更を少なくする形で「SIH道場」を開始

科目と役割分担

- 1) 大学入門講座
 - 絵画の見方講座と「デスクリプション」: 体験学習
 - レポートの書き方講座と読書レポート: 文章力養成
- 2) 基礎ゼミナール: プレゼンテーション、協働力(体験学習、文章力養成も可)
↑
多くの基礎ゼミクラスではすでにプレゼンテーションと協働力の要素が。体験学習や文章力養成が含まれているクラスも

絵画の見方講座とデスクリプション

- 目的
 - 1) 優れた文化施設である大塚美術館を利用して、美術作品を楽しみつつ、それに関連した歴史、宗教、文学などを含めた欧米文化を総体として体験する。
 - 2) 「デスクリプション」により、学生は単なる主観や解釈・作品背景などの予備知識を排した客観的態度で対象に向かい、視覚的イメージを文章化するというひとつの汎用技能を学ぶ。こうした能力は、例えば理系学生が実験や観察を記録するさいにも必要。

経過と結果

- 4月10日午前: 絵画の見方講座: 美術史担当教員が西洋絵画の基本的な見方と「デスクリプション」を解説。
- 同日午後: 大塚美術館を訪問し、絵画一点を選んでデスクリプションのレポートを作成(緑色は新規、または昨年度からの変更点)。
- 担当教員が全体に目を通し、優れたレポートや問題のあるレポートについてはコメントしたうえで、「飛ぶノート」を試用して学生に返却
- 学生280人に作品は1000点以上と選択肢が多い⇒学生は分散し、仲間と同じ作品を選ぶ者はほとんどなく、真摯に取り組む。
- 「専門を事前に」体験するという全学の趣旨には必ずしも合致していない。総合科学部の専門は非常に多様で、ひとつのことに絞りにくい。また、体験学習は「基礎ゼミナール」の一部クラスでも十二分に実施。

レポートの書き方講座と読書レポート

⇒ポスター発表で

基礎ゼミナール

- プレゼンテーション力と協働力の養成を重点的に。
- →これらの養成については、少なくとも二、三回の授業における実施や反転授業・ルーブリック使用を要請。
- 定員15名までの20クラス。担当教員は、取り扱うテーマをシラバスで予示し、学生はそれを読んで受講希望届けを出し、その希望に沿って各クラスに配属される。
- →学生教員とも比較的兴趣のあるテーマを選択できる、動機付けの上での利点。当学部の特徴である多様性による。
- 各クラスのテーマ・課題の範囲内でグループ・ワーク(ディスカッション・調査・発表内容の作成など)をおこない、その結果を発表。グループ・ワークとプレゼンテーションを別々の課題設定でおこなうこともできる。

各クラスのテーマなど

- 1) 研究の面白さを知る。英語力の伸ばし方
- 2) アカデミック・スキル
- 3) 歴史
- 4) オペラ
- 5) 時事問題・歴史問題
- 6) スポーツ・ボランティア活動
- 7) クリティカルリーディング・ライティング、言語
- 8) アーツ・サイエンス
- 9) 統計学、確率論
- 10) アカデミック・ライティングなど汎用諸技能
- 11) 基本的人権など
- 12) ものづくりにおけるデザインプロセス
- 13) 文章表現など汎用諸技能
- 14) 将来設計(大学院進学・就職)
- 15) 科学的態度・情報リテラシー
- 16) プレゼンテーションなど汎用諸技能・科学雑誌
- 17) グラフによるモデル化
- 18) 自然環境体験学習・環境調査など
- 19) ジオパーク
- 20) 科学コミュニケーション

結果、成果

- プレゼンテーションやグループワークの実践は、比較的多くのクラスにおいて肯定的に評価されている。
- 多様なテーマのクラスが用意され、関心に応じたものを選択できる点も評価されている。
- いくつかのクラスでは、担当教員の創意工夫により、非常に優れた授業がなされた。
- 特にグループによるレポートやプレゼンテーションの、ピア評価を採用した担当教員が複数いて、客観的視点の養成などの点で効果的だったことが報告されている。
- グループワークの導入により、そうでなかった昨年より積極的に取り組む学生が増えたとの報告も。
- ルーブリックに関しては、独自の評価シートを作成した意欲的な担当教員もいた。



A先生のゼミ 教員向け振り返りシートより

- 「あすらむらんど子供科学館」の会場で、一般市民を対象とした科学発表を企画・実施させた。⇒夏休みの自由研究の参考となる素材を提供(体験学習・地域との関連・プレゼン力養成)
- プレゼンテーション能力や、メールの書き方、企画の立て方といった社会人基礎力を身につけさせる。(汎用技能の養成)
- 大学の研究に必要な科学研究の手法の基礎も学ばせる。(専門基礎)
- 学生に別々の役割を与え、責任や権限、情報量の違う人とのチーム活動の難しさも学ばせる。(協働力・コミュニケーション力養成)
- 科学発表を実施したのち、チーム報告書を書かせ、アンケートデータの分析力と文章力の養成もおこなった。(文章力養成)

先生のゼミ

- 生物関連の諸問題の中から、グループでひとつ選択し、調査、発表をおこない、全体で討論し、独自に作られた評価基準表を用いてピア評価。
- 1ヶ月ごとにグループをシャフル、1クールごとに調査、1次発表、質疑応答、2次発表、レポート作成というサイクルを繰り返す。
- 事前にクリティカルシンキング関連の本、ちきりん著『自分のアタマで考えよう(知識にだまされない思考の技術)』ダイヤモンド社、2011年、をパワーポイントで要約させる。⇒プレゼンの手始めに。

テーマ一覧

第1クール: 外来種問題(爬虫類・哺乳類・節足動物・魚類)

第2クール: 家畜を巡る諸問題・イヌの利用を巡って(実験動物vsペット)・伝統医療(鍼・灸・カイロ)・代替医療(温泉・マクロビ・ヨガ・がんもどき)

第3クール: 遺伝子検査の光と影(スポーツ遺伝子①、②)・遺伝子検査の光と影(病気の遺伝子①、②)

発表評価シート

- 他のグループがおこなった発表について、独自の評価基準表を用いてピア評価。
- 発表の内容・話し方と態度・パワーポイントの出来ばえ、配点は各40、20、40。
- 発表の内容はさらに、話題の選択・導入部・全体の構成・多角的視野・論理的・一貫性・資料の裏づけ・引用や文献リストの形式・質疑応答の8要素各5点に。
- 最終結果に対しては「レポート評価表」も、10観点5段階。
⇒文章力養成の要素も



共通点

- スキルのない学生に段階的で無理のない授業設計。しかし、学生にも授業外での十分な準備を要請。
 - 体験的实践も重視。通常時間外、土日などでも実施。
 - 独自の評価基準表を作成
 - 関連の施設・団体にも得るところがある。
 - 二、三年にわたる経験、創意工夫、周到な準備(関連施設や団体との早めの連絡、実践前の学生への基礎訓練)がある。
- ⇒一年目で教室のみの授業において、同様のレベルに達するのは困難だが、部分的に学ぶべき点も多い。

課題など

- 一部のクラスでは、協働力またはプレゼン力の養成をあまり実施できず。: 振り返りシートの一例「協働作業については時間不足と、教員の認識不足により、ほとんどできなかったことが反省点」
- グループワーク・体験学習には分野により適不適(医療系、実験系⇔人文系、数学、経済学など)があるのでは。また担当教員の年齢にも関係。コミュニケーション力などの養成には有効。
- プレゼンテーションについては、情性に流れる傾向も指摘されている。
- ポートフォリオの途中導入、習熟に時間が必要、などの問題

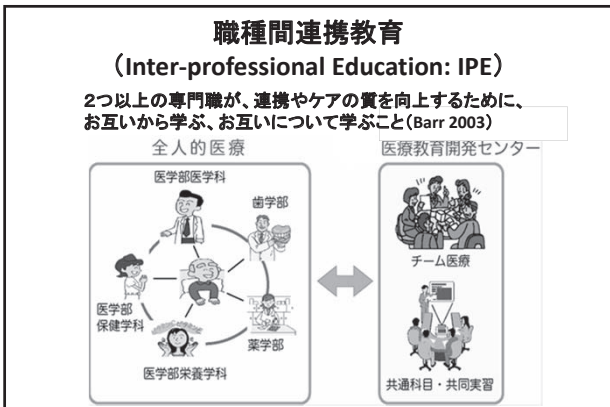
資料③：蔵本地区1年生合同ワークショップ「チーム医療入門」

SIH道場振り返りシンポジウム
第9回「チーム医療入門」
蔵本地区1年生合同ワークショップ
2015

医歯薬学研究部 医療教育開発センター
 岩田 貴

Agenda

- 職種連携教育におけるチーム医療入門WS
- チューターアンケート結果
- 学生アンケート結果
- 今後の課題



**「チーム医療入門」蔵本地区1年生合同
 ワークショップ (2007年～)**

今回のワークショップの方法

テーマ『在宅医療の困り事解決
 ー私達はどこまで解決できるかー』

講演中に患者ビデオを上映
 各班が2つの困り事の解決を考え、模造紙1枚にまとめる

1. 食べ物が飲みこめない(嚥下障害)
2. 床ずれ(褥創)がでやすい
3. 下のお世話が大変
4. 仕事と介護に疲れて、私の人生どうなるの？

↓

3班(18名)合同でプロダクトの発表、質疑応答
 解決するには今後自分たちに何が必要かも議論する

蔵本地区1年生合同チーム医療入門概要

学生		教員 (チューター、その他)
体験学習 =先輩からのメッセージ を聴講する	専門職からの講演会	
・ 協働力を養う ・ プレゼン力を養う ・ リフレクション(振り返り) を行う	ワークショップ	グループの 協働力・プレゼン力 を評価する(ループ リック評価)
・ 全体振り返りレポート を作成・提出する	ワークショップ後	全体振り返りレポートを 評価する(文章力の評 価)

☐ : 新しく追加される作業

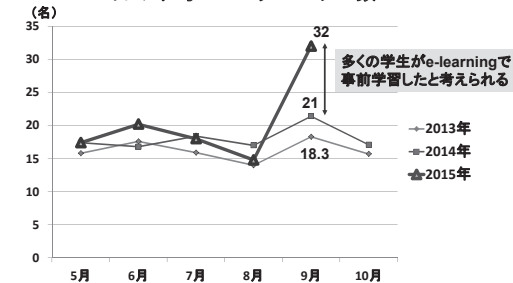
学生の事前学習

- ・在宅医療に関連した「褥瘡」、「嚥下障害」に関する知識(スライドを用いた反転授業)
- ・KJ法の説明(総合教育センター作成)
- ・ワークショップのスケジュール
- ・ルーブリック評価表
- ・振り返りレポート課題



医療教育開発センターHPを
Moodleで各自視聴した。

医療教育開発センターHPユーザー数 ～1日の平均ユニークユーザー数～



SIH道場情報閲覧者数(推定)=(32-21(名))×30日=330名

チューター事前説明会 WS進め方のコツ

手が止まってしまったときはどうしましょう？

手を動かしていない班員に声をかける



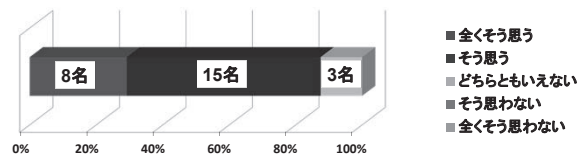
・ブレインストーミング、島づくり、関連性の検討で手が止まる時があります。
・横合いを見て、他の班の様子を偵察に全員で行くのも気分転換になります。
・開始から15～20分で時計係に島を作ることを告げる。
・チューター「なかなか意見が出ませんね、みんなで体を動かして行きましょう」手を動かしていない学生に島の名称・因果関係を考えたらう。

全てのチューターにワークショップにおける困った事例の紹介や、
進め方のコツ(時間配分)、ルーブリック評価表の付け方、
ティーチングポートフォリオ(Mahara)の入力方法を説明した。

Agenda

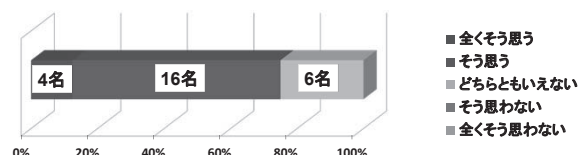
- チーム医療とは
- チューターアンケート結果 (26名回答)
- 学生アンケート結果
- 今後の課題

Q1. このような形式のWSは学生のためになる と思いますか？



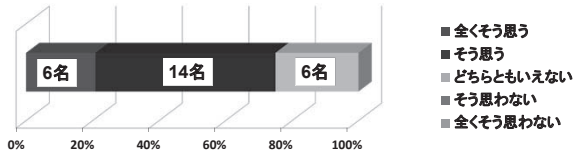
- ・早期から医療の仕事について考えることができてよい。
- ・ほかの学科との交流ができてよいと思い。
- ・発言したり、発表したりするトレーニングになると思います。
- ・チーム医療を実践するうえで基本となるコミュニケーションスキルを身に付けることに有用。
- ・意見をまとめ上げる力が身に付く。
- ・他学科との交流の場はなかなかなく、テーマも身近なもので、考える力が育つと思った。

Q2. このWSに参加することは自分自身のためになる と思いますか？



- ・学生のみまとめ方、話し方など勉強になりました。
- ・自分も学べることが多い。
- ・学生が自主的に行動・発言するところを見てよかった。
- ・将来のためいい経験
- ・他の学科の学生の学びの進捗も感じ取れる。
- ・ディスカッションを促すのが難しく、良い経験になりました。

Q3. 来年度以降も、WS形式での合同企画を行ったほうがよいと思いますか？

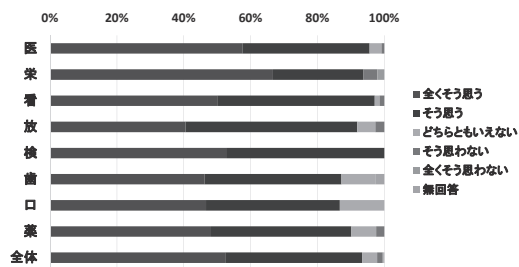


- ・自身の専門や将来の職場について問題提起する力が向上できると思う。
- ・学生、教員どちらにも、日常とは違う研修内容を1年に1回くらいは経験することで、見方とかかわることも多いと思う。
- ・学部横断的なのはよいと思います。
- ・1年生だけでなく継続したほうがよい。
- ・もう少し、医学、看護など知識が増えてからのほうがいいかと思います。

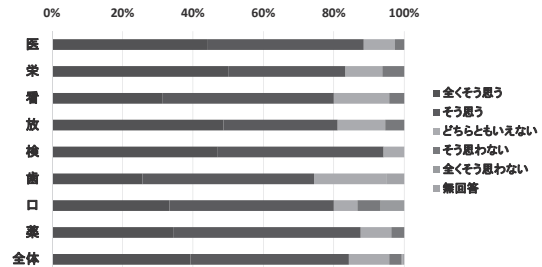
Agenda

- チーム医療とは
- チューターアンケート結果
- 学生アンケート結果 (420名/421名 回答)
- 今後の課題

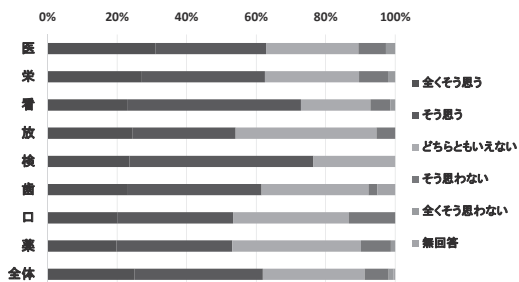
Q2. 他者と協力して、一つのテーマについて協議(意見交換)することができたと思いますか？



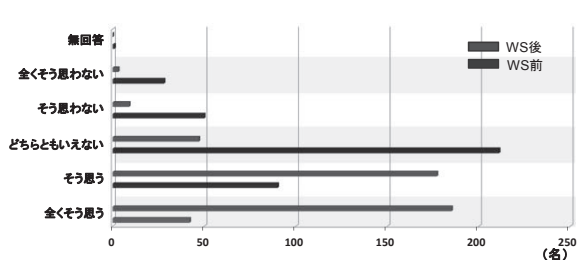
Q3. 講演会の内容について討議することができたと思いますか？



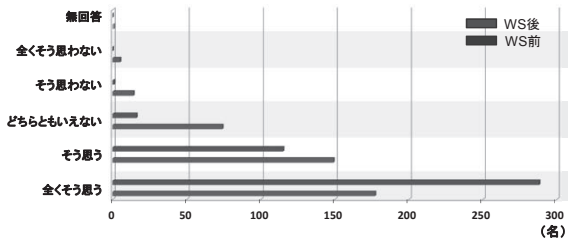
Q4. 今後の自分の学習の在り方について討議することができたと思いますか？



Q5. 全体を通して、このワークショップは良かったと思いますか？



Q6. 他学部、他学科の学生と学ぶ機会が必要だと思いますか？



今後の課題

- ✓ ルーブリック評価の検証
プレゼン力は個人の評価になる
協働力はグループ全体の評価になる
文章力は各学部学科専攻に任される
- ✓ 学生が今後の学習のあり方を考えることができるように
1年生が取り組みやすい課題を探す
- ✓ 学年積み上げ型の職種連携教育プログラムへ発展
少し専門的知識がついた学年でもIPE-WSを行う
診療現場での職種連携実習に繋げる

3. 平成 27 年度 SIH 道場の成果と課題

3-1. 学生・教員対象 SIH 道場アンケート結果

1) SIH 道場の成果検証

大学教育再生加速プログラム事業全体としては、各部局からの委員で構成される AP 実施専門委員会（委員長は教育担当理事）が事業計画に基づき運営を統括し事業を推進している。SIH 道場については、プログラム改善につなげるための評価指標を策定し、これに沿ってアンケート調査等の効果検証を行っている。SIH 道場において学生は、①専門分野の早期体験により学修や研究への意欲を高め、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得により大学での学びの基礎固めを行い、③学修の振り返りにより主体的に計画を立て学び続ける習慣を身につける。他方教員にとって SIH 道場は OJT 型の FD としての機能を持ち、①アクティブ・ラーニングの実質化、②反転授業、ルーブリックによる評価法の修得、③教育経験の省察を行うなどのティーチングスキルをつける場となる。

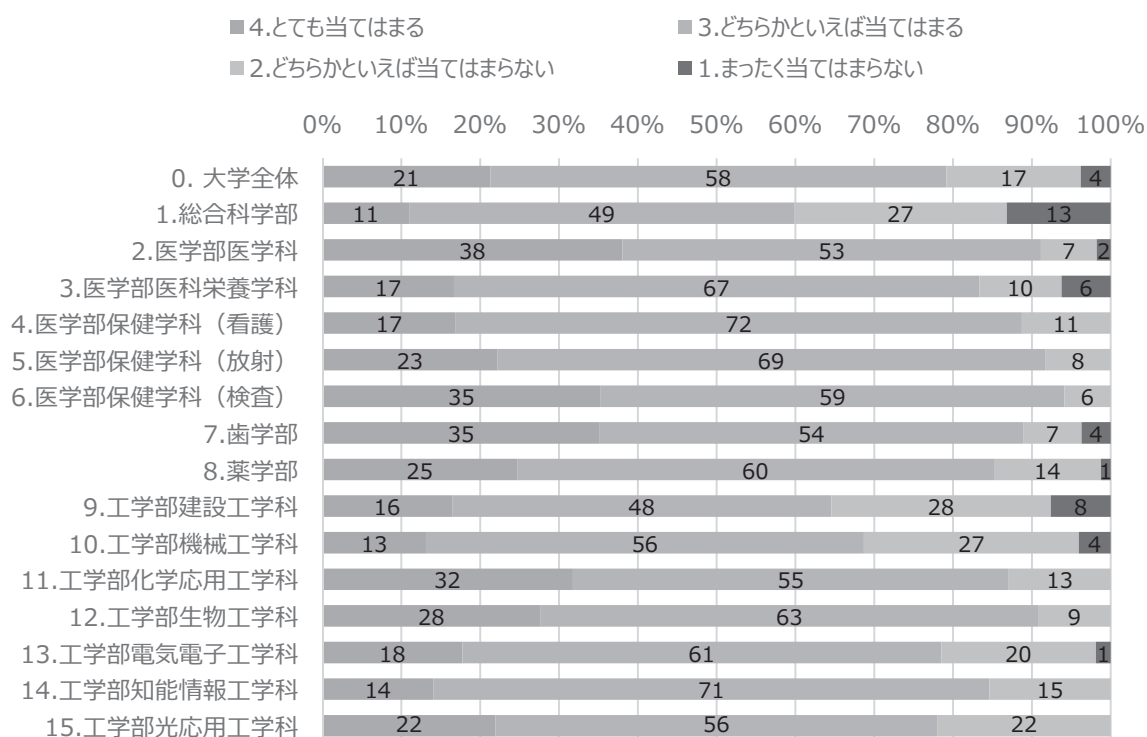
SIH 道場では、「学生と教員が共に成長する」ため、SIH 道場の成果検証においては、学生と教員がそれぞれの目標に到達したかを把握することが必要となる。そのため、各学部の SIH 道場の終了後には学生および教員対象のアンケートをそれぞれ実施している。これらのアンケートの結果については、SIH 道場の実施支援を担当している総合教育センター教育改革推進部門が集計およびとりまとめを行い、結果を各プログラムに返却している。これらの結果や学生の学修成果を踏まえて、各プログラムの SIH 道場授業設計コーディネーターは、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、必須項目の到達度チェックをするとともに、学生の学修成果や改善点、次年度に向けた対応を記述する。次年度の授業設計コーディネーターは、これに基づきプログラム改善を行うことができる。

2) SIH 道場学生アンケート結果概要

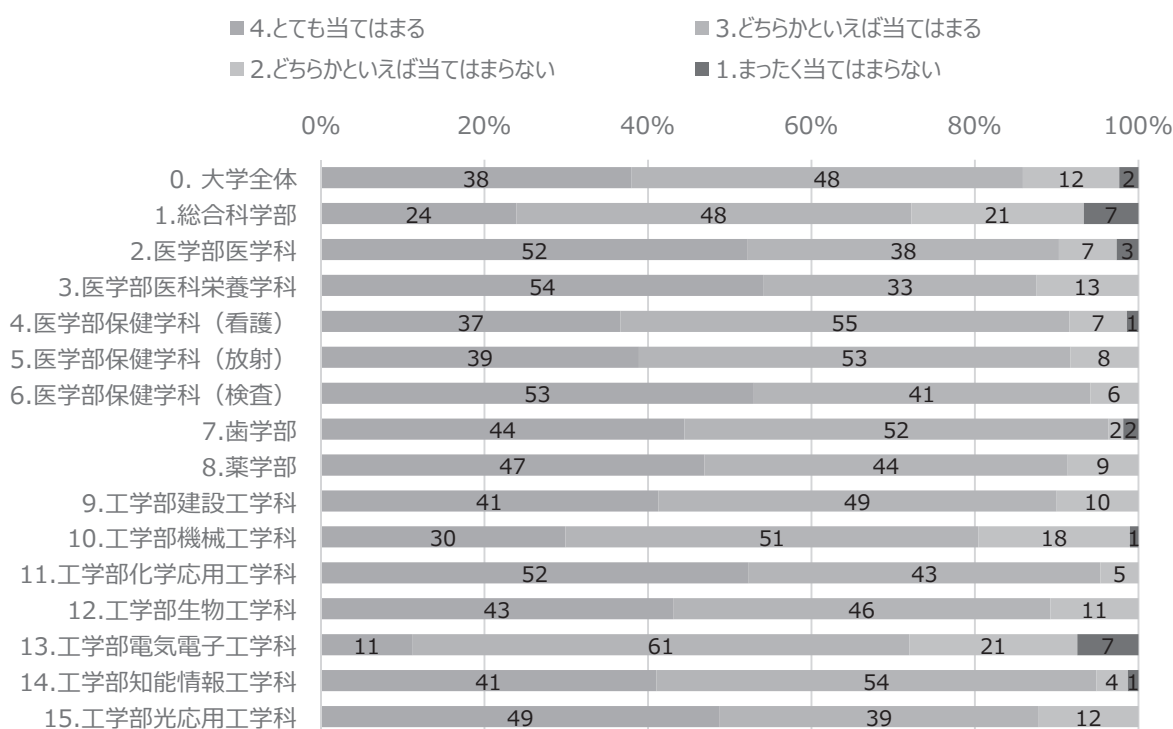
学生アンケートは、各学部・学科の SIH 道場終了時に実施している。学生は、到達目標に関連する、「1.SIH 道場の目標理解」「2.体験学習を通じた興味関心の向上」「3～5.ラーニングスキル（文章力・プレゼン力・協働力）の要点理解」「6.課題の評価基準の理解」「7.学修の振り返りの意義理解」「8.授業外の学修」「9.能動的学修（AL）の意義理解」「10.SIH 道場の満足度」についての 10 設問に 4 件法で回答した（回答率 87.5%）。結果としては、10 設問の全てに 7 割以上が肯定的な回答をしたという数字になった。

それぞれの設問については、各プログラムによって結果の数字の差が大きくみられる場合があり、特に「8.授業外の学修」については、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した学生が、一番低いプログラムにおいて 50%であり、最も高い数値のプログラムにおいては、91%であった。また、「10.SIH 道場の満足度」に関する設問については、7 割を若干下回るプログラムも工学部において見られたが、実施プログラム全体でみると 83%の学生が「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択したという結果となった。

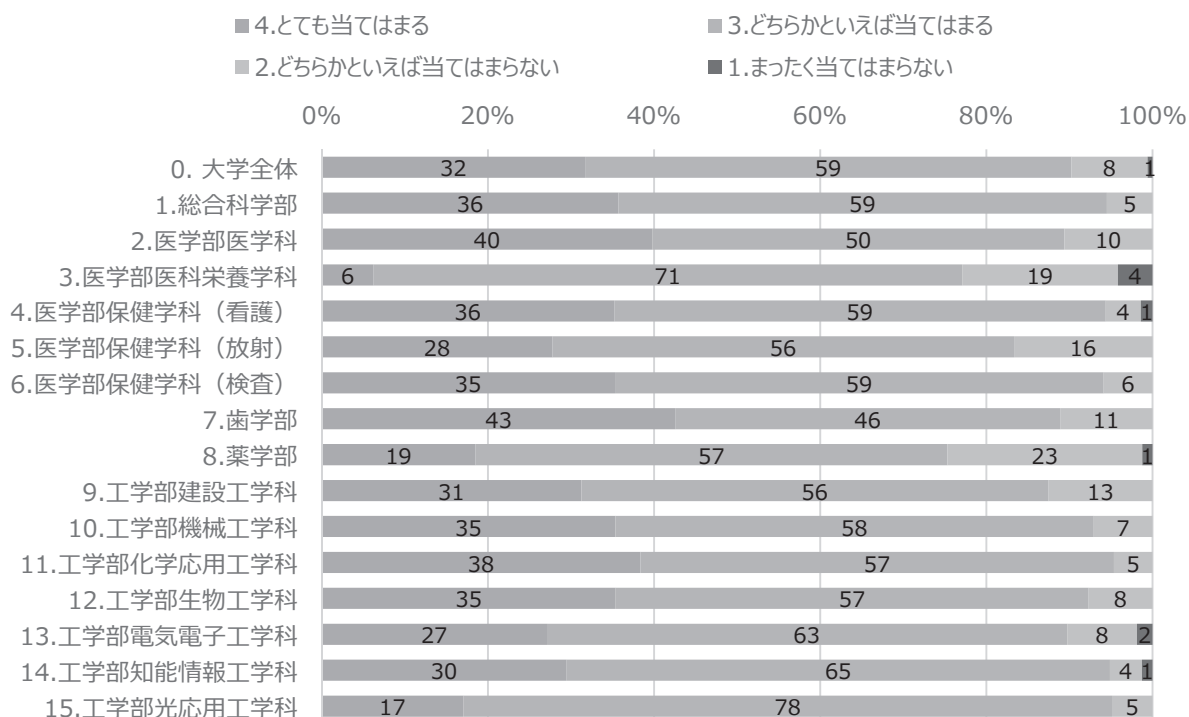
1-1. SIH道場の目標を理解して学修を行った



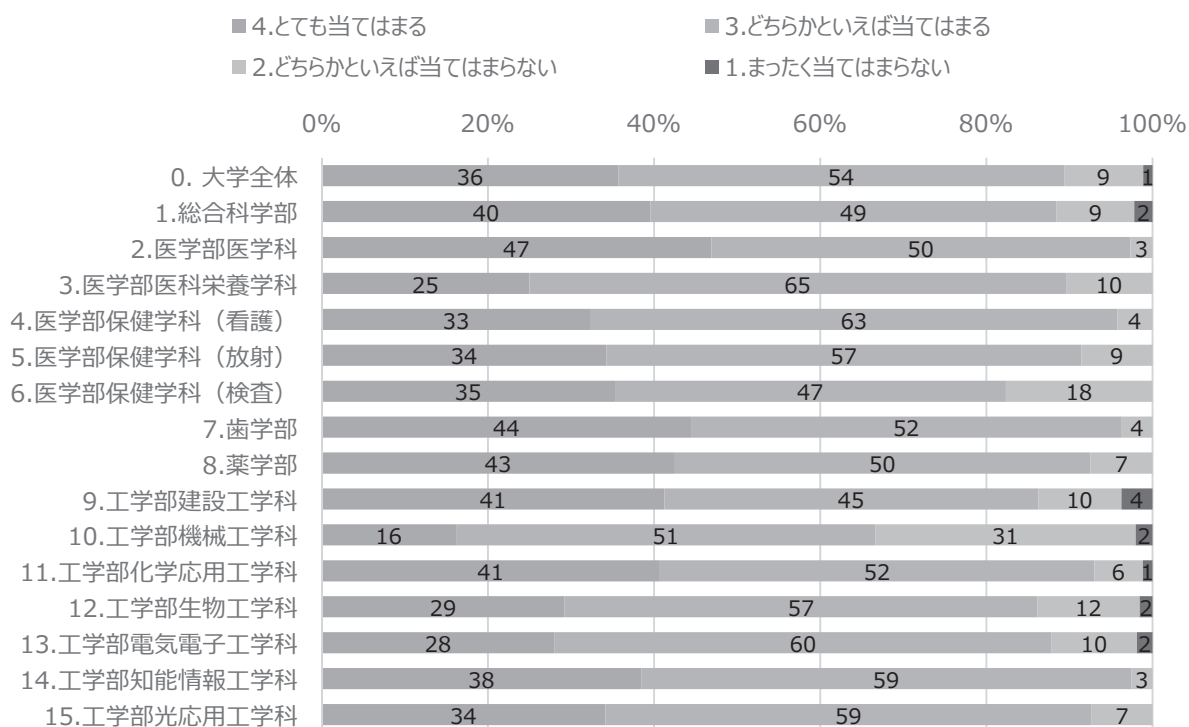
1-2. 体験学習で専門分野(学科での学修・研究)に対する興味関心が高まった



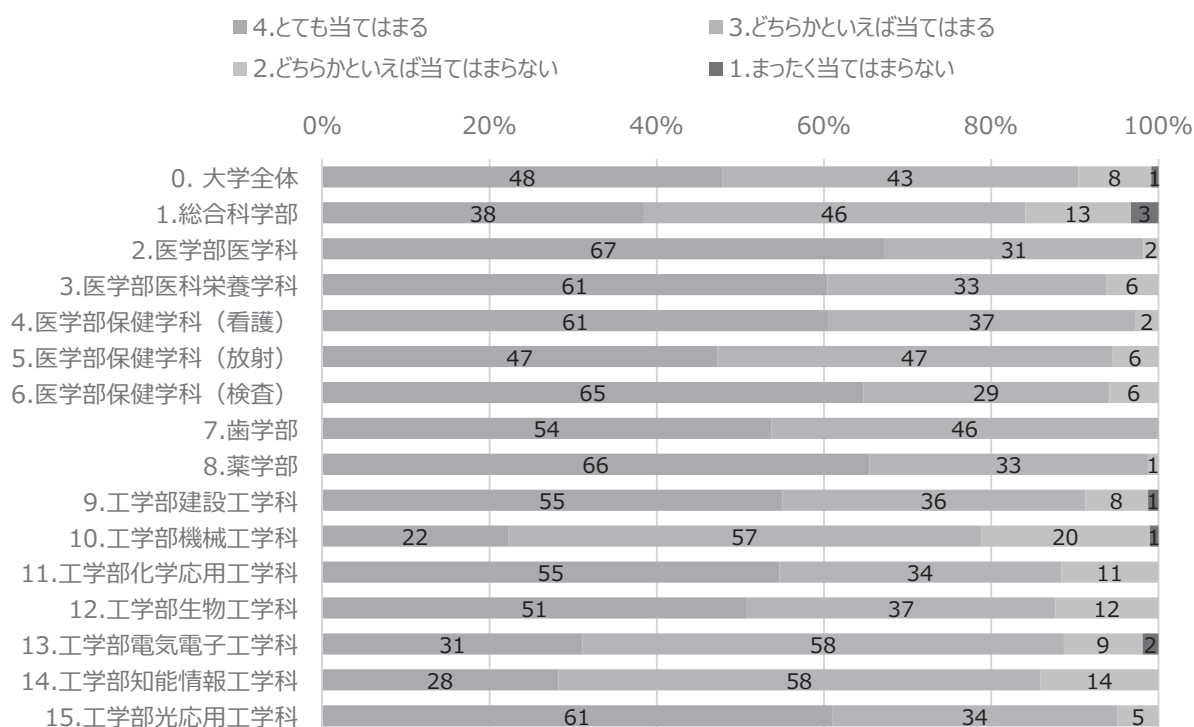
1-3. レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した



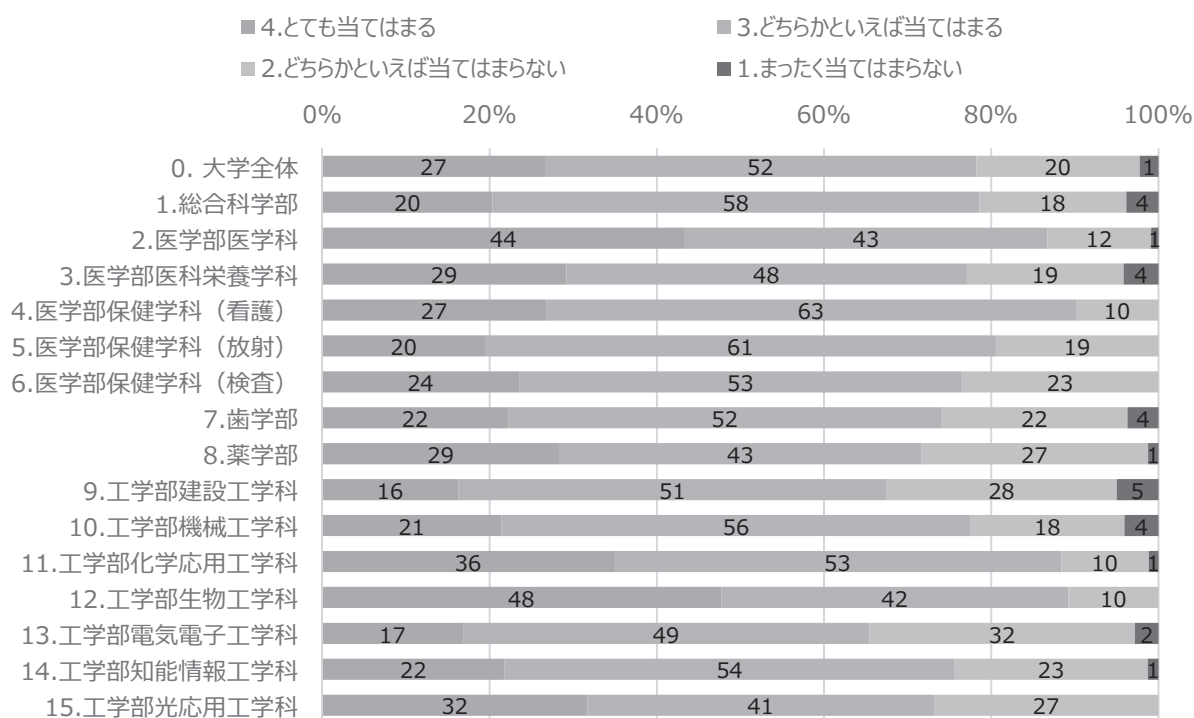
1-4. プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した



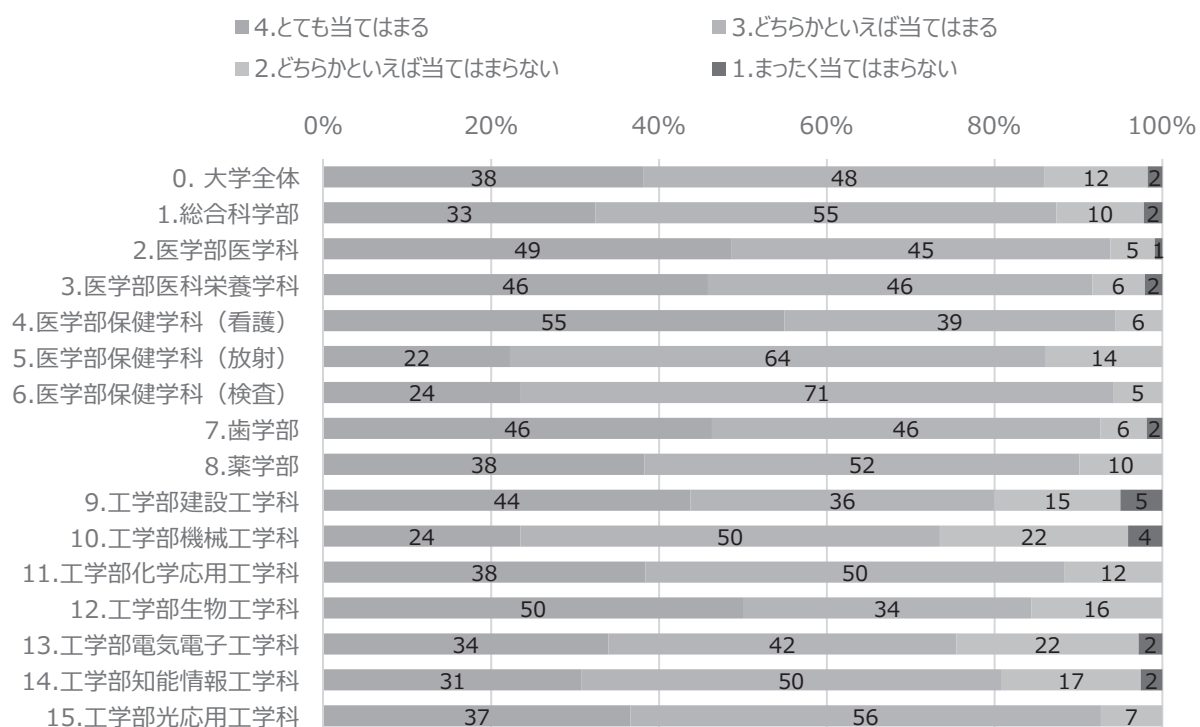
1-5. 1つの課題に対して、他者と協力して取り組む際の留意点を理解した



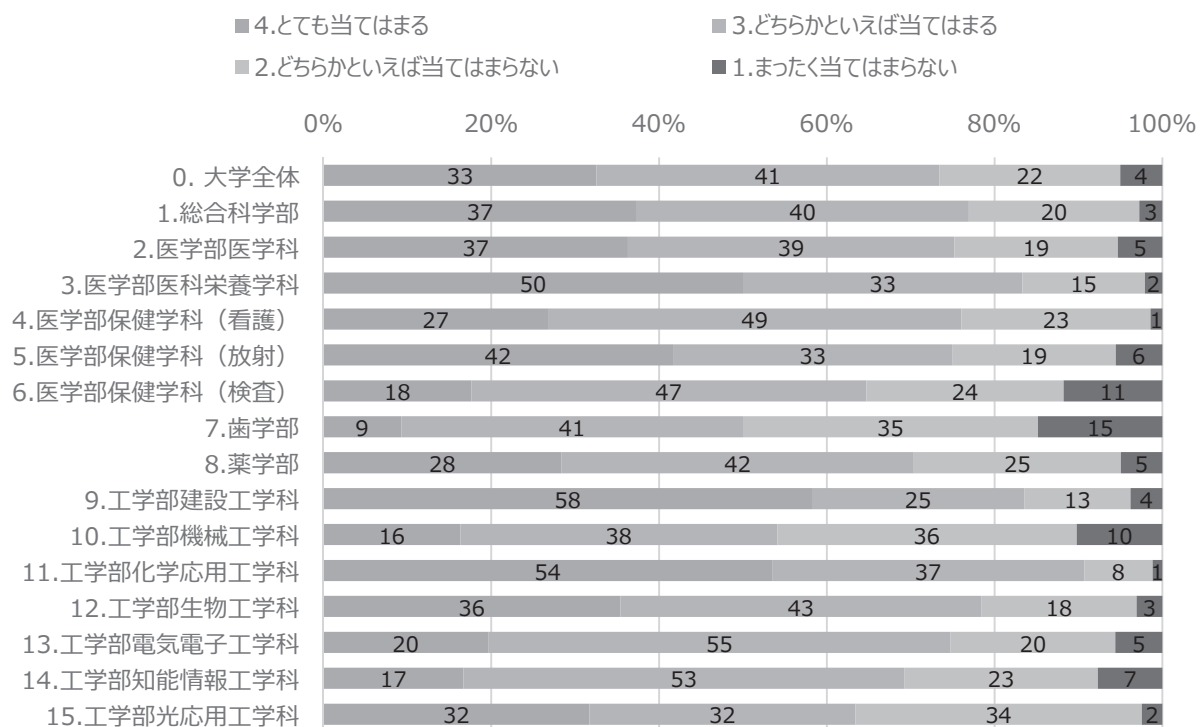
1-6. 課題等の評価の基準がわかった
(ルーブリック・チェックリストなどが示されていた)



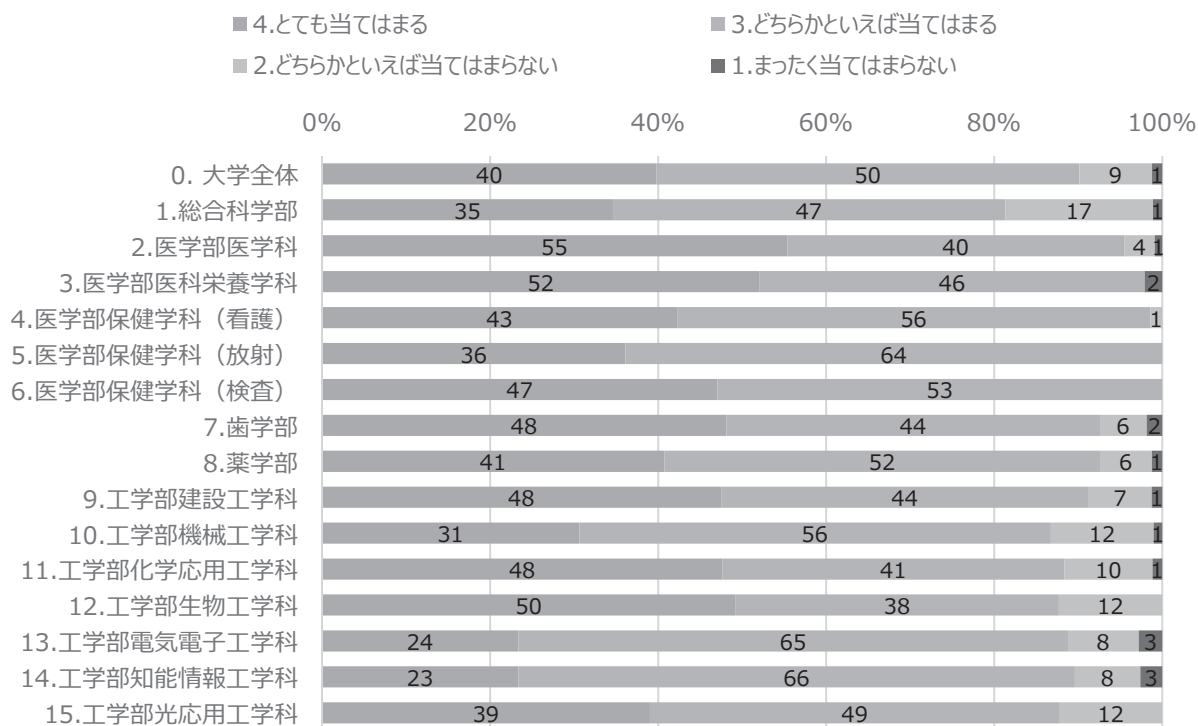
1-7. 学修(体験)を振り返ることの重要性を理解した



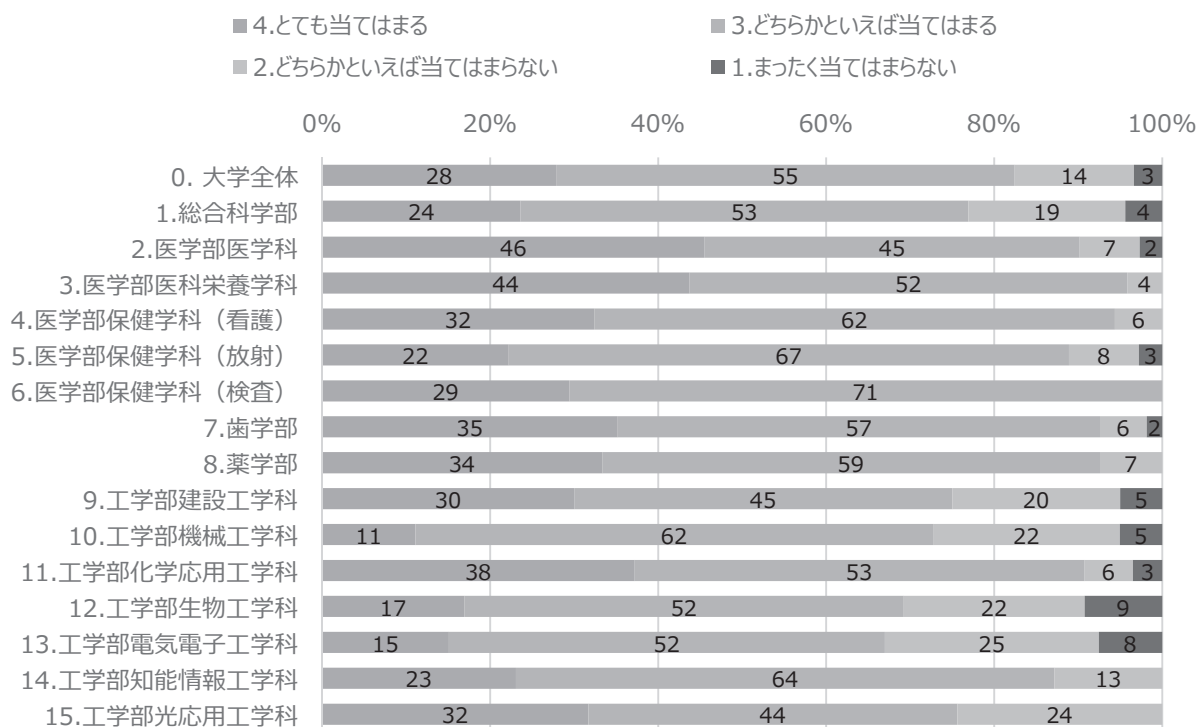
1-8. 授業外(事前または、事後)において学修を行った



1-9. 自ら考え抜く能動的学修(アクティブ・ラーニング)の重要性を理解した



1-10. SIH道場の教育プログラムは全体的に満足できるものであった

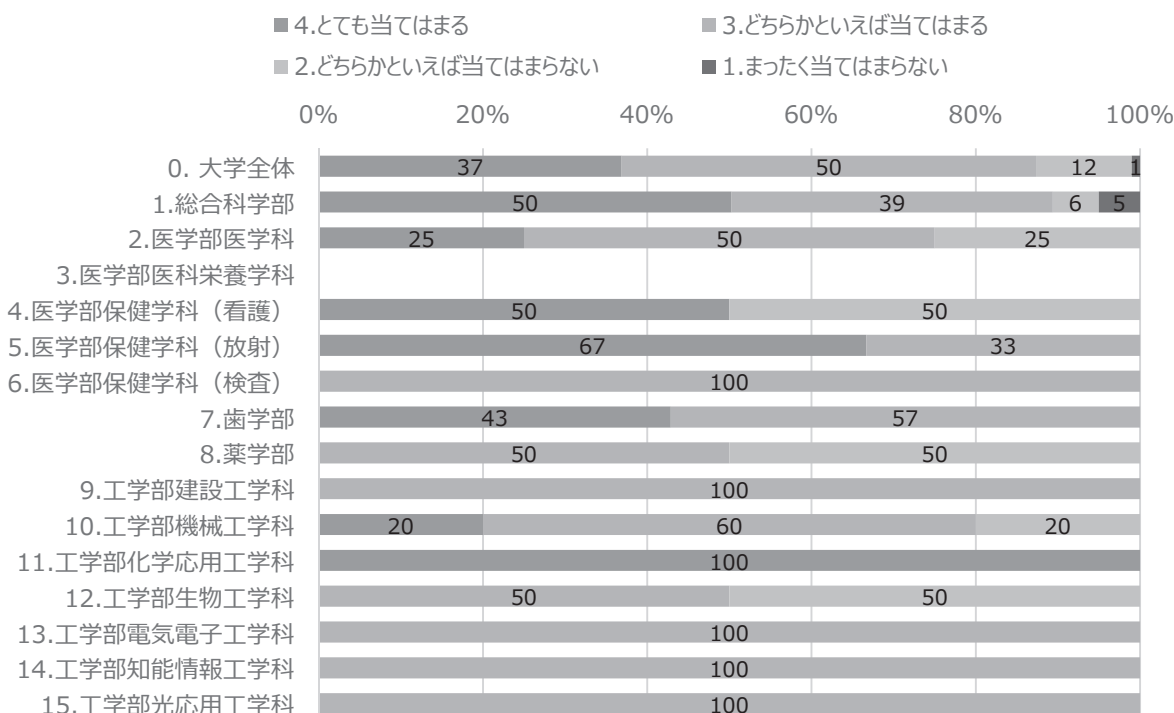


3) SIH 道場教員アンケート結果概要

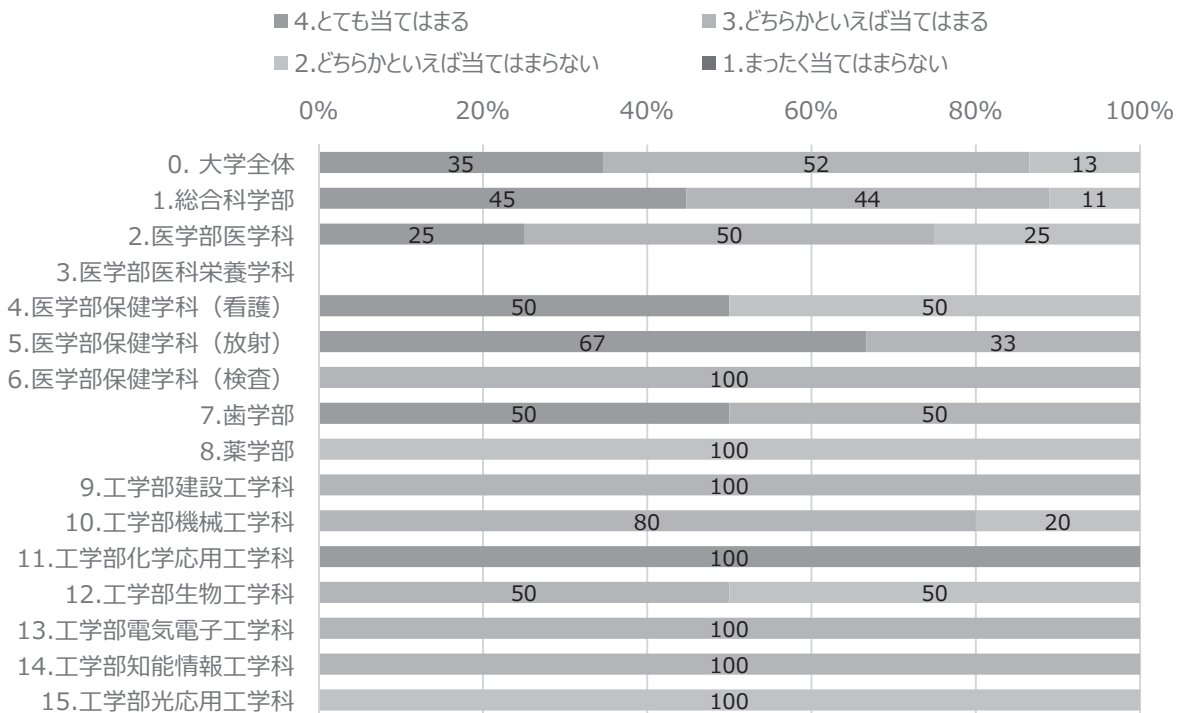
教員アンケートは、各学部・学科の SIH 道場終了後に実施している。教員は、到達目標に関連する、「1.SIH 道場の目標理解」「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」「5～7.反転授業の意義理解・実施・導入」「8～10.ループリックの意義理解・使用・導入」「11～13.学生の学修の振り返り」「14～16.自らの教育の振り返り」「17.SIH 道場の満足度」についての 17 設問に 4 件法（一部 5 件法）で回答した（回答率 33.9%）。なお、今年度はアンケートへの回答が任意であったため、低い数値に留まった。

主だった項目について結果を確認すると、「1.SIH 道場の目標理解」については、「どちらかといえば当てはまらない」「まったく当てはまらない」を選択した教員が、一番低いプログラムにおいて 50%に及んでいるが、実施プログラム全体でみると 87%の教員が「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択している。「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」に関する設問について、「2-2.アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した」「2-3.アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる」「2-4.アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい」の三つを実施プログラム全体でみると、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した教員はそれぞれ、87%、73%、57%という数字であり、意義を理解すること、実施できること、他の授業へ導入することの順に徐々に減少することが分かる。この傾向については、他の「反転授業」「ループリック」「学生の学修の振り返り」「自らの教育の振り返り」についても該当する。「17.SIH 道場の満足度」に関する設問については、実施プログラム全体でみると 49%の教員が「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択したに留まり、学生アンケートの満足度 83%とは大きな開きが見られる結果となった。

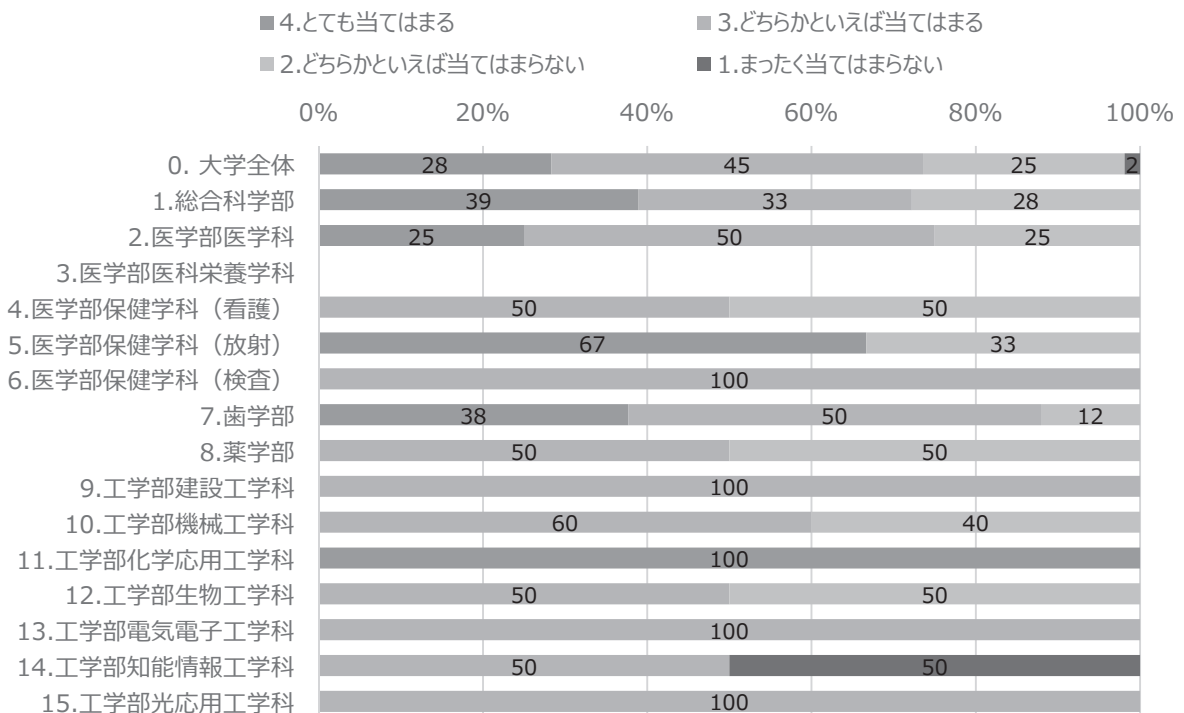
2-1. SIH道場の目標を理解して授業を行った



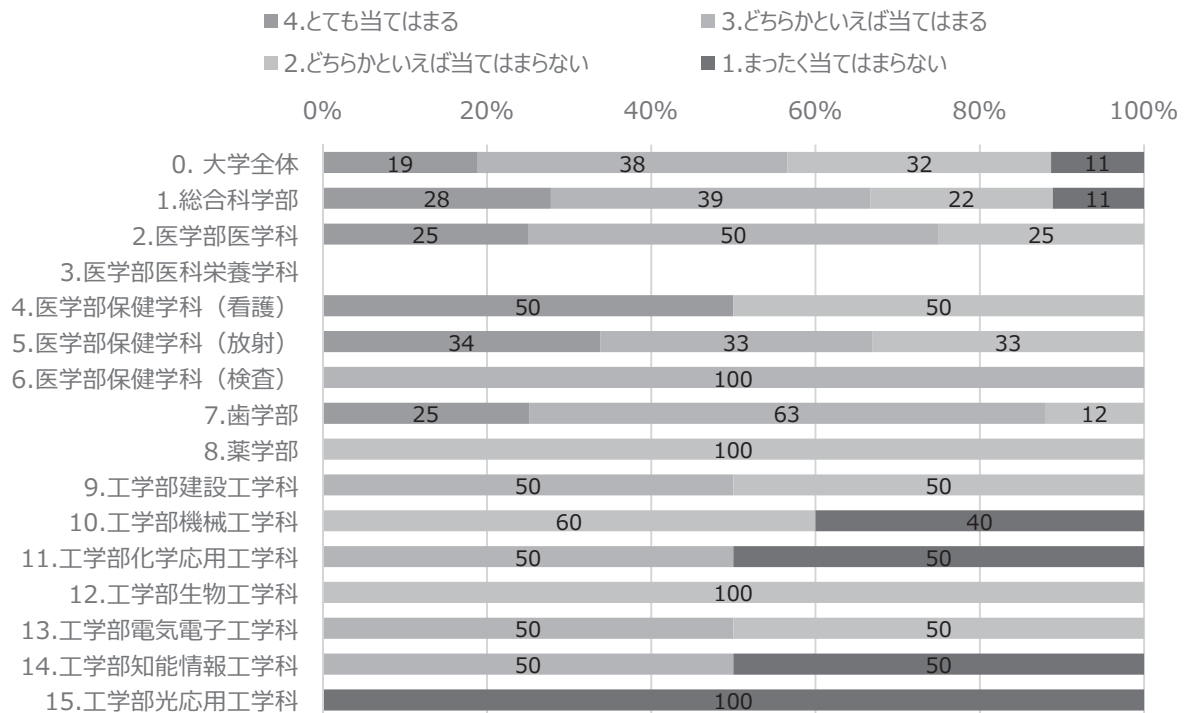
2-2. アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した



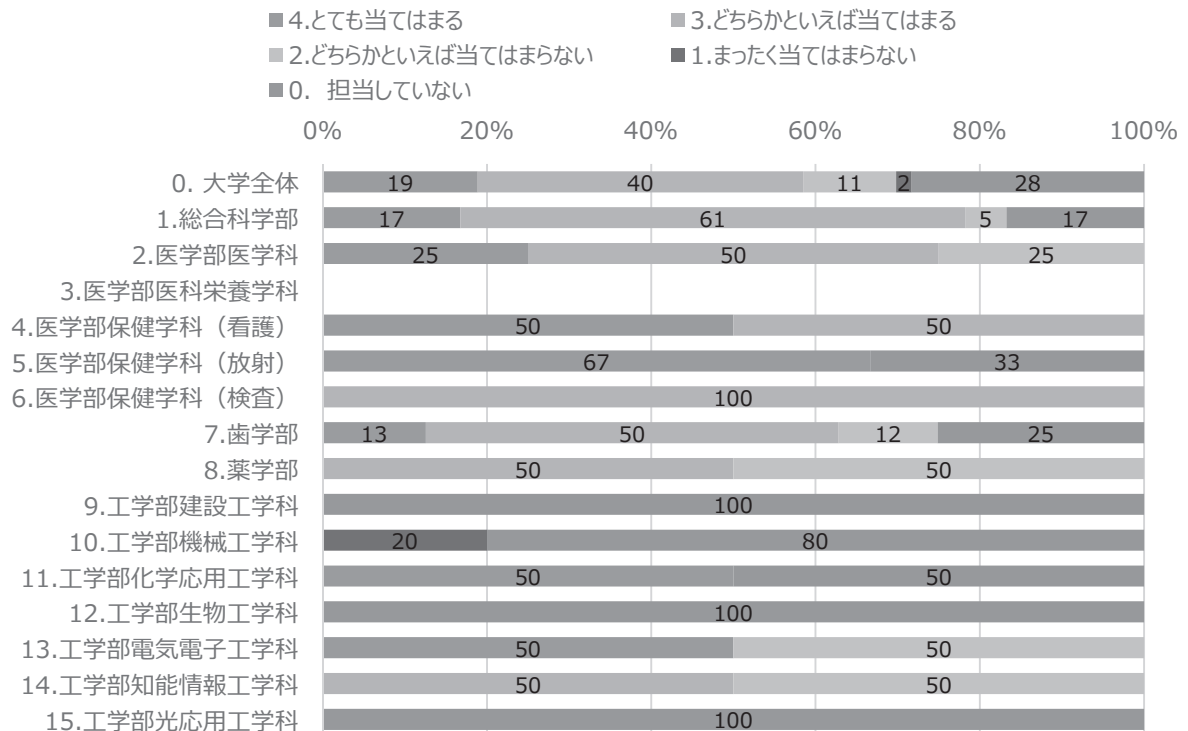
2-3. アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる



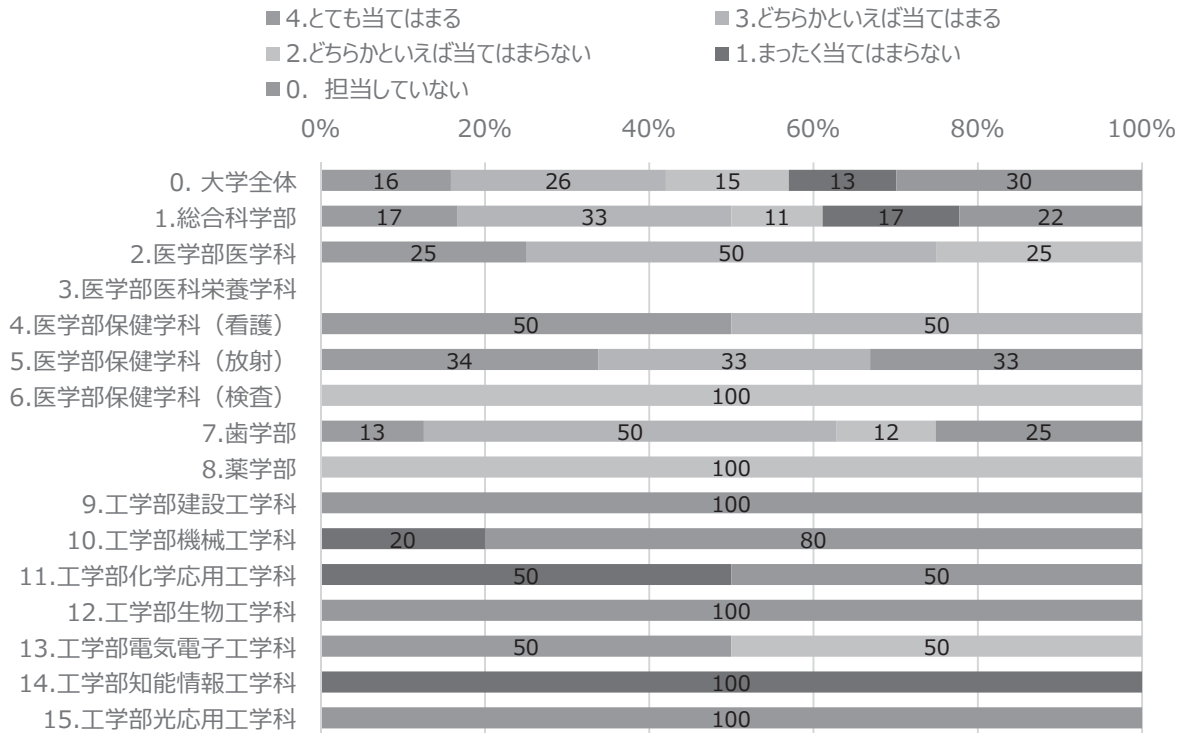
2-4.アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい



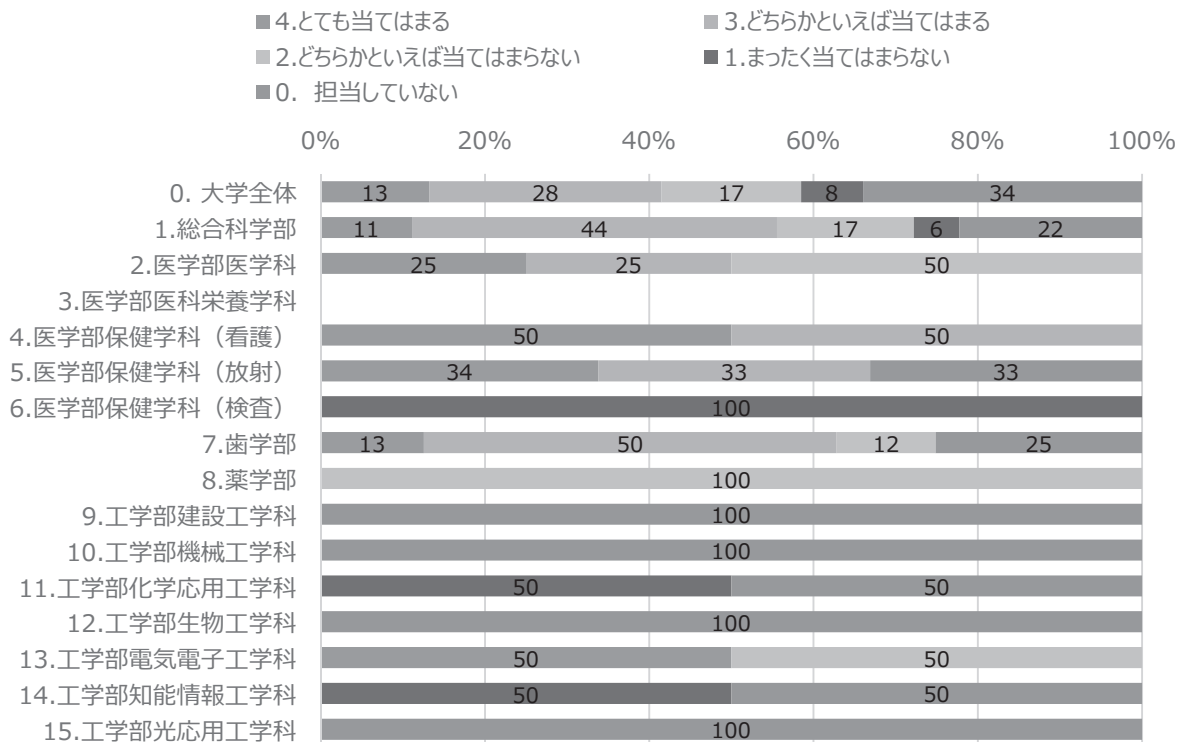
2-5.反転授業の意義を理解した



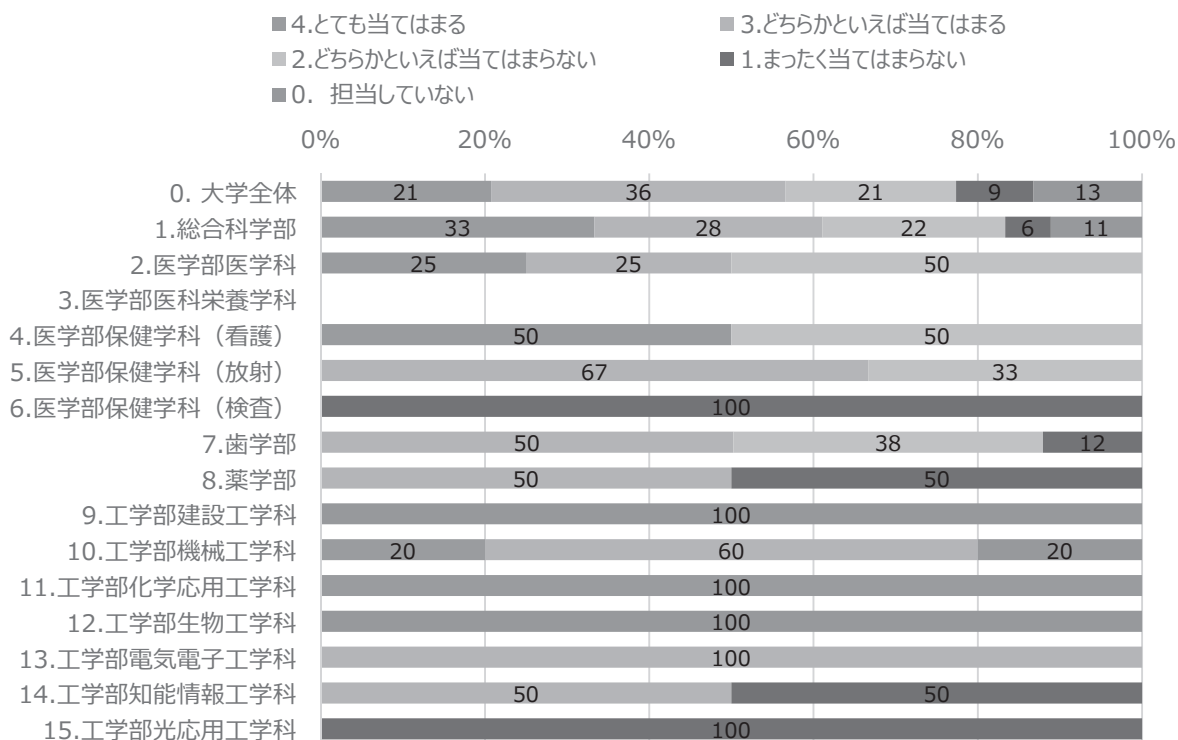
2-6. 反転授業を実施することができる



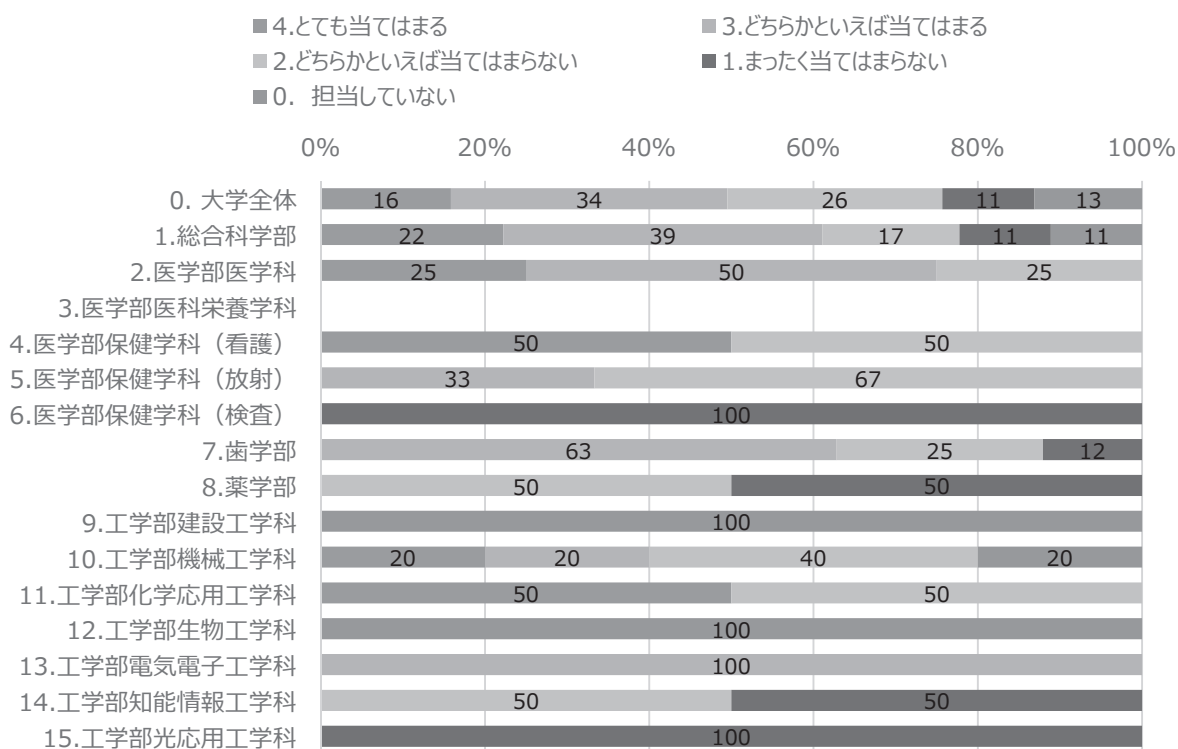
2-7. 反転授業を担当する他の授業で導入したい



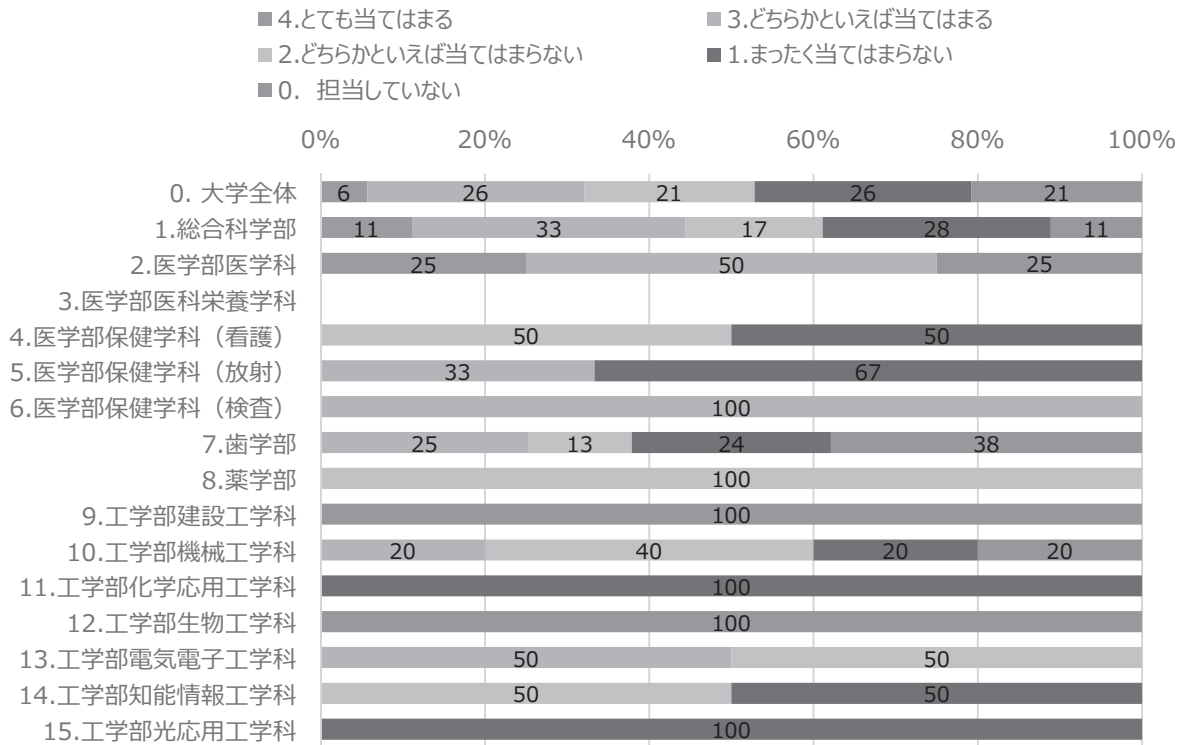
2-8. ルーブリックの意義を理解した



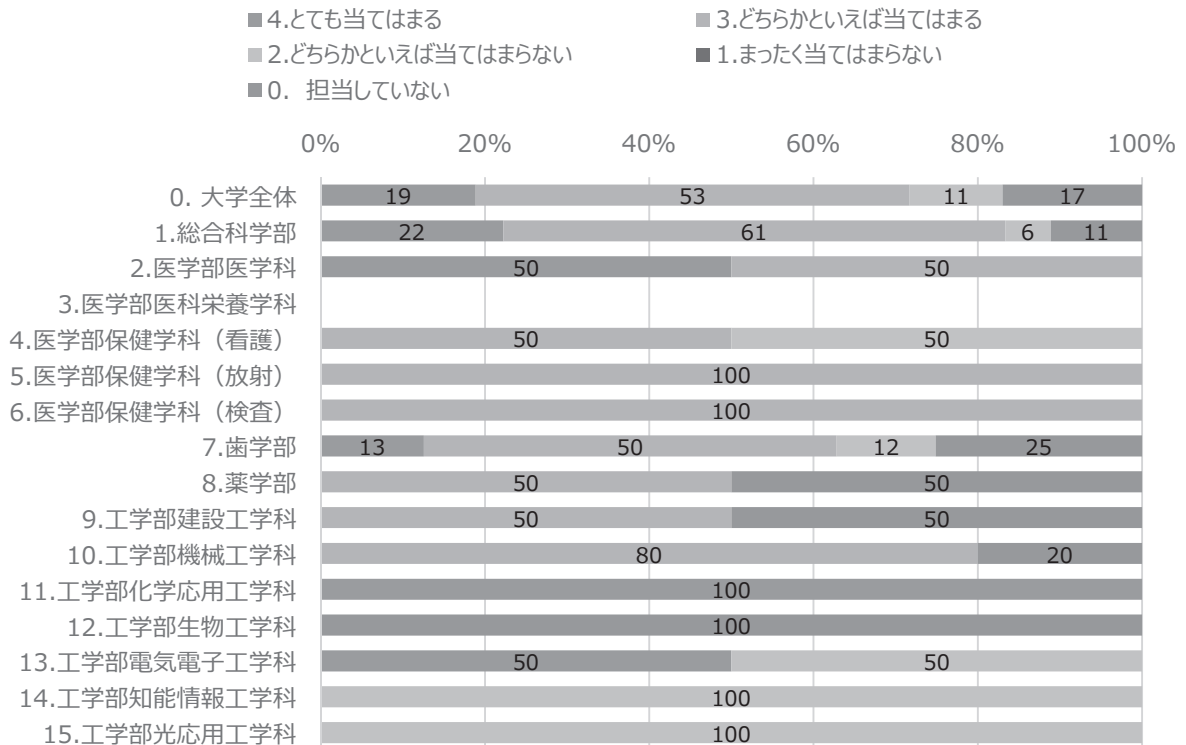
2-9. ルーブリックを用いて学生を評価することができる



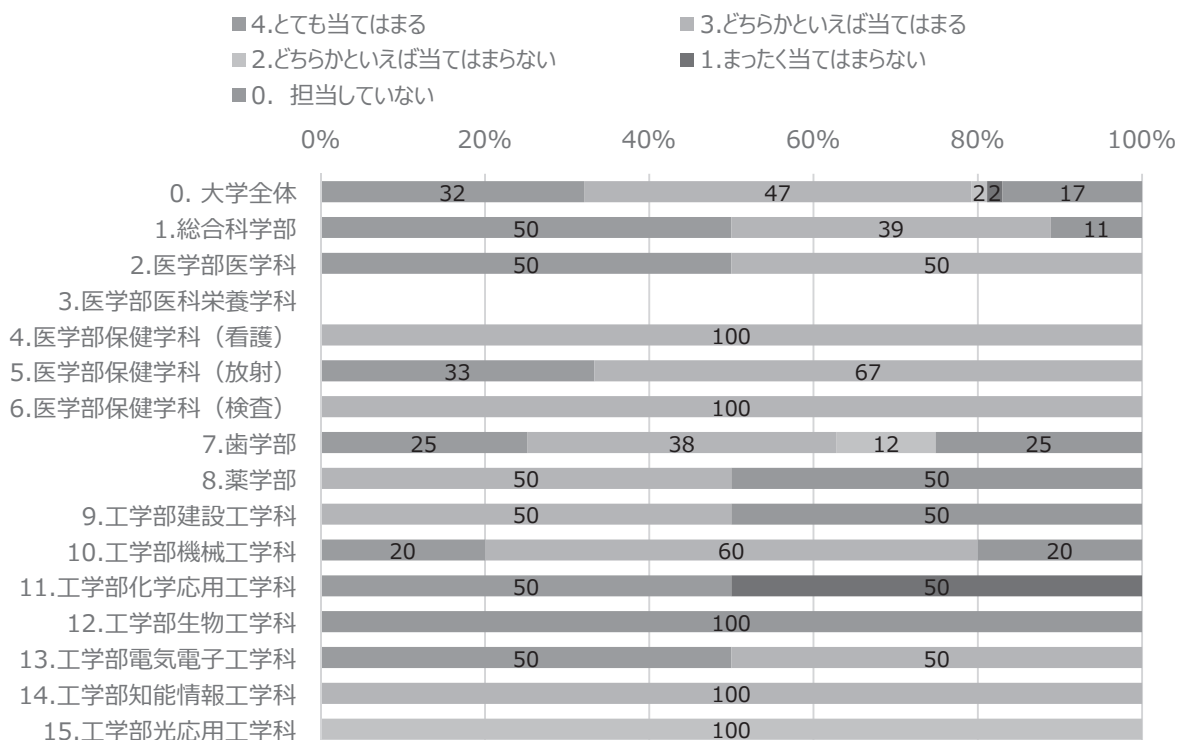
2-10.ループリックを担当する他の授業で導入したい



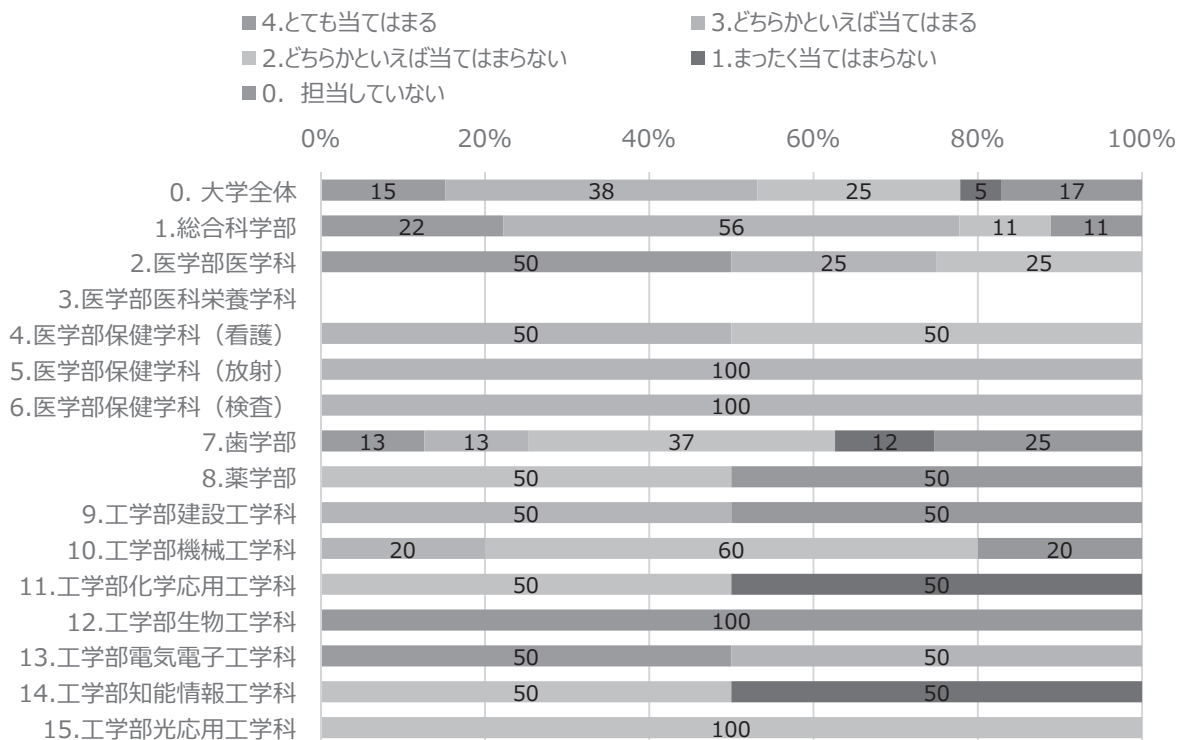
2-11. 学生に学修の振り返りをさせる(フィードバックを行う)ことができる



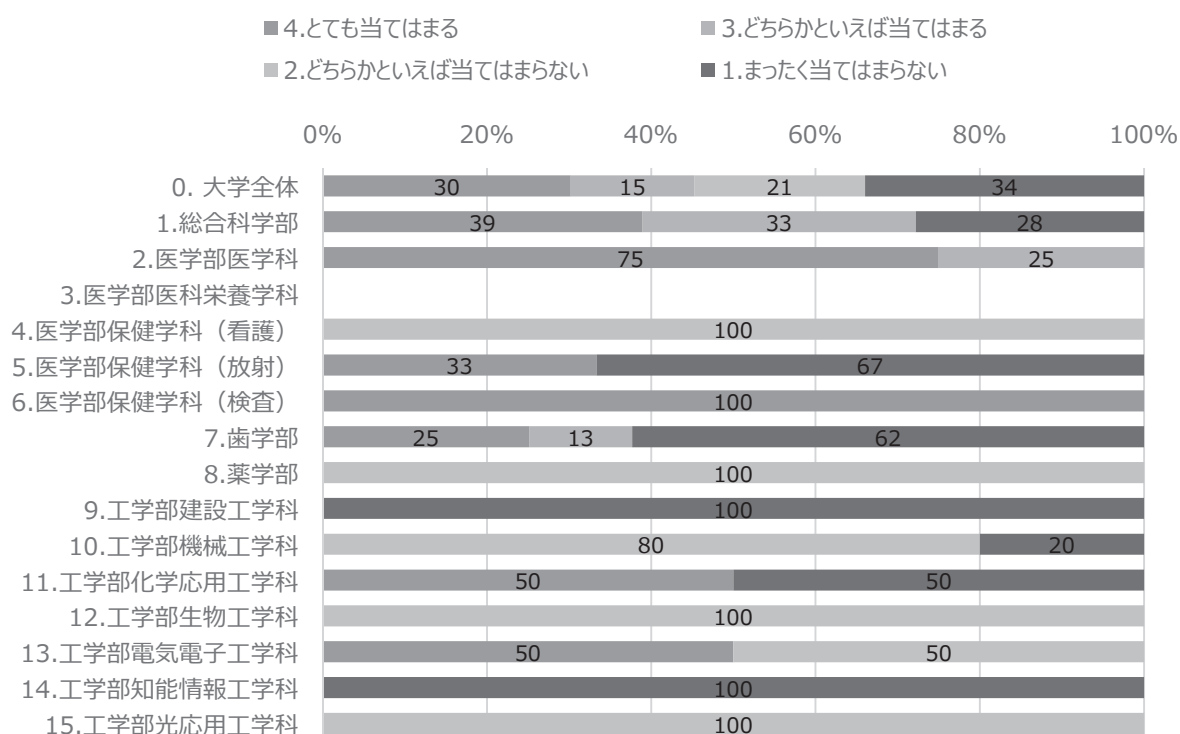
2-12. 学生に学修の振り返りをさせることの意義を理解した



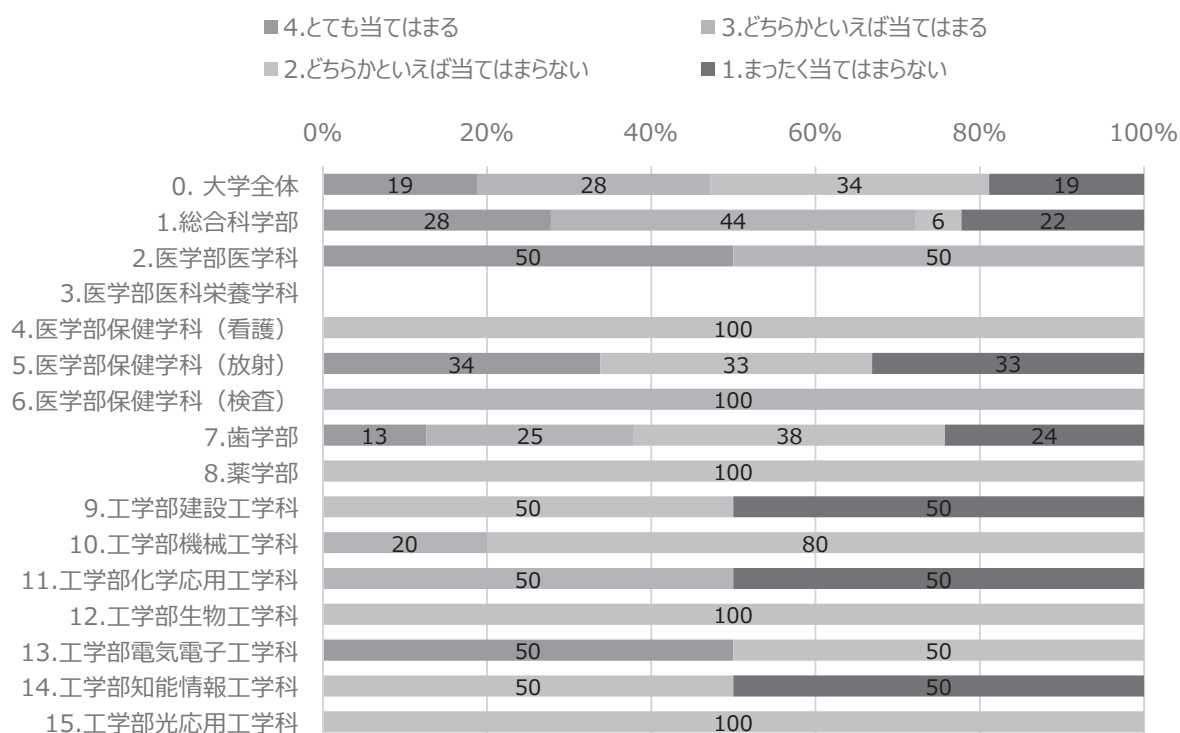
2-13. 学生に学修の振り返りをさせることを他の授業で導入したい



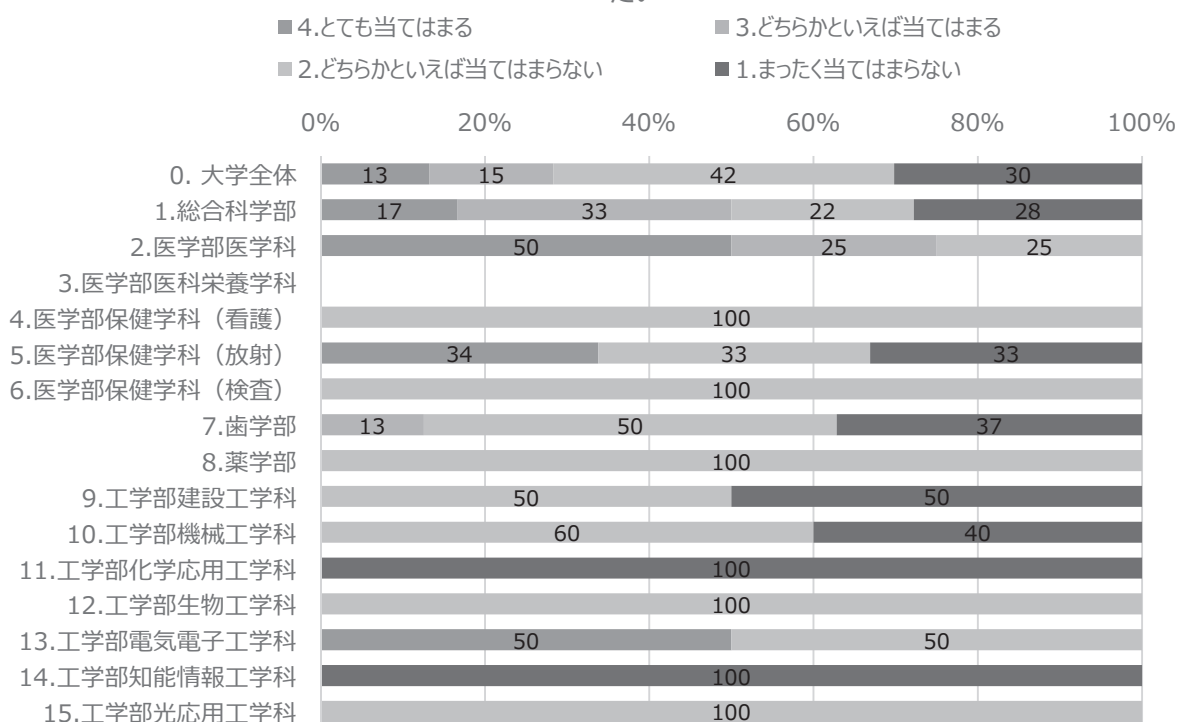
2-14. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)を行った



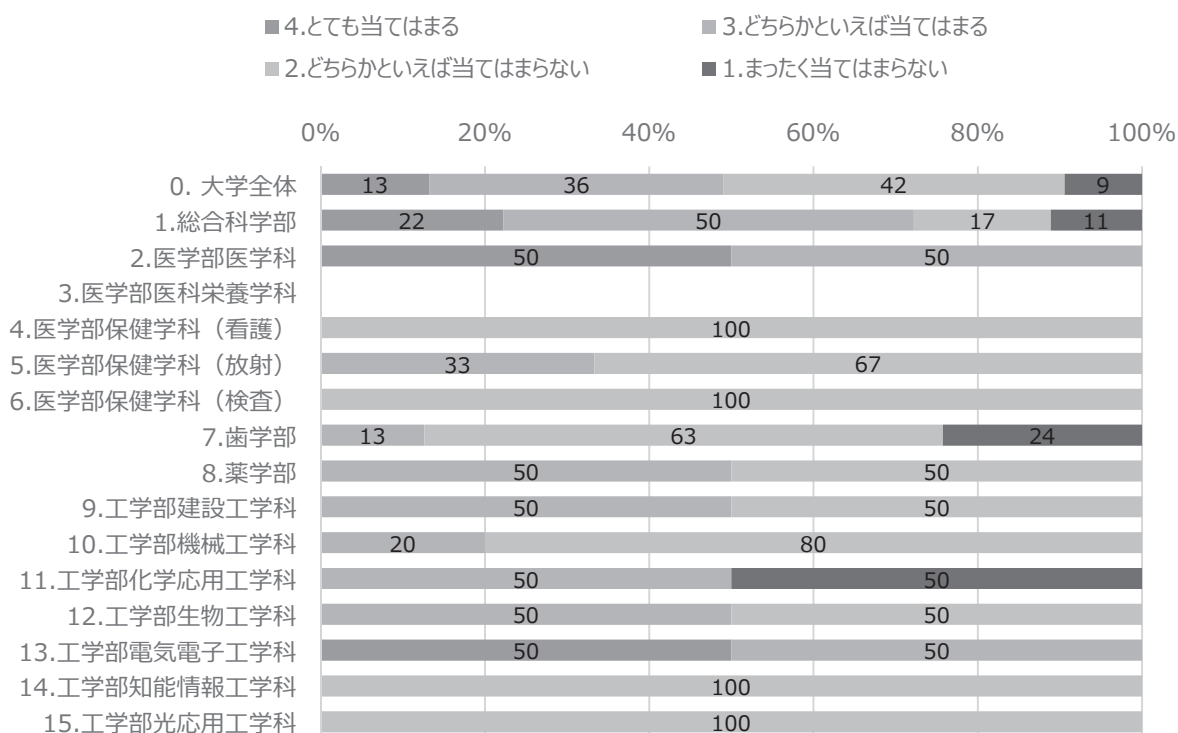
2-15. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)の意義を理解した



2-16. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)を担当する他の授業で行いたい



2-17. SIH道場の教育プログラムは全体的に満足できるものであった



3-2. 教育について考え提案する学生・教職員専門委員会 SIH 道場評価・改善ワーキンググループの活動

1) ワーキンググループ設置趣旨

SIH 道場は、本学の新生全員が受講する初年次教育プログラムで、アクティブ・ラーニングについて、学生、教員が共に基礎スキルを修得し、学士課程全般にわたり実践していくための基盤となる取り組みである。大学教育再生加速プログラム（以下、「AP 事業」という。）を遂行する上でも SIH 道場ではさまざまな視点から評価・改善を行っていくことが重要である。その一つの取り組みとして、学生と教職員双方の視点からの評価・改善に関わる WG を設置し、SIH 道場の成果や課題等について意見交換や議論を行い改善に繋げる。

2) 設置する組織

AP 事業の支援部門である総合教育センターには、「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会（以下、「専門委員会」という。）」が設置されており、専門委員会の背景・趣旨は「学生の声を教育改革に取り入れるために、学生と教職員が、教育の現状・課題について意見交換を行い、具体的な提案等を行う組織」となっている。SIH 道場に関する評価・改善 WG 設置の趣旨と専門委員会の趣旨が似通っており、また、専門委員会との活動と連動するところもあるので、専門委員会の下に、SIH 道場に関する評価・改善 WG を設置し、SIH 道場の評価・改善に関する議論を行う。

3) ワーキンググループの活動

SIH 道場の各プログラム実施単位（※注）から平成 27 年度入学生 1 名以上を選出し、計 19 名の学生委員が活動を行った。なお、ワーキンググループは、専門委員会の教員委員が中心となり運営し、10 月～11 月の間に学生委員を対象に SIH 道場に関するインタビュー調査（調査者：吉田博、久保田祐歌）を行った。11 月 13 日の SIH 道場振り返りシンポジウムにおいては、SIH 道場評価・改善ワーキンググループの学生委員 10 名が意見を報告し、学生委員 1 名がディスカッションのパネリストの一人として壇上で質疑応答を行った（※詳細については本報告書「SIH 道場振り返りシンポジウムの概要」を参照）。次に、インタビューで学生委員から提案された意見の要点と今後のポイントを記載したまとめを示す。

※注

プログラム実施単位とは、次の学部・学科・専攻の単位である。

- ①総合科学部（3 学科合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科（看護学専攻）、⑤医学部保健学科（放射線技術科学専攻）、⑥医学部保健学科（検査技術科学専攻）、⑦歯学部（2 学科合同）、⑧薬学部、⑨建設工学科、⑩機械工学科、⑪化学応用工学科、⑫生物工学科、⑬電気電子工学科、⑭知能情報工学科、⑮光応用工学科

4) 学生委員の意見と今後のポイント

項目	学生委員から見た現状と今後のポイント
SIH 道場の目的	<p>現状： SIH 道場の目的や内容について説明が不十分な学部・学科があった。たとえ説明されていたとしても、入学直後のみの説明の場合、他の手続き等の説明に紛れ、学生は忘れてしまう。当該学部・学科のどの授業が「SIH 道場」であるのか、理解していない学生もいた。</p> <p>今後のポイント： ◆SIH 道場の目的や内容について明確に学生に説明する ◆1 回かぎりの説明ではなく、2~3 回までは折に触れて趣旨を伝える ◆SIH 道場の授業で学生に何を身につけて欲しいのかを随時伝える</p>
体験学習	<p>現状： 専門分野の体験学習として、研究室体験や現場体験を行った学部・学科の学生の満足度は概して高く、学修のモチベーションの向上につながっている。関係者からの話を聞くという間接体験を行った学生で現場体験を希望する学生は多かった。間接体験の場合、先輩からの話の方が身近に感じられる学生もいた。研究室体験については、求められる内容が高度であると感じる学生もいた。</p> <p>今後のポイント： ◆専門分野とつながる直接体験をできるだけ組み込む ◆間接体験の場合は、モチベーション向上につなげる工夫が必要 ◆研究室体験を行う場合は、課題のレベル設定に配慮する</p>
ラーニングスキル (文章力)	<p>現状： 学部・学科によって文章力育成の指導は異なり、教員からの早めのフィードバックや複数回の指導がある学生は満足度が高い。SIH 道場で書き方やルールは理解できたが、文章力を身につけるのは共通教育の授業でレポートを書く機会を通してであるという意見がいくつか見られた。</p> <p>今後のポイント： ◆文章を書かせた場合にはできるだけ早めのフィードバックを行う ◆課題を出す際にループリックにより評価基準を示すことは有効 ◆SIH 道場では、文章を書く際の基本のルールを最低限修得させる</p>
ラーニングスキル (プレゼンテーション力)	<p>現状： プレゼンテーションの際、教員からのフィードバックのあった学生は改善につなげることができたという感想を述べている。プレゼンを行う機会があっても事前のプレゼン方法についての説明やフィードバックがなかったという学生もいた。また、プレゼンを行う人数</p>

	<p>が限られるため、それ以外の学生にとっては学修にならなかったという感想も見られた。スライドを用いたプレゼンについて教員から説明を受けた学生は、プレゼン力が身についたことを実感していた。</p>
	<p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆まずプレゼンテーション力によって何を身につけるかを説明する ◆プレゼンテーションを学生が行った直後にフィードバックする ◆全員がプレゼンテーションを行えるよう時間配分を工夫する
<p>ラーニングスキル (協働力)</p>	<p>現状：</p> <p>協働力育成のために、グループワークを行った学部・学科が多く、このような機会をもっと多くもちたいという学生の意見が見られた。協働することの重要性に関する事前説明がなかったという学生もいた。見知った友達と同じグループにならない方がよい等、グループの形成方法についての意見やそれぞれの役割分担を決めておいた方がよいというグループ活動の方法に関する提案があった。</p> <p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆協働力の要点を説明し、グループワークの機会をできるだけ多く設ける ◆グループ形成の際は、友達同士でかたまらないように注意する ◆グループ活動の際には、役割分担を行えるように留意する
<p>振り返り (振り返りの方法)</p>	<p>現状：</p> <p>なぜ振り返りを行うのか等の説明を受けて行った学生は、振り返りの重要性を実感しているが、説明を受けずに行った学生は作業的に行ったため身につけていないという感想だった。体験後に振り返りを行ったり、授業毎に振り返りを行うことは、学生にとって有意義だったようだ。他方、字数制限をされて振り返りを行った学生は、振り返りに集中できなかつたようである。</p> <p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆なぜ振り返りを行う必要があるのかを説明した上で振り返りの時間をとる ◆活動後や授業後に振り返りの時間を設け習慣化されるようにする ◆振り返りの字数制限等を課す際には趣旨に反しないか検討する
<p>振り返り (eポートフォリオ)</p>	<p>現状：</p> <p>eポートフォリオシステム (Mahara) について知らない学生が多かった。授業で返却されたレポートについて Mahara 上でみた学生、Mahara 上でのレポート返却をきっかけに、自分が作成したレポートや授業等で作成したデータファイルを保存している学生も一部で見られた。</p> <p>今後のポイント：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ◆e ポートフォリオシステム (Mahara) の使い方を周知する ◆返却されたレポートを確認すること以外の Mahara の利用法を学生に伝える
SIH 道場教材 (テキスト)	<p>現状：</p> <p>入学時にオリエンテーションの資料と一緒に配布されたため、他の資料と紛れてしまった。授業でのテキストに関連する指示があった学生もいればない学生もいた（具体的な予習の指示等はほとんどなかった）。何回か説明があるとよかったという意見が出された。</p> <p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆オリエンテーションの資料と一緒に配布する際には、他の資料と紛れるので、学生に対して別途テキストの説明を行った方がよい ◆テキストを使った事前学習を指示する等の指示があるとよい ◆テキストについては、何回か説明することで予習等を促すとよい
SIH 道場教材 (ループリック)	<p>現状：</p> <p>ループリックによる評価基準の提示については、文章を書く際に気をつける点や評価のポイントが分かったなど、肯定的な意見が多かったが、コメントによるフィードバックを希望する学生も1名見られた。また、ループリックが授業で配布された際、教員からの説明がなく、何のためにどのように使用するのか分からず、学修の参考にできなかったと述べた学生も1名見られた。</p> <p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆評価のポイントをループリックで説明すると理解しやすい ◆ループリックを使用する際には、内容と用途を丁寧に説明する ◆ループリックにコメント欄を付加する工夫を行うこともできる
SIH 道場教材 (ビデオ)	<p>現状：</p> <p>ビデオ教材に関する説明や視聴の指示が教員からあった一部の学生はビデオを観ているが、説明がなかった多くの学生はラーニングスキルのビデオの存在を知らなかった。また、ビデオ教材を観なくてもワーク等を行うことができるので、学生が観るためには教員のチェックがあればよいという意見もあった</p> <p>今後のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆事前学習に使用する場合は、ビデオに関する説明をまず行い、次に視聴の指示を行うとよい ◆SIH 道場の概要やラーニングスキルに関するビデオが用意されていることを学生に伝える ◆事前学習としてビデオを視聴させる場合は、視聴後のクイズに答えさせる等、「観ただけ」に終わらないような工夫があるとよい

3-3. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題 —大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会委員による報告—

1) AP 実施専門委員会委員による報告の趣旨

SIH 道場の終了後に、次年度のプログラム改善に向けて、SIH 道場授業設計コーディネーターは、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに基づき、次年度の改善に向けた振り返りを行う。各学部の大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員は、各学科、専攻の SIH 道場プログラムについて、授業設計コーディネーターが作成した「SIH 道場授業設計（概要）」「SIH 道場授業設計（詳細）」や「SIH 道場プログラム設計評価シート」の記述を参照しながら、取組概要、成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）、今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）を報告する。本報告は、次年度の SIH 道場授業設計コーディネーターがプログラム改善を行う際の資料となるだけでなく、大学教育再生加速プログラム事業全体の自己評価の資料の一つにもなる。

2) 各学部・学科の取組と課題報告者

順番	学部名	報告者
①	総合科学部	井戸 慶治
②	医学部医学科	勢井 宏義
③	医学部医科栄養学科	高橋 章
④	医学部保健学科	香川 典子
⑤	歯学部	日野出大輔
⑥	薬学部	難波 康祐
⑦	工学部	右手 浩一

①総合科学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

総合科学部 AP 実施専門委員会委員 井戸慶治

1. 取組概要

総合科学部では、三つの学科ごとにではなく、全学部で共通のプログラムを設定して「SIH 道場」の実施に当たった。また、平成 28 年度から学部を超えた改組が予定されていたため、平成 27 年度の実施に際しては、従来行われていた関連授業の枠組みの中で、大幅な変更や負担の急激な増加は避ける形でアクティブ・ラーニングを強化することとした。具体的には、「大学入門講座」の中で、①体験授業としての大塚美術館訪問とそこで絵画作品を客観的に文章化する「デスクリプション」と、②文章力養成としてのレポートの書き方講座と「読書レポート」（コメントなどを総合科学部の他、全学共通教育センター、総合教育センターの教員、退官教員の合計 28 名で担当）を実施し、「基礎ゼミナール」（20 クラス、受講者定員 15 名以下）の中で、主として③プレゼンテーション力養成と協働力養成を実施した。ただし、「基礎ゼミナール」においては、もともと体験授業や文章力養成を重視していたクラスもあったので、担当教員の裁量により、そのような要素を取り入れた場合もある。各プログラムの実施内容については、授業詳細の項などを参照されたい。以下の成果や課題については、上記番号にしたがって述べる。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

①提出されたレポートから判断して、絵画作品を「デスクリプション」により主観や解釈などを排して客観的に記述するという目標は、多くの学生により実行されている。これにより、さまざまな分野で必要な視覚イメージを文章化するという汎用技能養成の一端が体験授業によりなされた。

②学生が提出した「読書レポート」は、レポート（論理的文章）のレベルという点ではまだまだ未熟な点がある。しかし、この点では高大間の指導法に一種の断絶があるため、ここでは今後の向上への端緒として、新入生がまず学術的文章の基本的ルールや方法を知ることと、レポート作成と教員のコメントや評価により、自己の現状を認識することを目標に掲げた。学生向けアンケートの結果によれば、これらの目標に関しては達成されたと判断できる。

③プレゼン力と協働力に関しては、学生向けアンケートや教員・学生の振り返りシートなどによれば、基礎ゼミナールの比較的多くのクラスにおいて、プレゼンテーションの作成と実施、グループワークやディスカッションの実践により、楽しみながら学ぶことができたことが肯定的に評価されている。また、多様なテーマのクラスが用意されているため、関心に応じたものを選択できる点も評価されている。

（教員）

①「デスクリプション」に関しては、その説明のさいに立ち会った一教員により、眼前の視覚

イメージや現象を文章化する技術が実験や観察を行う理系学生にとっても重要であるという指摘がなされ、関連教員にもこのプログラムの意義が確認された。また、大塚美術館の所蔵作品数は学生数をはるかに越えていたため、学生は二人以上で同一作品に向かうことはほとんどなく、各自思い思いに作品を選択してレポートに真摯に取り組んでいることがわかった。その結果、館内で騒ぐなど過去に批判された行為はいっさいないという副産物もあった。

②「読書レポート」に関しては、昨年度は全体的な講評と学生相互の評価にとどめていたものを、今年度は教員によるコメントとルーブリック評価、対面指導に変更した。コメントについてはほとんどの学生がアンケートで的確だったと回答している。教員アンケートでは、比較的多くの教員が肯定的で、他の授業でもレポートへのコメントなどを実施してみたいとの意見も見られた。

③学生・教員による振り返りシートやアンケートから判断して、基礎ゼミナールのいくつかのクラスについては、担当教員の創意工夫により、非常に優れた授業がなされた。そのうちの二三の例については、振り返りシンポジウムの報告者スライドの項を参照されたい。また、グループによるレポートやプレゼンテーションのピア評価を採用した担当教員が複数いて、客観的な視点の養成などの点で効果的であったことが報告されている。グループワークを導入したことで、そうでなかった昨年よりも積極的に取り組む学生が増えたと報告されたクラスもある。授業実施前のFDで得られた知見は、さまざまな形で各クラスの授業に取り入れられたが、ルーブリックに関しては、独自の評価シートを作成した意欲的な担当教員もいた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営，その他について）

①「デスクリプション」については、学生向けアンケートの回答によれば、肯定的評価もある一方で、このプログラムの美術関係にとどまらない一般的意味を十分に理解できなかった学生もいたようである。今後は、事前の説明においてプログラムの目的を明示するのがよいであろう。また、大塚美術館訪問は「専門分野」の早期体験にはならないのではないかという批判もあろうが、総合科学部の学生が将来選択しうる専門分野は非常に多岐にわたるため、全体向けにその早期体験をさせることは困難である。将来的に体験学習の選択肢を増やすことも検討してよいが、基礎ゼミナールで体験学習を実施しているクラスもいくつかあるので、当面はこのままでもよいと思われる。

②「読書レポート」に関しては、レポートやコメントのやり取りを、Eメールを通して学生・教員間で直接おこなうという方法をとったため、Eメールの書き方を知らない学生がいたり、フィルターにかかったレポートがあつたりという問題が生じた。これに対しては、ムードルなどでレポートを提出させ、そこから各教員向けに送るという方法もあるだろう。また、今回は学生が選んだ課題図書を推薦している担当教員がそのレポートにコメントするという方法を原則としたが、学生の選択により教員にかなりの負担差が生じるなどの問題や批判もあった。これに対しては、すべての教員に1冊（以上）の推薦図書を挙げてもらうという方法や、課題図書を比較的少数に絞り、それぞれに数名ずつコメント教員を配する方法などが考えられる。また、学生の読書促進という目的も持つ「読書レポート」はそれなりに有効だが、文章力養成についてはこれ以外の方法について検討するのもよいだろう。

③「基礎ゼミナール」におけるプレゼンテーション力と協働力については、題材が学生の興味を引かない、あるいは学生のモチベーションが高くないことが報告されたクラスもあった。学生の興味を引く題材については、eポートフォリオで公開されている振り返りシートなどを通じて教員が相互に参考にするという方法が考えられる。一般に、教育方法がよくても、取り扱う題材や内容が取るに足りないもの、知的な面白みに欠けるものであってはあまり意味がないので、題材の選択や開発は重要である。また、クラスによってはプレゼン力、または協働力の養成に関する授業が少ない場合もないわけではなかった。担当教員に教育方法を強制することはできないが、FDなどを通じてアクティブ・ラーニングの意義や諸方法、効用について紹介し、採用への内的動機づけを継続するのがよいであろう。

「基礎ゼミナール」の授業設計という点に関して言えば、今年度は基本的に従来どおり多くの部分を各担当教員の裁量に委ねた。しかし、学部の初年次ゼミナールであるということを考えると、もう少し全体の基本的コンセプトの統一、ないし共通で行うことがあってもよいという意見もある。本学部の特色であり、学生にも評価されている授業の多様性とクラス選択の可能性という長所を損なうことなく、上記のような課題を解決することが望ましい。

振り返りに関しては、多くの授業でおこなわれたが、それは一連の授業全体についてであり、個々の授業やプロセスについてはまだあまりおこなわれていない。教員向けアンケートによれば、学生に振り返りをさせることの意義理解や今後の実施予定についてはかなり良好な結果が出ているが、自ら実施した授業の振り返りについてはそれほどでもない。しかし、一部の基礎ゼミナール担当教員からは、個々の授業の振り返りについて今後そのためのシートを用意してやってみたいとの希望もあった。全体用にその雛形を作っておいて、希望する教員に必要な変更を加えてもらって使用してもらおうという方法も考えられる。

eポートフォリオや「飛ぶノート」という振り返りのためのツールの導入がやむをえず途中からになり、なかなか使いこなすまで手間がかかりそうだったので、振り返りシートはプリントやワード版も使用し、それを「飛ぶノート」で送ったりポートフォリオで公開したりするという手段も用いた。多くの学生・教員に振り返りを内発的に採用してもらうには、その方法が簡明である必要があるだろう。振り返りを実践してその効用を実感してもらうことが目的であるならば、必ずしもeポートフォリオを各個人が使用する必要はないのではないかと。そういう点から見れば、今回用いた上記のような方法でもよいと思われる。

すべての授業の中には、アクティブ・ラーニングを必ずしも要しないものもありうるし、この種の教育法に対する教員の向き不向きもある。また、たとえばグループワークについては、実験系や医療系の方が、人文系や数学、経済学に比べると実施しやすいように思われる。したがって、すべてを一律の方法で実施したり統一的基準で評価したりするよりも、柔軟な適用の余地を残しておくのがよいだろう。また、個々の学生の関心や必要に対応するために、内容の多様性や選択の余地も維持するのがよいと思われる。大量生産の製品や画一的機構の歯車のようなものではないということ、それが学生にとっても教員にとっても学習や教育への動機づけを強めるからである。

②医学部医学科「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

医学部医学科 AP 実施専門委員会委員 勢井宏義

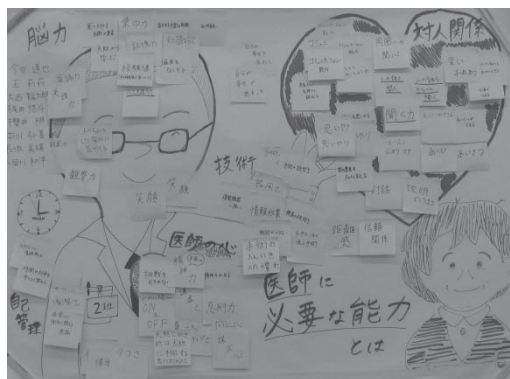
1. 取組概要

事前学習、徳島大学病院での診療現場見学、および「医師に必要な能力とは」をテーマとした KJ 法による振り返りワークショップによって、医師の役割・業務内容、必要とされる能力、およびそれらと関連づけた大学における学習について学生が理解することを目指した。診療現場見学では学修の動機付けをはかり、ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかった。さらにこれら一連の学習によって、学修振り返りの方法を学生が学ぶことを目指した。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

事前学習と診療現場見学によって医師の役割・業務内容と必要とされる能力について学び、振り返りワークショップによって、これらと関連づけた大学における学習の理解とその学修の動機付けをはかることができた。ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力の向上をはかり、さらに診療現場見学後のリフレクションシートや最終的な全体振り返りレポートの作成によって、文章力の向上と学修振り返りの方法を学ぶことができた。



（教員）

これらの指導やフィードバックコメントの作成を担当し、さらに Mahara を用いてティーチング・ポートフォリオを作成することで、自らを振り返りながらアクティブ・ラーニングの指導法を学ぶことができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

服装が不適切だったり、多くの荷物を持参する等、診療現場見学に相応しくない行動をとった学生が一部に見られたことから、事前学習の中に医療プロフェッショナリズムを考える機会を組み合わせることが必要と考えられる。文章力については「主張の根拠付け」、「構成の明快さ」、「文章表現の適切さ」のルーブリック評価がやや低く、文章作成のポイントについて事前指導が必要であると考えられる。振り返りワークショップではグループワークに消極的な学生が一部にみられ、また、プレゼンテーションは一部の学生のみ行ったため、全員参加を促す仕掛けが必要である。診療現場見学実習指導にあたった教員からは、どのようなことをすればよいか分からないという意見が一部にあり、このプログラムの趣旨を十分に事前説明することが必要である。

③医学部医科栄養学科「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

医学部医科栄養学科 AP 実施専門委員会委員 高橋章

1. 取組概要

「在宅医療から多職種連携を考える」とのテーマでグループワーク形式でワークショップを行い、学生自身の学修振り返りを促すとともにフィードバックと評価を充実させた。具体的には、教員が受持ちのグループ単位で、ルーブリック評価により協働力とプレゼン力を評価した。またルーブリック評価により文章力を評価した。これらをポートフォリオ等を用いて学生にフィードバックした。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

専門学習への興味関心がとても高まった。また早期体験学習のための事前学習に積極的に取り組んだ者とどちらかといえば積極的に取り組んだ者がそれぞれ 31%と 46%であり、早期体験学習に対してはそれぞれ 38%と 36%であった。このことから体験学習を意義あるものにするために事前学習は一定の効果があつたと考えられる。

他の者と協力して取り組む際の留意点を良く理解した者、理解した者がそれぞれ 61%、33%であった。特に他の者と協力してまたは意見を交わしながら発表資料を作製していく上で、コミュニケーション能力の重要性を再認識している者が非常に多かった。

（教員）

学生へのフィードバックが前提の講義であり、教員の準備に対する意識に変革が認められた。また、層の学修効果を上げるために、到達目標の設定と明確な基準説明の必要性を再認識させられた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営，その他について）

指導にあたった教員からは、どうすればよいか分からないという意見が一部にあつた。指導教員にこのプログラムの趣旨を十分に事前説明する必要がある。

文章力とプレゼン力に関して、より多くの機会を提供する必要があると考えられる。学生の本取り組みに対する理解と共に教員の理解が遅れている感がある。教員に対しての教育・研修も必要であると考えられる。

今後テーマ設定の検討は非常に重要であると考えられる。教員に対してのアクティブラーニングに対する理解促進のために、担当コーディネーターを固定せずに、できるだけ多くの異なる教員が携わるように体制を整備していく。

④医学部保健学科「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

医学部保健学科 AP 実施専門委員会委員 香川典子

1. 取組概要

医学部保健学科は3専攻からなり、大学入門講座は保健学科として実施するプログラムと専攻別に実施するプログラムがある。「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」も同様な体制で実施した。

保健学科は従来から大学入門講座を充実させているが、「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の導入を機に、①事前学習や振り返りを取り入れることによって、従来行っている内容をアクティブ・ラーニング入門に沿うように充実させ変更する ②新規の授業を行うの2点を実施した。具体的には①として、「先輩からのメッセージ」による早期（疑似）体験、レポートの書き方指導等を入学式前後に行い、学修設計を促し、目的意識を明瞭にして大学生活をスタートさせると同時に、反転コンテンツの視聴やレポート提出を課し予習復習といった学習の基本的習慣を身につけさせた。蔵本地区全学部で行っている「チーム医療入門」でも事前学習、振り返りを取り入れるとともに、教員の授業振り返りを促しティーチングスキル向上をはかった。②としては新入生研修にワークショップを半日実施し、協働力やプレゼンテーション力を養う契機とした。また、専攻別プログラムで、看護学専攻は「先輩からのメッセージⅡ」、放射線技術科学専攻で「短期研究室体験」、検査技術科学専攻で「大学院のすすめ」を実施し、新入生が大学における学修について理解するとともに専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、大学での学修・研究に対する動機づけを行った。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）「SIH 道場」は必修科目であり、出席率はほぼ100%で、教員からの指導によるが事前学習はほぼ全員が行っており、全員レポート提出した。学生からはおおむね良かったとする意見であった。

（教員）授業コーディネーター、授業担当者を対象に実施された説明会を受講し、授業を設計し、実施、振り返ることで、これまで教員が行っていなかった教育方法を学ぶことが出来た。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

授業実施初年度であったため、若干準備時間不足で学生への予定提示が遅くなり、学生から「事前学習の指示が遅い」「夏休みの予定が狂った」などの意見が寄せられた。一方で「もっと回数を増やしてほしい」や「もっと詳しくしてほしい」なども意見があった。プログラムとして新規のものを始めるのではなく、現行のものをブラッシュアップして次年度実施するのがよいのではないかとと思われる。

「SIH 道場」が必修科目であること、教員の指導がある点などからすれば「アクティブ類似」ラーニング体験をした学生が、真の意味の「アクティブ」ラーニングができるようになることが最大の課題である。

⑤歯学部「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

歯学部 AP 実施専門委員会委員 日野出大輔

1. 取組概要

歯学部ではアクティブ・ラーニング導入授業として以下の授業設定を行い、それぞれをオムニバス形式にて教員が分担して遂行した。

①体験学習（気づきの体験学習，相互歯磨き学習），②-1：文章力（アカデミック・ライティング入門，読書レポート関連授業），②-2：プレゼン力（歯学科「PBL・TBL入門」，口腔保健学科「高齢者交流学习（事前授業）」），②-3：協働力（新入生研修（ワールドカフェ等））。なお，協働力には医歯薬学部合同の「チーム医療入門」を含めた。

別紙に各授業の写真・資料を示す。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

- ・①体験学習の到達目標は，基本的マナー，コミュニケーション力，ホスピタリティ・マインドの理解・修得であり，e-ポートフォリオを用いた振り返りにおいて，多くの学生はコミュニケーションの重要性に加えて，歯科医療を担う学生としての心構え（挨拶や相手の立場に立って考える）を認識していたことから初年次教育として有用であると考えられた。
- ・②-1：文章力では，事前の課題レポート内容に対してアカデミック・ライティングにふさわしい文章となるよう担当教員がフィードバックを行ない，学生は重要ポイントを各自で確認した。更に課題図書の見書レポートにも担任教員等がコメントを記載して返却し，学生はコメントを確認して各自の自己評価内容を再度提出する授業を実施した。学生コメントに，文章の組み立て方，書き方を学べた等の内容が多く認められたことから，文章力を向上させる実質的な成果が得られたと考えられた。
- ・②-2：プレゼン力：歯学科では PBL・TBL 授業に対し e-ポートフォリオ・レポートにおいて全員が PBL・TBL 授業は有意義であると評価していた。口腔保健学科ではプレゼンテーションに関し，大部分のグループでルーブリック評価が A（良好）であり，学生アンケートにおいても，本事前授業の意義を肯定する内容が多く，学習の成果が認められた。
- ・②-3：協働力では，「他者と協同して1つの課題に取り組むことができる」ことを到達目標としたワークを実施した。学生の e-ポートフォリオからも，話したくない多くの学生同士が協力して課題に取り組んだ姿が確認でき，到達目標への成果が認められた。

（教員）

設計した多くの授業（体験を含む）において，授業の最後に学生に振り返りの時間を設けて e-ポートフォリオ・レポート（または独自のレポート）を課し，教員からのフィードバックも行っており，アクティブ・ラーニングを実践できたことが確認された。また，SIH 道場を担当した大部分の教員はティーチングポートフォリオへ「担当授業への振り返り」を記載していることから，本年度の本プログラムの目的は概ね達成できたと考える。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営，その他について）

歯学部では，概ね良好な結果が得られており，今年度と同様なアクティブ・ラーニング授業を次年度も継続して実施できるよう計画していく。また，新入生研修では，SIH 道場プログラムに組み入れることを念頭に，グループワークに用いる手法，課題設定や準備を行う必要がある。一方，教員へのティーチングポートフォリオを促していくために，AP 実施専門委員会執行部はしっかりと事前研修の準備をして，各学部・学科のコーディネーターに大きな負担のかからない SIH 道場のシステムを構築する必要がある。

⑥薬学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

薬学部 AP 実施専門委員会委員 難波康祐

1. 取組概要

早期体験学習として先輩の講演等を聴講した。また、チーム医療入門に参加し、他学部学生と協働してプレゼンテーションコンテンツを作成し、発表、討議を行った。

以下にその概略を示す。

平成27年4月 9日(木)	9:30~11:45	「薬学の祖を学ぶ～ころざし～」
	13:00~14:00	講演「薬局で働く」
平成27年4月10日(金)	13:00~15:00	講演「薬害について」
平成27年9月30日(火)	13:00~14:20	チーム医療入門「先輩の講演」
	14:30~17:00	チーム医療入門WS

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

1. 入学後早い段階に専門分野に関する講演やDVDを視聴することで、創薬研究者や薬剤師として働くことの具体的なイメージを形づくることができた。
2. チーム医療入門のレビュー、感想、問題提起、課題解決提案、まとめ等がバランス良く記載されており、全体的に文章構成力の向上が見られた。
3. 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けができた。
4. 医療人を目指す学生として何をすべきか、今後の学生生活で何を学び、修得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通じて、チーム医療の重要性を認識できた。

（教員）

担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」が合格基準を満たしているかについて確認を行い、学生の振り返りに対してコメントをフィードバックした。これらの SIH 道場の作業を通じて、アクティブラーニングに関する正しい理解を得た。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

授業運営に関する改善点について

- ・一部の早期体験の実施前に事前学習（「SIH 道場とは」のビデオコンテンツを視聴する）をさせることができなかった。
- ・早期体験においてもレポート課題を課すなどして、文章力を向上させる機会を設ける。
- ・プロダクト作成に協働して取り組んだ学生からループバック評価してもらおう等の相互評価システムの構築。医歯薬合同で次年度に向けて議論する。

⑦工学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

工学部 AP 実施専門委員会委員 右手浩一

1. 取組概要

工学部全体の新生（昼・夜間主とも）に対して例年4月初旬に実施している「大学入門講座・オリエンテーション」と、工学部7学科が例年、個別に実施している初年次教育科目（「建設基礎セミナー」、「機械基礎実習」、「化学応用工学基礎」など）を組み合わせ、SIH 道場プログラムを設計・実施した。前者では、「大学における学修」に関する400字程度の作文を隣席の学生と交換させてルーブリックで相互採点させるなどの新しい取組を行った。後者では、少人数グループで「協同力」、「プレゼン力」、「文章力」の養成に向けたプログラムの実施と、「振り返り」、「ルーブリック評価」、一部では「e-ポートフォリオ」を利用した取組を行った。学外研修でもアクティブラーニングの方法を一部取り入れた。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

グループごとに設定した課題の成果発表に向けた準備を行い、制限時間内に効果的なプレゼンテーションと質疑応答を行う機会は、多くの新生にとって初めての経験であり、緊張感を持って積極的に取り組めた。また、所属学科の各研究室にグループで毎週通うことにより、専門分野を早期に体験してモチベーションを高め、協力して一つのテーマに取り組む協働力を養成できた。

（教員）

反転授業やルーブリック評価、振り返り、e-ポートフォリオなどアクティブ・ラーニングの手法や考え方を知り、SIH 道場のプログラムでの実施を通じてその有効性や課題点を実感する機会が得られた。SIH 道場以外の専門科目教育に対するFD活動にもなった。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

昨年11月から準備をスタートし、例年の新生関連行事や初年次カリキュラム等の制約の中で年度末にプログラム設計を行う担当教員の負担は大きかった。結果的には、ほとんどの工学部教員がSIH 道場に関与し、試行錯誤の末に初年度プログラムを無事実施できたのは評価に値する。終了後に実施したアンケートにおける学生の満足度は概して高かった。

一方、教員側の感想としては、個々の学科で毎年改善しながら実施してきた初年次教育プログラムが既にアクティブ・ラーニングの要素を含んでおり、ルーブリック評価表、e-ポートフォリオなど、新しいツールの利用とその効果に懐疑的なコメントが多かった。文章力の養成と評価は昨今の大学教育における中心的課題であるが、新生対象のSIH 道場でそこまで期待するのは荷が重いように思われる。

理工学部への改組後初年次となる来年度において、履修コースが確定していない新生に適切なSIH 道場を実施することは重要である。今年度以上に丁寧な指導が必要になる。

4. SIH 道場の実施支援に関する取組

4-1. SIH 道場の授業設計および実施に係る支援

1) 概要

平成 27 年度の「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」開始に際して、各学部・学科での授業（プログラム）設計および授業実施支援のため、平成 26 年度から、総合教育センター教育改革推進部門を中心に、同センターの ICT 活用教育部門、これら部門のメンバーを含む SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが活動を開始した。支援内容は、大きく次の 5 つである。①授業設計のサンプルの提示、授業設計コーディネーターに対するキックオフミーティングの実施、②授業に必要な教材コンテンツの作成、③授業計画・実施中の随時個別相談対応、④授業担当者に対する説明会・FD の実施、⑤授業改善に向けた評価の支援。これらの詳細について以下に述べる。

2) ①SIH 道場授業設計に関する支援

SIH 道場は、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、③学修の振り返りの三つを必須要素とし、これらを組み込んだプログラム設計を各学部・学科単位で行う（平成 27 年度は 15 プログラムが展開）。各学部・学科の SIH 道場の授業設計は、プログラム単位で 1 名以上選出された「授業設計コーディネーター」（以下、コーディネーター）が担っている。アクティブ・ラーニング型授業の設計（目的・目標・スケジュール・教材・評価等、シラバスの作成）および授業担当者の選定などの実施準備を行う。

コーディネーターは、SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業の概要を「必須項目設計表」に示し、詳細な授業展開を「授業詳細表」において明確にし、これらを担当する教員を「担当者リスト」に記載し提出することになっている。教育改革推進部門は、コーディネーターがこれらの作成をスムーズに行えるように、「必須項目設計表」と「授業詳細表」のサンプルや実施の方法やポイントを記した資料を作成している。次年度の SIH 道場の授業設計の開始にあたって、コーディネーターを対象に、「SIH 道場キックオフミーティング」を開催し、部門教員が SIH 道場の目的、三つの必須要素を説明し、授業設計・授業設計については「授業概要表」サンプル、「授業詳細表」サンプルや授業方法の資料を示しながらポイントを解説している。

加えて、Moodle 上に、「平成 27 年度 SIH 道場コーディネーター準備コース」を作成し、SIH 道場プログラム全ての「必須項目設計表」と「授業詳細表」だけでなく、授業で使用可能な教材コンテンツ等も掲載している。

3) ②授業で使用可能な教材コンテンツの作成

SIH 道場のプログラムをそれぞれの学部・学科で実施するための支援として、学生用テキスト、反転授業のビデオ教材、ループリック、e ポートフォリオ等の各種教材コンテンツを作成し、提供している。これらの作成は、総合教育センター教育改革推進部門の教員に加えて、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループの教員が担当している。これらの詳細を以下で述べる。

3.1) 学生対象テキスト教材

SIH 道場の学生用教材として、テキストを作成している。内容は、SIH 道場の概要と目的、大学での学修のポイント、体験学習、ラーニングスキル、学修の振り返りの要点と解説である。簡単なブックガイドを付すことで、学生が興味関心を広げられるようにしている。本テキストは、SIH 道場を受講する1年次生全員に配布すると共に、授業担当教員を含む全ての教員に配布している。また、テキストPDFを大学ウェブページで公開している（平成27年度版テキストURL：http://www.tokushima-u.ac.jp/_files/00227520/270514_h27activelearningspace.pdf）。なお、本テキストは年度ごとに内容の見直しを行うことを予定しており、平成27年度においては、平成28年度版SIH道場テキストの改訂を行った。

3.2) 反転授業のビデオ教材の作成

反転授業用のビデオ教材として、SIH 道場の概要および三つのラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）について、事前学習で使用できるビデオ教材を作成している。また、ビデオ視聴後のクイズ（確認テスト）、参考文献リストも作成し、Moodleに掲載している。コーディネーターは、これらのビデオ教材を用いた事前学習を組み込んだ授業設計を行うことができる。

3-1. SIH道場<文章力> 反転授業コンテンツサンプル

※サンプルコンテンツは、自由にご使用ください。
ループブックは適宜修正・加筆してください。ビデオコンテンツは観点ごとに使用できます。学生配布用のサンプル教材も作成を行います。

★ループブック評価表

 SIH道場<文章力>ループブックサンプル_2015.2.11

★ビデオコンテンツ（事前学習） ビデオコンテンツはループブック表の観点と対応しています。

-  主張の根拠付け
-  構成の明快さ
-  文章表現の適切さ
-  出典表示など

★クイズ（ビデオ視聴後の確認テスト）

- 主張の根拠づけ
- 構成の明快さ
- 文章表現
- 出典表示など

★参考文献リスト（学生の学習を促進するために）

 文章力についてさらに学修するための参考文献リスト

3.3) ループブック評価表

ループブックは、評価の観点と基準を示した表であり、SIH 道場においては、学生の学修成果を評価する際に、ループブックを使用することを推奨している。ループブックは、教員が学生のラーニングスキルを評価したり、学生同士でピア評価をさせたり、学生自身で自己評価する際に用いることができる。現在は、サンプルループブックとして、ラーニングスキルの三つ（「文章力」

「プレゼンテーション力」「協働力」を作成し、SIH 道場テキストに収録し学生に示している他、反転授業のビデオ教材と共に Moodle 上にも掲載している（反転ビデオは、それぞれのラーニングスキルの観点に沿った内容となっている）。教員は、サンプルルブリックの電子ファイルをダウンロードし、適宜修正や加筆の上使用することもできる。サンプルルブリックについては、年度ごとに内容を見直し、修正を行う予定である。なお、平成 28 年度の SIH 道場に向けて、新たに「体験学習＜専門分野の早期体験＞」と「学修の振り返り」の二つルブリックを作成した。

3.4) e ポートフォリオ上での教員の振り返り

SIH 道場は、アクティブ・ラーニングを用いた授業を実践しながら教員が手法を学ぶという OJT 型 FD の場でもある。SIH 道場終了後に、授業を担当した教員は、e ポートフォリオ (Mahara) 上で、身につけたアクティブ・ラーニングの手法を担当する他の授業でどのように取り入れられるか等を省察しながら振り返りを記述する。そのため、授業担当教員が振り返りを行う際のテンプレートと記入例を作成し提供した。

徳島大学
Tokushima University

ダッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ

テンプレート テンプレートをコピーしてページを作成する 戻る

★は必須、◆はオプションの入力項目です。赤字は補足説明ですので、適宜削除してください。

0. 授業概要

★授業名:
◆担当教員名(複数で授業を担当している場合):
★対象者(学部・学科・年次・人数):
★授業概要:
◆シラバス(PDFファイル等をアップロード):

1. 授業の方法

★授業の方法(毎回の授業で行ったこと、授業で特に工夫したこと、それはなぜか等を入力してください。添付のアクティブ・ラーニングヒント集を参照し、アクティブ・ラーニングを実践できたかにも触れてください。)

添付ファイル 1

2. 授業の評価

★授業の評価(どのような評価を行ったか、学生の学習成果の観点から効果があったと考えられること(何)か、それはなぜか等を入力してください)

◆学生の成果物(エビデンスとして、代表的な学生の成果物などをアップロードしてください)

3. 授業の振り返り

★この授業を振り返って取捨したいことと取捨しないことを入力してください。
※次年度担当しない場合は、担当する教員へのアドバイスを想定して記入して下さい。

取捨したいこと:
改善したいこと:

4. 今後のアクションプラン

★この授業の実践を踏まえ、自身の専門科目の授業や教育活動全般に関わるアクションプランを入力してください。

すぐに(1か月以内)に実施すること:
今年度中(おおむね1年以内)に実施すること:
3年以内(3年以内)に実施すること:

5. その他の参考資料

◆授業で使用した資料やワークシート等(何でもファイル等をアップロード)

4) ③授業計画・実施中の随時個別相談対応

コーディネーターが、SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ「必須項目設計表」、「授業詳細表」を作成する際には、教育改革推進部門が窓口となり相談を随時受け付けている。とくに、平成 27 年度は開始年度であったため、SIH 道場の趣旨や学生の到達目標、目標に到達できるような授業設計をどのように行うか等について詳細な説明が必要となった。また、実施前の準備期間だけでなく、実施中においても、学生の学修の振り返りに使用する e ポートフォリオの使用方法など、授業を行う上で寄せられた疑問点について回答を行った。

5) ④授業担当者に対する説明会・FDの実施

5.1) 概要

目的：

平成27年度SIH道場授業担当者が大学教育再生加速プログラムの概要、当該学科のSIH道場の詳細について理解し、SIH道場の授業を担当するために必要な知識と技能を習得する。また、OJT型のFDとして、授業実施から振り返りまでのプロセスを理解し、実践できるようになる。

対象者：SIH道場授業設計コーディネーター、SIH道場授業担当者等

開催日時・場所：

※ 参加対象者は計6回のうちいずれか1回参加する

場所	常三島キャンパス 共通教育6号館6-201教室	蔵本キャンパス 藤井節郎記念医科学センター2階多目的室3
第1回	3月1日(火) 10:00~12:00	3月2日(水) 15:00~17:00
第2回	3月7日(月) 15:00~17:00	3月10日(木) 10:00~12:00
第3回	3月16日(水) 17:00~19:00	3月18日(金) 17:00~19:00

プログラム：

時間	内容	詳細項目	担当者
5分	挨拶・導入	①大学教育再生加速プログラムの概略	赤池雅史
10分	SIH道場の概要	①目的・概要 ②スケジュール(設計→実施→振り返り)	吉田 博 久保田祐歌
25分	eポートフォリオシステム	①システムの概要 ②学生の利用の仕方 ③教員の利用の仕方	金西計英
20分	アクティブ・ラーニングの理論と効果やその評価	①アクティブ・ラーニングとは(定義等) ②Deep Learning とSurface Learning ③ルーブリック評価法	川野卓二
30分	アクティブ・ラーニングの実践	①アクティブ・ラーニングの実践と体験	川瀬和也
30分	<学科別SIH道場の詳細> (学科別にグループを作成し、個別に進行する。)	①当該学科の授業概要 (授業の流れ、担当者、教材の説明等) ②授業担当者の役割(仕事内容、学生指導) ③コーディネーター、授業担当者間の情報等の共有	吉田 博 久保田祐歌 川野卓二 川瀬和也 宮田政徳

主催：大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

5.2) 詳細

「挨拶・導入」では、赤池教育改革推進部門長より「徳島大学大学教育再生加速プログラムの概略」についての説明があった。

「SIH 道場の概要」では、SIH 道場の目標、内容、実施体制、授業設計の必須項目および担当者、教育改革推進部門の提供する支援内容について説明を行った。さらに、SIH 道場の改善に向けた評価として、学生アンケートの実施やコーディネーターが行うプログラム設計評価シートによる振り返り等について説明を行った。

「e ポートフォリオシステム」では、学生および教員が授業で学んだ内容や授業実践について振り返りを行うための学生のツールである e ポートフォリオの使用法について説明を行った。

「アクティブ・ラーニングの理論と効果やその評価」では、アクティブ・ラーニングの定義、Deep Learning と Surface Learning の違い、ルーブリックによる評価法について説明を行った。

「アクティブ・ラーニングの実践」では、アクティブ・ラーニングの手法である Think-Pair-Share やラウンド・ロビンについて参加者が体験しながら身につけられるようなグループワークを実施した。

6) ⑤授業改善に向けた評価の支援

SIH 道場の授業改善、プログラム改善に向けて、大学教育再生加速プログラム (AP) 実施専門委員会で策定された評価指標に基づき、学生と教員の目標到達度を把握するためのアンケートを作成し、実施結果の集計およびとりまとめを行っている。また、授業設計コーディネーターが、学生の学修成果やアンケートの集計結果を参照し、設計したプログラムが学生の学修や研究への意欲を高めるものだったか、ラーニングスキルが修得できるものであったか、学修の振り返りができるものであったかを振り返りための「プログラム設計評価シート」を作成している。加えて、AP 実施専門委員会主催の「SIH 道場振り返りシンポジウム」の企画および運営を行い、平成 27 年度の各学部・学科の SIH 道場の内容や課題を全学的に共有する機会を設定している。その他、SIH 道場に関する評価・改善ワーキンググループの学生委員へのインタビュー調査を行い、平成 27 年度の SIH 道場の良い点・改善点のとりまとめを行い、SIH 道場のプログラム改善や AP 事業の自己評価の資料として提供している。

4-2. eポートフォリオシステムの構築

1) 概要

1.1) システム概要

2015年4月よりeポートフォリオシステム「Mahara (マハラ) ⁽¹⁾」の運用を開始した。図 1.1 にトップページを示す。Mahara は世界中で利用されているオープンソースのeポートフォリオシステムである。本学用のカスタマイズとして、後述する「飛ぶノート」システムとの連携機能、「テンプレート機能」を追加したが、この2点以外の仕様変更はなく、標準的な Mahara となっている。徳島大学の全学生および全教職員は、統合認証経由でいつでも Mahara にアクセス可能である。

Mahara は様々な使い方が出来る汎用的なeポートフォリオシステムであるが、成果物の蓄積、活動の振り返りレポートの作成、外部への自己PRページの作成を得意とする。導入初年度である2015年度は、学生は主にSIH道場のレポート等の成果物の蓄積、SIH道場担当教員は主に授業実践の振り返りレポートの作成を行うことを狙った。



図 1.1 Mahara トップページ (ログイン後)

1.2) 飛ぶノート

飛ぶノートは、スキャナなどでPDFファイルに変換した手書きファイルをMaharaサーバの各学生ページや教員が作成したグループページに転送するツールである。飛ぶノートとMaharaサーバの図 1.2.1 のような連携をする。教員は担当授業で学生に課したマークシート付き手書きレポートを集め、必要に応じてコメントを書いた後、紙ファイルをスキャナでPDFファイルに変換する。その後、PCのブラウザソフトを起動して「飛ぶノート」(図 1.2.2)へアクセスし、

PDF ファイルをアップロードする。あとは飛ぶノートシステムがレポート上部のマークシートから学籍番号を読み取り、Mahara サーバの学生ごとのファイル保存領域へファイルを自動保存する。学生は各自で Mahara へアクセスし、教員から返却されたレポートを確認する（図 1.2.3）。

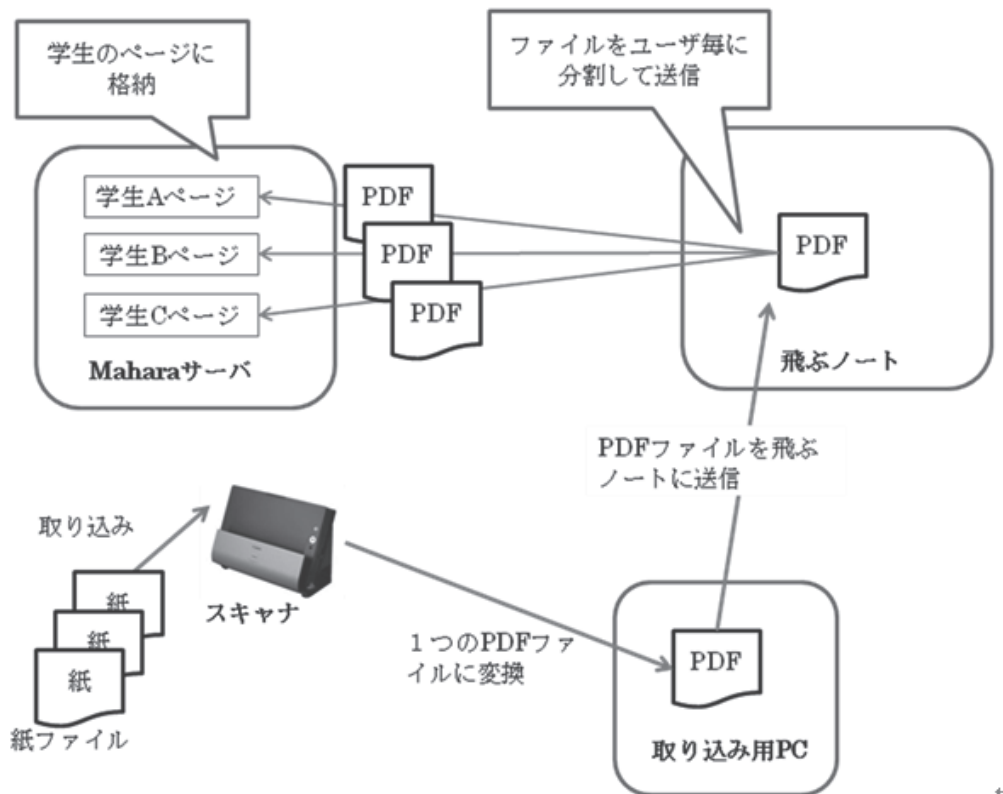


図 1.2.1 飛ぶノートーMahara 連携図（飛ぶノート利用マニュアル⁽²⁾ p.2）

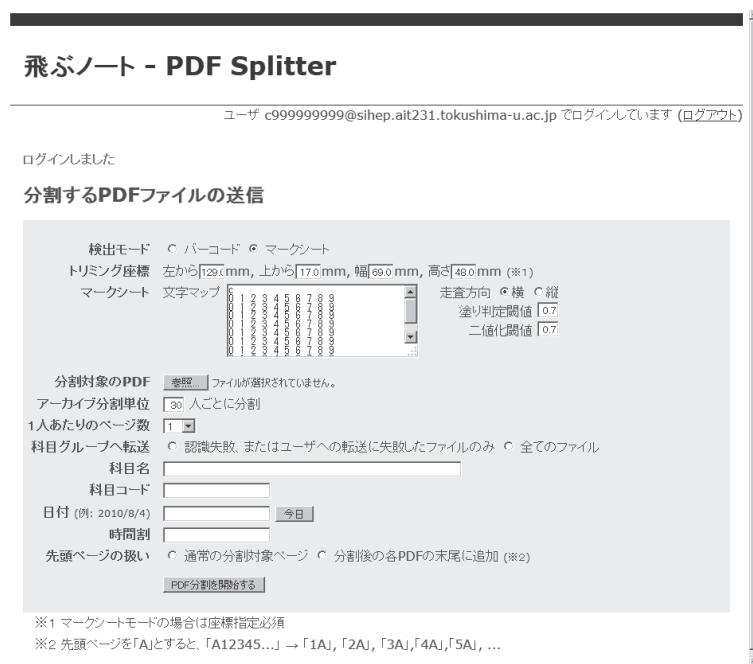


図 1.2.2 飛ぶノート PDF ファイルアップロード設定画面（飛ぶノート利用マニュアル⁽²⁾ p.9）

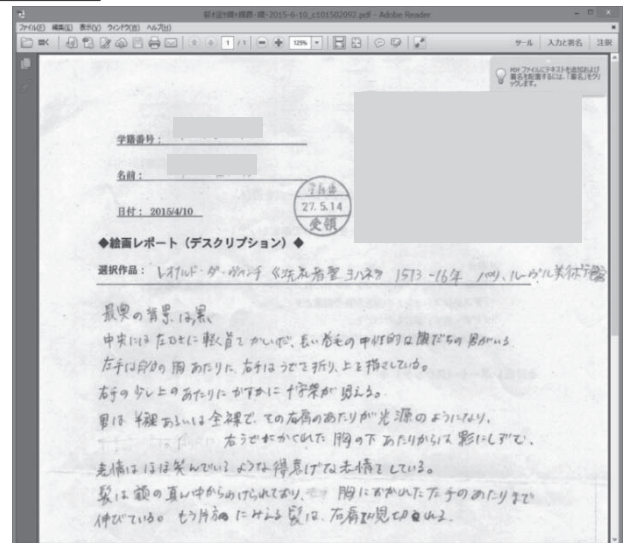


図 1.2.3 Mahara へアップロードされた手書きレポートの例

1.3) テンプレート

Mahara は、標準機能として蓄積した学習成果を整理し、振り返りや他者へ PR するページを作成することができる。しかし、振り返りの観点を指定したい場合などは、教員があらかじめ見本となるページを作成し、学生が見本をコピーして一部を書き換えるほうが効果的・効率的である。Mahara の標準機能でもページのコピーは可能であるが、その方法が複雑であるため、本学では「テンプレート機能」を追加した。テンプレートを用いれば、あらかじめ用意しておいたテンプレートと言われるページをコピーすることで、複数の利用者が統一したページを作成できる。



図 1.2.3 テンプレート例

2) 利用状況

2.1) 全体

2015 年度前期終了時（2015/10/8 16:00）において、登録ユーザ数は 2409 人、グループ数は 56、ユーザが作成したページ数は 2578 ページであった。その後もユーザ等は増えており、本稿執筆時点（2015/11/16 9:00）のユーザ数は 2441 名、グループ数は 63、ユーザが作成したページ総数は 2962 ページである。

もっとも利用されているのはファイルのアップロード機能で、本稿執筆時点のファイル総数は 3009 となっている。ファイルアップロード機能は、ファイル名から SIH 道場のレポート等の蓄積に利用されていると思われる。

7 日間ごとのファイル総数の推移を図 2.1.1 に示す。6 月中旬ごろからファイル数が増えていることがわかった。

なお、アップロードされたファイルのうち、「飛ぶノート」を活用した手書きレポートについては、2015 年 9 月末時点で 2385 ファイルであった（管理者ユーザの利用を除く）。つまり、アップロードされたファイルの約 8 割は手書きレポートだと言える。

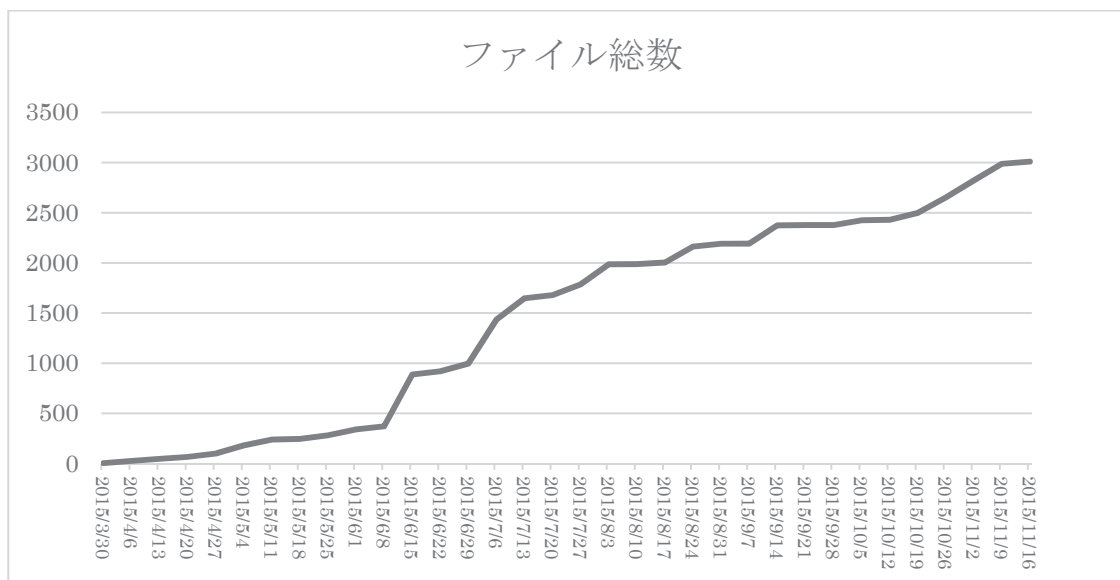


図 2.1.1 ファイル総数の推移（7 日間ごと）

また、プロフィールページ（自己紹介ページ）やグループページ等を除いた、個人が独自に作成したページ総数は本稿執筆時点で 486 ページとなっている。7 日間ごとのページ総数の推移を図 2.1.2 に示す。ファイル数と同様に、6 月中旬ごろからページ数が増えている。

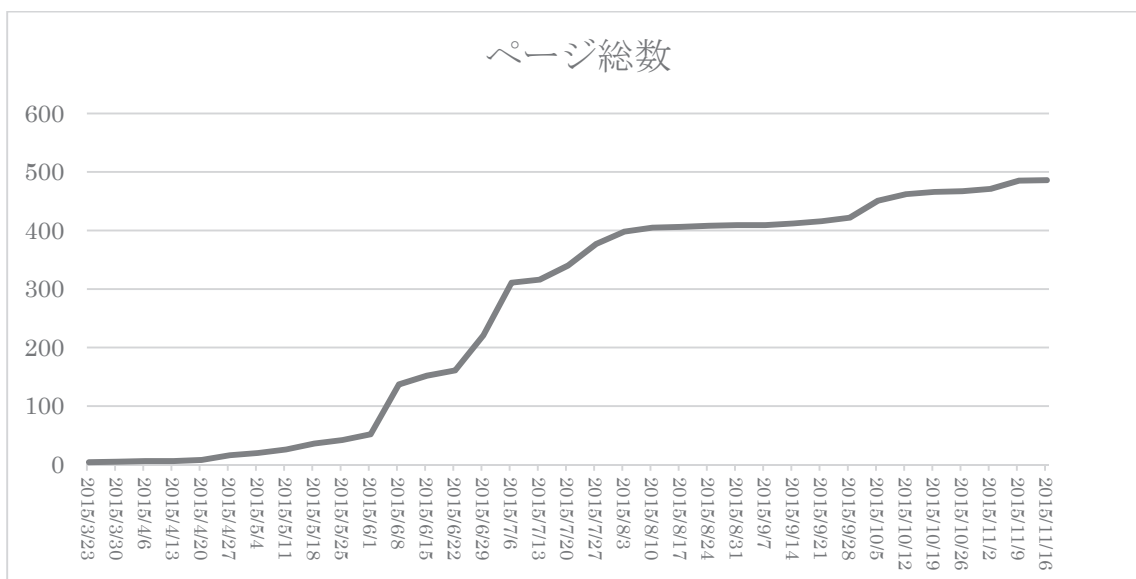


図 2.1.2 ポートフォリオページ総数の推移 (7日間ごと)

さらに、Mahara では個人が作ったページなどは他者へ公開設定をすることで、閲覧者からコメントをもらうことが可能となる。現時点のコメント総数は 323 件であった。7日間ごとのコメント総数の推移を図 2.1.3 に示す。7月下旬からコメントが一気に増えたことが伺える。

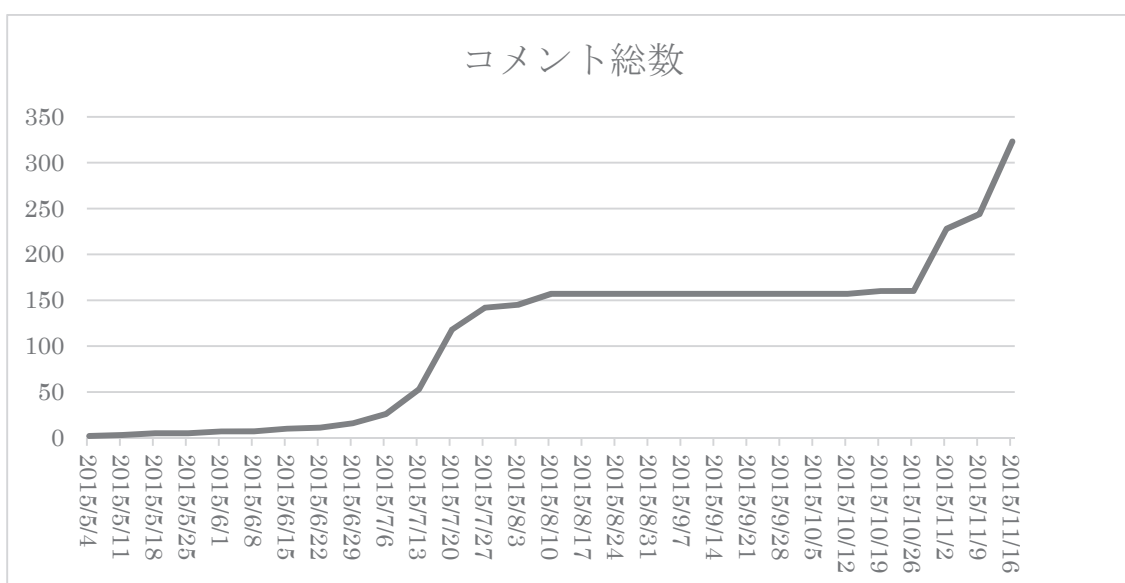


図 2.1.3 コメント総数の推移 (7日間ごと)

2.2) 学生による利用状況

学生による利用は、成果物のアップロードが主なものであった。Mahara とともに導入した「飛ぶノート」を用いた手書きレポート (図 1.2.3) や、PDF ファイル、PowerPoint ファイル (図 2.2.1) などが Mahara へアップロードされていた。

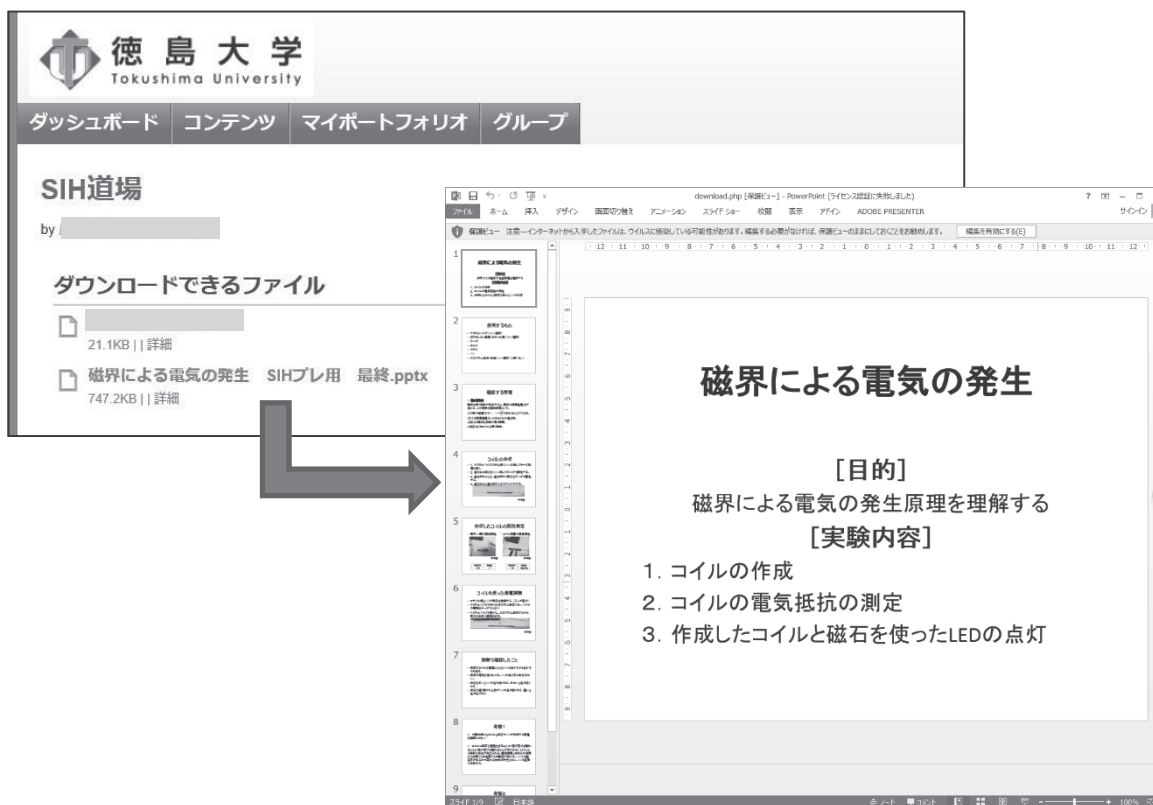


図 2.2.1 PowerPoint ファイルの例

2.3) 教員による利用状況

SIH 道場は、授業を実践する教員にとっての OJT 型の FD 活動という側面もある。すなわち、SIH 道場の授業担当を通して、ティーチング・スキルを修得していくことを目指している。

そこで 2015 年度は SIH 道場担当教員を対象に、授業の振り返りを行うためのテンプレートを用意した（図 2.3.1）。教員は担当授業終了後、テンプレートをコピーして、記入のヒントなどを参考に授業を振り返るページを作成してもらうこととした。2015 年 10 月 13 日が作成期限で、期限内に作成した教員は、担当教員約 180 名中 70 名であった。作成例および作成されたページに対するフィードバック例を図 2.3.2 に示す。教員の振り返りレポートは、「2015SIH 道場担当教員」というグループ内で公開し、授業担当教員同士で閲覧可能とした。



図 2.3.1 教員用テンプレート

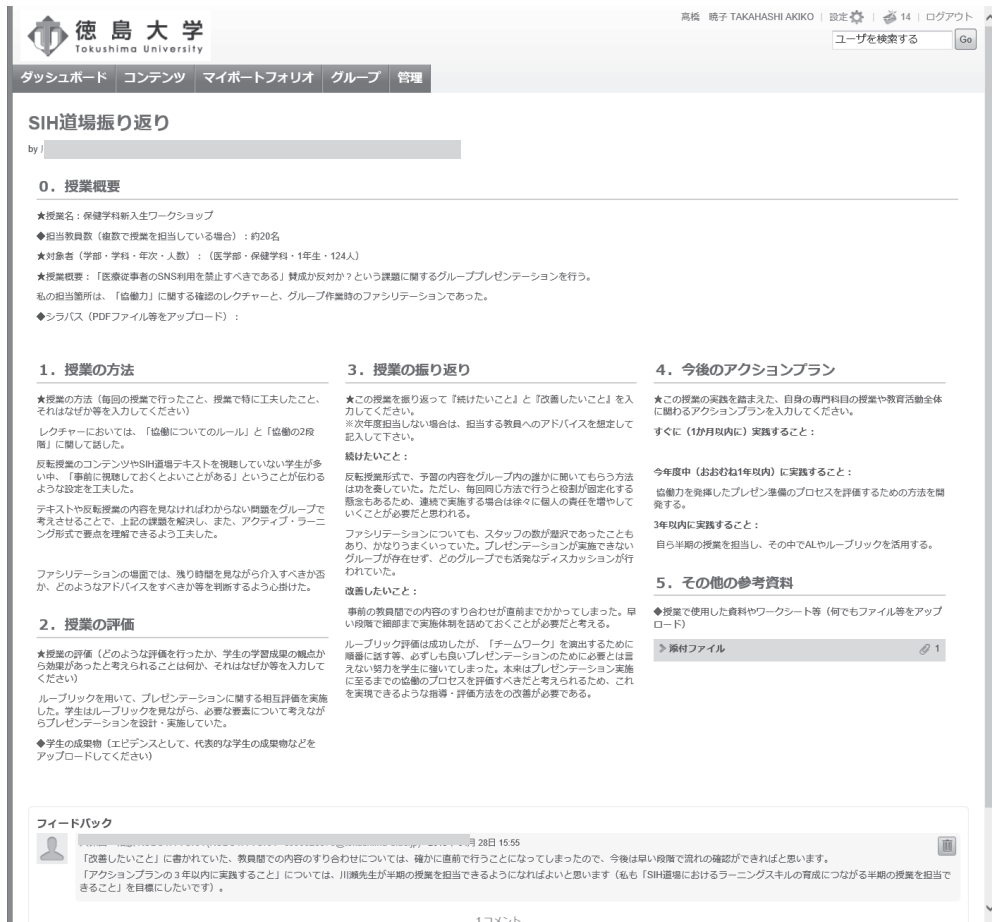


図 2.3.2 教員の振り返りレポート例

2.4) その他の利用

Mahara には SIH 道場以外にも、授業のページ (図 2.4.1) やゼミのグループ (図 2.4.2) がいくつ作成されていた。図 2.1.3 に示したように、SIH 道場の実施時期からずれた7月上旬というタイミングでコメント数が伸びているのは、SIH 道場とは異なる教育場面で Mahara が活用されていることも要因の一つと思われる。

The screenshot shows a Mahara course page for '2015年度 博物館情報・メディア論' (2015 Academic Year Museum Information & Media Studies). The page is titled '授業のトップページ' (Course Home Page) and includes a navigation menu with 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', and 'グループ'. The main content area is divided into several sections:

- はじめに** (Introduction): A welcome message from the instructor, Kanenishi Kazuhide, explaining the course's purpose and encouraging participation.
- ファイルの提出** (File Submission): Instructions on how to upload files to the course page.
- 金西からの資料配付用** (Materials from Kanenishi): A section for distributing materials, with a table listing files like 'h26_text.pdf'.
- 第1回課題(5月18日発表)** (1st Assignment): Information about the first assignment, including a list of files to be reviewed.
- 第2回課題 (5月25日発表)** (2nd Assignment): Information about the second assignment, including a list of files to be reviewed.

図 2.4.1 授業ページ例 (博物館情報・メディア論)

The screenshot shows a Mahara group page for a seminar. The page is titled 'ゼミ' (Seminar) and includes a navigation menu with 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', 'グループ', and '管理'. The main content area is divided into several sections:

- About**: Information about the group, including a description and the date of creation (2015年 06月 06日).
- メンバー** (Members): A list of group members, currently showing 1 member.
- マイグループ** (My Group): A list of group members and their roles, including '高橋 暁子 TAKAHASHI AKIKO' as the manager.

図 2.4.2 ゼミグループ例

3) まとめと今後の課題

2015年度においては、Mahara 登録ユーザ数は2千名を超え、ユーザが作成したページ総数は約3千ページとなっていた。内容としては、授業の成果物（レポート等）のアップロードや、授業の振り返りページの作成といった活動が確認でき、導入初年度としては活発に利用されたと言える。また、SIH 道場以外の利用も確認できたことから、今後、SIH 道場での利用をきっかけとして、専門科目等での授業で Mahara が利用されることも期待できる。

一方で、一部のヘビーユーザの利用にとどまっている可能性は否定できない。より広く全学的に利用してもらえるように、2015年度の Mahara 実践例の紹介や、ICT が苦手な教職員に対する個別相談会の実施などを拡充していく必要がある。

参考文献

- (1) Mahara, <https://mahara.org/>
- (2) 飛ぶノート利用マニュアル 3.0 版 (2015) ,
<https://moo.chi.tokushima-u.ac.jp/course/view.php?id=190> (教職員限定ページで公開)